

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成29年度の取組実績と平成30年度の取組予定

### 基本戦略1:多様な人材が活躍できる農業経営の実現

#### 戦略分野1:人材の育成・確保

- (1) 新たな担い手育成確保支援プロジェクト P1  
 (2) 輝くアグリウーマン育成プロジェクト P3  
 (3) 農業労働力確保プロジェクト P5

#### 戦略分野2:経営体育成

- (1) 農業トップランナー育成・発展プロジェクト P8  
 (2) 農業経営力向上支援プロジェクト P9  
 (3) 農業者ネットワーク化支援プロジェクト P11  
 (4) 担い手農地集積・集約化促進プロジェクト P12  
 (5) 農業情報発信力強化プロジェクト P13  
 (6) 農業経営セーフティネット強化プロジェクト P14  
 (7) スマート農業普及拡大プロジェクト P15

#### 戦略分野3:地域活性化

- (1) 中山間地域持続的農地保全推進プロジェクト P17  
 (2) 中山間地域農業・農村活性化プロジェクト P18  
 (3) 元気な地域づくり支援プロジェクト P19  
 (4) 鳥獣被害防止対策プロジェクト P21  
 (5) 再生可能エネルギー導入推進プロジェクト P22

### 基本戦略2:水田農業の収益性の向上

#### 戦略分野1:土地利用型作物

- (1) 県産米ブランド化戦略プロジェクト P25  
 (2) 需要に応じた米生産対策推進プロジェクト P28  
 (3) 県産大豆評価向上・安定生産プロジェクト P29  
 (4) 県産そばブランド化推進プロジェクト P31

#### 戦略分野2:生産基盤

- (1) 水田農業低コスト化基盤整備促進プロジェクト P33  
 (2) 農村インフラ機能保全プロジェクト P34

### 基本戦略3:「園芸大国やまがた」の実現

#### 戦略分野1:果樹

- (1) 山形さくらんぼ世界一ブランド強化プロジェクト P35  
 (2) 西洋なし産地ブランド強化プロジェクト P38  
 (3) りんご産地生産力強化プロジェクト P39

- (4) ぶどう産地活性化プロジェクト P40  
 (5) 「北の桃源郷」もも産地拡大プロジェクト P42  
 (6) 特産果樹産地強化プロジェクト P43

#### 戦略分野2:野菜

- (1) 山形えだまめ・すいか日本一産地化プロジェクト P45  
 (2) 野菜産地ランクアッププロジェクト P46  
 (3) やまがた野菜産地再生プロジェクト P48  
 (4) やまがた次世代型施設園芸推進プロジェクト P50

#### 戦略分野3:花き

- (1) 露地花き産地拡大プロジェクト P52  
 (2) 施設花き生産性向上プロジェクト P54

#### 戦略分野4:園芸産地の基盤強化

- (1) 園芸作物大規模集積団地推進プロジェクト P56  
 (2) 水田畑地化基盤強化プロジェクト P57

### 基本戦略4:県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

#### 戦略分野1:6次産業化

- (1) 農林漁業者自らの6次産業化プロジェクト P59  
 (2) 農林漁業者と食品製造業者等との連携による6次産業化プロジェクト P61  
 (3) 地域の6次産業化プロジェクト P63  
 (4) 「農」と「食」による観光交流拡大プロジェクト P64  
 (5) 6次産業化推進基盤確立プロジェクト P67

#### 戦略分野2:流通販売・食文化発信

- (1) 「おいしい山形」流通戦略推進プロジェクト P70  
 (2) 県産農産物等販路拡大プロジェクト P72  
 (3) 「山形ブランド」評価向上プロジェクト P74  
 (4) 食育・地産地消県民運動展開プロジェクト P76  
 (5) 県産農産物等輸出拡大プロジェクト P77  
 (6) 輸出基盤対策プロジェクト P80

#### 戦略分野3:環境農業

- (1) エコ農産物生産推進プロジェクト P82  
 (2) 有機農産物生産拡大・ブランド化プロジェクト P83  
 (3) 安全農産物生産推進プロジェクト P84

### 基本戦略5:畜産業の競争力強化

#### 戦略分野1:畜産生産

- (1) 地域で支える畜産クラスター推進プロジェクト P86  
 (2) やまがたの和牛増頭加速化プロジェクト P87  
 (3) 酪農生産性向上・消費拡大プロジェクト P89  
 (4) 県産銘柄豚生産・販路拡大プロジェクト P90  
 (5) 養鶏生産・販路拡大プロジェクト P91  
 (6) やまがた畜産ブランド推進プロジェクト P92

#### 戦略分野2:耕畜連携・自給飼料

- (1) 県産飼料生産拡大プロジェクト P94

### 基本戦略6:「やまがた森林ノミクス」の推進

#### 戦略分野1:人材育成

- (1) 森林ノミクスを支える人材育成・確保プロジェクト P97

#### 戦略分野2:木材生産・加工

- (1) 再造林推進プロジェクト P99  
 (2) 県産木材安定供給プロジェクト P100

#### 戦略分野3:木材利用

- (1) 県産木材率先利用プロジェクト P103  
 (2) 林工連携推進プロジェクト P104

#### 戦略分野4:特用林産

- (1) やまがた山菜・きのこ日本一産地化プロジェクト P106

### 基本戦略7:水産業のさらなる振興

#### 戦略分野1:海面漁業

- (1) 海面漁業生産基盤強化プロジェクト P108  
 (2) 県産水産物付加価値向上推進プロジェクト P109  
 (3) 県産水産物利用拡大プロジェクト P111

#### 戦略分野2:内水面漁業

- (1) 内水面漁業振興プロジェクト P113



## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の実績と平成 30 年度の実績予定

### 基本戦略1: 多様な人材が活躍できる農業経営の実現

#### 戦略分野1: 人材の育成・確保～意欲ある新規就農者の確保・育成と地域農業を支える多様な人材の確保～

[凡例]

・[新]: 新規の取組み

・[拡]: 拡充した取組み(一部新規を含む)

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 新たな担い手育成確保支援プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○地域の実情にあわせた新規就農者の確保・育成のため、就農意欲の喚起から就農定着、経営発展までの各段階に応じたプログラムの実践に取り組むとともに、熟練農業者からの農地と技術の一体的継承や異業種からの農業参入、集落営農の組織化等を推進する。</p> <p><b>【主担当課】</b> 農業経営・担い手支援課 (一部農政企画課)</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者の確保・育成に向けて、やまがた農業支援センターや県立農林大学校などと連携を図り、国の支援策と組み合わせ、動機付け、就農準備、就農定着段階までの各段階に応じたきめ細やかな支援を行った。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者の確保・育成のための動機付けから就農までのきめ細やかな支援により新規就農者は着実に増加している。(H27 調査 280 人 H28 調査 300 人 H29 調査 309 人)</li> <li>産業全体で人手不足が生じていることから、新たな担い手を確保するため、動機付けとなる情報発信の強化が必要である。</li> <li>就農希望者が熟練農業者から農地と技術を一体的に継承するため、今年度から県内8地域で事業を実施しているが、さらなる新規就農者の確保を図るため取組み地域の拡大が必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の実情にあわせた新規就農者の確保・育成のため、就農意欲の喚起から就農定着、経営発展までの各段階に応じたプログラムの実践に取り組むとともに、熟練農業者からの農地と技術の一体的継承や異業種からの農業参入、集落営農の組織化等を推進していく。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の実績及び平成 30 年度の実績予定の内容</p> <p>i) 農業経営に係る成功事例の情報発信の強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やまがたアグリネットを活用し、農業に関心のある方に広く情報を発信。[新]</li> <li>新・農業人フェア(東京 7/23、仙台 12/2、東京 2/10)、就農相談会(山形 7/23、鶴岡 7/29)、やまがた農業経営塾、各農業技術普及課が主催する研修会などで優良事例集を配付。[新]</li> </ul> </div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やまがたアグリネットを活用し、農業に関心のある方に広く情報を発信。</li> <li>新・農業人フェア(首都圏開催)、就農相談会、やまがた農業経営塾、各農業技術普及課が主催する研修会などでの優良事例集の配付。</li> </ul> </div> <p>ii) 新規就農者の確保・育成対策</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やまがた農業支援センターへワンストップ相談窓口を設置。</li> <li>アグリインターンシップ(バスツアー7/30、短期体験 58 名)により農業体験研修を実施。</li> <li>新・農業人フェアへの参加。 〔東京(7/23) 県内参加団体 12 団体、相談件数 183 件 〔仙台(12/2) 県内参加団体 12 団体、相談件数 89 件</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b> 新規就農者数 (4年間の累計)</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> 1,095 人 (H24～27 年度累計)</p> <p><b>【直近】</b> (参考)H28 309 人</p> <p><b>【目標値】</b> H32:1,400 人 (H29～32 年度累計)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者確保・育成支援事業費</li> <li>独立就農総合支援事業費</li> <li>地域の経営基盤と技術の継承支援事業費</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山形県農業再生協議会(担い手部会)</li> <li>農業研修生受入協議会</li> </ul>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>[東京(2/10)] 県内参加団体 19 団体、相談件数 209 件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者向けのパンフレットを作成(3,000 部)し、関係機関への配付や相談対応で活用。</li> <li>・農林大学校・農業支援センターの研修生を対象とした新規就農支援策の説明会を実施(7/23、8/25)</li> <li>・国の農業次世代人材投資資金(準備型、経営開始型)や県独自の独立就農者育成研修事業及び独立就農者定着支援事業等による新規就農者の就農準備と定着を支援。</li> <li>・45 歳以上の新規就農予定者に対する研修を受け入れる農業者に対する助成や、新規就農者に対する就農定着のための助成、アドバイザー派遣にかかる経費等の助成を県独自で実施。</li> <li>・農業用機械等に対する助成事業による支援。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた農業支援センターへのワンストップ相談窓口の設置。</li> <li>・農業短期体験の実施による動機付けの強化</li> <li>・新・農業人フェア(首都圏開催)への出展による就農希望者の相談対応。</li> <li>・新規就農者向けのパンフレットを作成し、関係機関への配付や相談対応で活用。</li> <li>・首都圏を中心に、全国の新規就農に興味を持つ人に対するメールマガジンの発信。[新]</li> <li>・シルバー世代などの首都圏在住者に対する、山形県での新規就農を呼びかけるフリーペーパーの配布。[新]</li> <li>・国の農業次世代人材投資資金や県独自事業等による支援。</li> </ul> <p>iii) 農地と技術の一体的継承の推進</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離農を検討している熟練農業者から新規就農者へ農地と技術を一体的かつ円滑に継承するモデル的な取組みを行っている農業研修生受入協議会(農業者、市町村、JA等により組織)等を支援するため、8か所をモデル事業実施か所として決定。[新]</li> <li>※モデル事業実施か所:寒河江市、河北町、朝日町、大江町、村山市、高島町、長井市、鶴岡市</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における遊休農地等を活用した新規就農者への農地等の経営基盤と技術を円滑に継承するためのモデル的な取組みに対する支援を、8か所から 13 か所に拡大して実施。[拡]</li> </ul> <p>iv) 「地域の担い手は地域で育てる」取組みの推進</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寒河江市と高島町の農業研修生受入協議会の活動経費に対する助成。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における遊休農地等を活用した新規就農者への農地等の経営基盤と技術を円滑に継承するためのモデル的な取組みに対する支援を、8か所から 13 か所に拡大して実施。[拡]</li> </ul> <p>v) 農林大学校の新規就農支援</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>(養成部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の複合経営を念頭に、他学科の授業の一部について履修を必須とした。また、就農先確保に向けた農業法人とのマッチング強化を目的に農業法人との就職相談会を3回実施(参加法人は3回で延べ54社、参加学生は延べ123名)</li> <li>興味を持った農業法人に対するインターンシップの実施により継続した就農支援を実施。</li> </ul> <p>(研修部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農支援研修(基礎、実践、マスター)を開講し、就農者確保に向けた研修を実施(受講者:基礎14名、実践10名、マスター3名)</li> <li>新規就農支援研修修了生の就農定着に向けて、大学校研修部の就農研修アドバイザー等が研修修了生を巡回指導し、就農に向けた課題解決のための相談活動を実施。</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <p>(養成部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非農家の学生増加に伴い農業法人への就職を促進するため、教養科目に農業法人の紹介や視察を行う雇用就農コースを新設(4コース制:就農コース、雇用就農コース、就職コース、進学コース)</li> </ul> <p>(研修部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農支援研修(基礎、実践、マスター)を開講し、就農者確保に向けた研修を実施(受講者:基礎16名、実践17名、マスター5名)</li> <li>新規就農支援研修修了生の就農定着に向けて、大学校研修部の就農研修アドバイザー等が研修修了生を巡回指導し、就農に向けた課題解決のための相談活動を実施。</li> </ul> <p>vi)異業種からの参入支援</p> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農林水産省主催の「農業参集フェア」での企業等への情報提供(東京4回、仙台1回)</li> <li>企業等の円滑な農業参入のための助言指導。</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農林水産省主催の「農業参入フェア」での企業等への情報提供。</li> <li>企業等の円滑な農業参入のための助言指導。</li> </ul> <p>vii)集落営農の組織化対策</p> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法人化入門研修会を開催(村山8/23、最上9/11、置賜10/18、庄内11/6)</li> <li>法人化実践研修の開催(村山・庄内各4回)</li> <li>組織化・法人化のために必要な経費に対する助成(18経営体)</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法人化・経営力向上入門研修の開催。</li> <li>農業法人の経営に関するノウハウ等を習得するための法人化実践研修の開催。</li> </ul>			
(2) 輝くアグリウーマン育成プロジェクト	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度にアグリウーマン塾を開講し、18名がビジネスプランを作成し修了した。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①女性農業士数(指導)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <p>・輝くアグリウーマン育成事業</p>	

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○将来の地域農業をリードする役割を担う女性農業者の経営力向上を促進するとともに、各地域で女性農業者のリーダーを育成し、女性農業士等の確保を図る。</p> <p><b>【担当課】</b> 農業技術環境課</p>	<p>・「アグリウーマン優良事例集」を作成し、県内市町村や高等学校、大学等に配布するとともに、首都圏で開催される就農相談会で活用した。</p> <p><b>②評価・課題等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・託児サービスを備えた若い女性農業者向けの講座のニーズと効果は大きく、アグリウーマン塾を今後も実施していく必要がある。</li> <li>・女性農業者のためのワンストップ相談窓口として、やまがた女性農業者応援・相談窓口を設置。更なる利用促進のため、窓口の周知を図っていく必要がある。</li> </ul> <p><b>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリウーマン塾を継続開催し、新たに受講生を募集して、経営力を備えた将来の地域農業をリードする女性農業者を育成・確保を図る。</li> <li>・女性が生産現場で生き活きと活躍できる環境を整備。</li> <li>・各地域での女性農業者のリーダーの育成を推進。</li> <li>・女性による地域資源を活かした起業化の取組みを支援。</li> </ul> <p><b>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</b></p> <p>i) 女性農業者のリーダー育成</p> <div data-bbox="387 715 1366 1018" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年度アグリウーマン塾を開講し、20 名が受講。うち 18 名がビジネスプランを作成し修了。 (開塾式・第1回研修 5/30、第2回研修 8/29、第3回研修 10/10、第4回研修 12/5、第5回研修・閉塾式 1/30)</li> <li>・アグリウーマン塾1期生のフォローアップ研修を実施(9/5:6名、11/28:3名)[新]</li> <li>・女性のための農業機械基礎研修を実施(管理編:8/17、5名、操作編:8/18、6名)</li> <li>・インターンシップ研修を実施(8/23、1名)</li> <li>・個別相談会を実施(内陸 1/22:4名、1/23:6名)</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 1018 1366 1185" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリウーマン塾を継続開催し、将来の地域農業をリードしていく女性農業者の育成・確保を図る。</li> <li>・女性が生産現場で生き活きと活躍できる環境整備の推進。</li> <li>・各地域での女性農業者のリーダーの育成の推進。</li> </ul> </div> <p>ii) 農業経営における女性の活躍促進</p> <div data-bbox="387 1230 1366 1495" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業を考える「キャリア教育」のタイミングとなる中学2年生向けに、各地域で生き活きと活躍する青年農業者 10 事例を掲載した「中学生のための農業ガイドブック」を 12,000 部作成。県内の中学2年生約1万名、県内市町村、農協、農林大学校、(公財)やまがた農業支援センター等に配布。</li> <li>・県内4地域で若い女性を参集した学習会「わくわくアグリカフェ」、県域で「シャイニングセミナー～明日輝く若手女性農業者会議～」を開催し、女性農業者のネットワークづくりを支援し、女性が活躍できる環境を整備。</li> </ul> </div>	<p>農業士 + 青年農業士) ②農業協同組合の役員に占める女性の割合</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> ①34 人(H27) ②7%(H28) <b>【直近】</b> ①49 人(H29) ②7.5%(H29) <b>【目標値】</b> ①60 人(H32) ②15%(H32)</p>	<p>業費 ・元気な6次産業化ステップアップ支援事業費の一部</p>	



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年度に作成した「中学生のための農業ガイドブック」を増刷し、県内の中学2年生に配布。</li> <li>・若い女性農業者を対象とした地域学習会、地域の研修会を引き続き開催しながら、女性農業者のネットワークづくりを支援。</li> </ul> <p><b>iii) 農林水産業ウーマノミクスの推進</b></p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた女性農業者応援・相談窓口を(公財)やまがた農業支援センター内に開設(4/17)、女性相談員が対応。[新]</li> <li>・スモールビジネス創出支援事業により地域の農林水産物を活用した女性や若者の起業化の取組みに対し助成(16件)【再掲】</li> <li>・地域資源を活用した商品開発等に係る技術的な課題等の解決を具体的に指導するビジネス相談会を開催(総合支庁単位、7回)【再掲】</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた女性農業者応援・相談窓口による農業とくらしに関する相談にワンストップで対応。</li> <li>・スモールビジネス創出支援事業による地域の農林水産物を活用した農林漁業者等のグループの起業化の取組みへの支援(事業採択:7月)【再掲】</li> <li>・地域資源を活用した商品開発等に係る技術的な課題等の解決を具体的に指導するビジネス相談会の開催(総合支庁単位)【再掲】</li> </ul> <p><b>iv) 農協等における女性登用の促進</b></p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各農協に対し女性役員登用の働きかけを行った結果、これまで女性役員の登用が無かった3農協のうち1農協において、29年度新たに女性役員を登用。</li> <li>・JAの役員候補となる女性農業者の育成と、女性役員登用の気運醸成や働きかけを実施。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、各農協に対し、女性役員登用の働きかけを行う。</li> <li>・農協の役員候補となる女性農業者の育成と、女性役員登用の気運醸成を引き続き行っていく。</li> </ul>			
<p>(3) 農業労働力確保プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○農業経営を支える農業労働力確保のための地域推進体制の整備とモデル的な取組みを進めるとともに、農福連携による障がい者の雇用・就労の取組み等</p>	<p><b>①前年度までの主な取組状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの「さくらんぼ」に加え、その他の園芸作物においても、農繁期における労働力不足が顕在化していることから、関係機関・団体等が連携しながら解消に向けた推進方策の検討・取りまとめを行った。</li> <li>・「農福連携全国都道府県ネットワーク」への加入を通して全国の取組事例を把握するとともに、「農林業分野での障がい者就労モデル事業」の実施を通して県内における農福連携の推進に向けた課題等を把握し、農業団体や農業者団体等への周知を行った。(健康福祉部所管事業)</li> </ul> <p><b>②評価・課題等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さくらんぼ」をはじめ、本県における農業所得拡大の牽引役として期待される園芸作物のさらなる</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①山形県農業労働力確保対策推進協議会の設置</li> <li>②無料職業紹介所設置JA数</li> <li>③さくらんぼ産地JA独自の労働力確保システム構築数</li> </ol>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業労働力確保等対策推進事業費</li> <li>・山形さくらんぼブランド力強化プロジェクト事業費</li> </ul>	<p>山形県農業労働力確保対策実施協議会</p> <p>さくらんぼ労働力確保対策ワーキングチーム(プロジェクト会議)</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>を推進する。</p> <p><b>【主担当課】</b> 農業経営・担い手支援課 園芸農業推進課</p>	<p>振興を図るため、農業団体や農業者団体、女性、高齢者、商工業などの関係団体、行政機関等が連携し、地域の力を結集しながら農業労働力の確保に向けた多様な取組みを展開していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「農福連携」の取組みは、農業の面では労働力の確保や農業に対する理解の向上、福祉の面では障がい者等の生きがいがづくりの場の創出など、農業と福祉の双方においてメリットのある取組みであることから、県内外の取組事例を踏まえ、さらなる推進に向けた取組みを展開していく必要がある。</li> </ul> <p><b>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年3月 23 日に策定した「園芸作物の農繁期における短期的な労働力の確保に向けた推進方策」を踏まえ、「山形県農業労働力確保対策実施協議会」を事業実施主体として、①JAへの無料職業紹介所の設置、②さくらんぼの労働力の確保に向けた取組みの充実・強化、③さくらんぼの先行事例を踏まえた他産地・他作物への横展開、④広域的な労働力の確保に向けた取組み、⑤労働力を補完するための省力化に向けた取組み、⑥その他人材の活用に向けた取組み等の6つの「取組みの展開方向」に沿った取組みを実施していく。</li> <li>・「農林業分野での障がい者就労モデル事業」の取組事例を踏まえ、新たな推進体制として「農福連携プロジェクトチーム」を整備したうえで、関係者の認識の共有、意識の醸成などの取組みを推進していく。</li> </ul> <p><b>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</b></p> <p>i) 労働力の確保対策</p> <div data-bbox="385 836 1364 1206" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県農業労働力確保等対策推進協議会を設置・運営。[新] (第1回会議 8/18、第2回会議 3/23)</li> <li>・農業労働力確保等対策ワーキングチーム会議を設置・運営。[新] (第1回会議 9/19、第2回会議 12/26、第3回会議 2/16)</li> <li>・農業者(求人側)、多様な人材(求職側)、求人・求職窓口を対象とした、労働力不足の現状及び課題等を把握するためのアンケート調査の実施(9~11月)[新]</li> <li>・「園芸作物の農繁期における短期的な労働力の確保に向けた推進方策」の策定(3/23)[新]</li> <li>・山形県農業労働力確保対策実施協議会を設置。[新] (第1回会議 3/23)</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1206 1364 1473" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県農業労働力確保対策実施協議会の運営。[新] (第1回会議 2/中)</li> <li>・農業労働力確保等対策ワーキングチーム会議の設置・運営。[新] (第1回会議 5/中、第2回会議 12/下)</li> <li>・複数のJAの連携による同一作物における共同方式求人の取組みへの支援。[新]</li> <li>・複数のJAの連携による異なる地域における作物横断的なリレー方式求人の取組みへの支援。[新]</li> </ul> </div>	<p>④農業分野で障がい者就労に取り組む福祉施設の割合</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①－(H27) ②8JA(H27) ③1JA(H27) ④15%(H27)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①設置(H29) ②9JA(H29) ③4JA(H29) ④－</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①設置(H29) ②17JA(H32) ③6JA(H32) ④30%(H32)</p>		<p>農業労働力確保対策ワーキングチーム</p>



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>ii) さくらんぼ労働力の確保[関連]</p> <div data-bbox="387 213 1366 584" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てママや仙台圏居住者などの新規労働力の掘り起こし。  <ul style="list-style-type: none"> <li>子育てママ向けフリー情報誌による募集PR(2回: 4、5月号、5万部)</li> <li>仙台圏新聞折込みチラシによる募集PR(5/7、10万部)</li> </ul> </li> <li>作業体験研修会の開催(子育てママ対象、6/7、11名、仙台圏居住者対象、5/27、47名)</li> <li>・県職員の新規採用職員研修の一環としての収穫等の作業体験と、有志等による作業ボランティアを実施。  <ul style="list-style-type: none"> <li>(新規採用職員研修 6/9、178名、県職員ボランティア 6/24、81名)</li> </ul> </li> <li>・さくらんぼ労働力確保プロジェクト会議において今年度の取組みの評価・検証を実施(9/13)</li> <li>・30年度の具体的な取組みを検討するプロジェクト検討チーム会議を開催(10/11)</li> <li>・30年度のアクションプランを策定するさくらんぼ労働力確保プロジェクト会議を開催(2/14)</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 584 1366 753" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取組内容の検討や取組実績の評価・検証を行う会議の開催(4月、9月)</li> <li>・新たな雇用労働力確保に向けたSNS等多様な媒体を活用したPRの実施(5月～)[新]</li> <li>・子育てママや仙台圏居住者対象の管理作業研修会の開催(5月～6月)</li> <li>・新規採用職員や県職員の有志等による作業ボランティアの実施(6月)</li> </ul> </div> <p>iii) 農福連携の推進</p> <div data-bbox="387 798 1366 967" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農福連携全国都道府県ネットワーク(7/12 設立)への加入。[新]</li> <li>・健康福祉部と農林水産部による農福連携の推進方策の検討(7/下～)[新]</li> <li>・「農業分野での障がい者就労モデル事業」に関する事業報告会の開催による、農業者や農業関係団体等に対する「農福連携」の取組事例の周知等(3/15)[新]</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 967 1366 1136" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「農福連携プロジェクトチーム」の設置による農福連携の推進体制の整備。[新]</li> <li>・農福連携の意義や取組事例を紹介するための講演会、現地視察・研修・交流会の開催。[新]</li> <li>・農福連携推進員の配置による農業者と障がい者施設とのマッチングの試行。[新]</li> </ul> </div>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略1: 多様な人材が活躍できる農業経営の実現

#### 戦略分野2: 経営体育成～地域農業を牽引する競争力の高い経営体の育成～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 農業トップランナー育成・発展プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○地域農業を牽引し、生産力・収益性が高く、他産業並みの所得を確保できる「トップランナー」の育成を加速化するとともに、より高い経営力と生産力を持ち企業的経営を実践する「スーパートップランナー」への発展を促進するため、経営力の向上と一体となったオーダーメイド型の経営発展支援を展開する。</p> <p><b>【担当当課】</b> 農業経営・担い手支援課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパートップランナーの育成に向けた「やまがた農業経営塾」の運営や、トップランナーの育成に向けたビジネスプランの策定を支援するための経営の専門家の派遣、経営発展のための農業用機械等の取得に対するオーダーメイド型の助成を行った。</li> <li>・トップランナーやスーパートップランナーの育成を推進するため、担い手の経営力向上・経営発展に向けた対応方策を協議する農業経営発展支援協議会を設立するとともに、協議会の下に総合支庁単位で農業経営支援チームを設置し、支援対象者のリストアップを行った。</li> <li>・税理士などの専門家の派遣や、やまがた農業経営塾の受講によるビジネスプランの策定に向けた支援に加え、生産力向上のために必要な機械等の導入に向けたオーダーメイド型の支援を行い、ソフト・ハード両面を合わせた重層的な支援を行った。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者のうち法人数は 446 経営体 (H29 年3月) と、前年より 45 経営体増加した。</li> <li>・集落営農組織のうち法人化した組織は 118 組織で、前年よりも 16 組織増加した。</li> <li>・対象者のリストアップを行ったが、支援対象者数が少ない地域があることから、引き続き、農業経営支援チームによる支援対象者のリストアップを進めるとともに、ソフト・ハード両面が一体となった支援を通して、地域農業を牽引する競争力の高い経営体の育成を推進していく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内における農業経営の成功事例の情報発信や、スーパートップランナーと認定農業者・トップランナー等の交流促進により、認定農業者の経営発展に向けた意欲を喚起する。</li> <li>・農業関係団体や農業者団体、商工関係団体、経営の専門家、金融機関、行政機関等の連携による相談・支援体制を整備・運営する。</li> <li>・トップランナーを目指す認定農業者への専門家アドバイザーの派遣や、スーパートップランナーを目指す認定農業者を対象としたやまがた農業経営塾の運営によるビジネスプランの策定を通じた経営力の向上に対する支援と、オーダーメイド型の補助制度による経営発展の取組みに対する支援を一体的に展開する。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 農業経営の優良事例の情報発信の強化[関連]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の農業経営優良事例集(スーパートップランナーやトップランナー等)を配付。[新]</li> <li>・成功している農業経営事例のホームページ(やまがたアグリネット)への掲載による情報発信。[新]</li> <li>・認定農業者等と生産力の高い企業的経営体の交流会を開催(第1回 7/14、第2回 1/31) [新]</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①トップランナー数</li> <li>②スーパートップランナー数(①の内数)</li> <li>③販売金額 1,000 万円以上の家族経営体数</li> <li>④販売金額 3,000 万円以上の組織経営体数</li> <li>⑤生産農業所得</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①957 経営体(H27)</li> <li>②128 経営体(H27)</li> <li>③2,351 経営体(H27)</li> <li>④199 経営体(H27)</li> <li>⑤851 億円(H26)</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①-</li> <li>②-</li> <li>③3,000 経営体(H29)</li> <li>④390 経営体(H28)</li> <li>⑤1,074 億円(H28)</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①2,000 経営体(H32)</li> <li>②260 経営体(H32)</li> <li>③3,500 経営体(H32)</li> <li>④550 経営体(H32)</li> <li>⑤1,100 億円(H32)</li> </ol>	<p><b>【ハード・ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な農業経営による所得 1.3 倍プロジェクト事業費(オーダーメイド型支援)</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な農業経営による所得 1.3 倍プロジェクト事業費(やまがた農業経営塾の運営、ビジネスプラン策定支援)</li> </ul>	<p>(県域組織)</p> <p>《平成 29 年度》 山形県農業経営発展支援協議会</p> <p>《平成 30 年度》 山形県農業経営相談所(事務局: 公益財団法人やまがた農業支援センター)</p> <p>(地域組織)</p> <p>農業経営支援チーム(4チーム) 実践チーム(8チーム)</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優良事例のホームページ等への掲載等。</li> <li>・認定農業者等と生産力の高い企業的経営体の交流会の開催(山形県認定農業者協議会)</li> </ul> <p>ii) トップランナーの育成支援</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営発展支援協議会及び農業経営支援チーム・実践チームを設置・運営(6/14)[新]</li> <li>・トップランナー支援対象者リストの取りまとめ及び経営支援フォローアップカルテを作成。[新]</li> <li>・農業経営支援アドバイザー(国庫)の派遣により経営改善・発展に向けた経営改善計画の策定を支援(支援件数:62回(42経営体))[新]</li> <li>・専門家アドバイザーの派遣(県単)によりトップランナーの育成に向けたビジネスプランの策定を支援(支援件数:12回(12経営体))[新]</li> <li>・オーダーメイド型支援による経営発展の取組みに対する補助(17件)[拡]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県農業経営相談所の設置・運営(事務局:公益財団法人やまがた農業支援センター)[新]</li> <li>・農業経営支援チーム・実践チームによる支援対象者のリストアップ及び税理士などの専門家の派遣による法人化、経営発展等のための助言・指導。</li> <li>・経営発展の取組みに対するオーダーメイド型支援(想定件数 17 件)</li> </ul> <p>iii) スーパートップランナーの育成支援</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営発展支援協議会及び農業経営支援チーム・実践チームを設置・運営(6/14)[新]</li> <li>・やまがた農業経営塾を創設・運営(開講 7/18、修了 2/9、受講生:14名)[新]</li> <li>・オーダーメイド型支援による経営発展の取組みに対する補助(4件)[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県農業経営相談所の設置・運営(事務局:公益財団法人やまがた農業支援センター)[新]</li> <li>・農業経営支援チーム・実践チームによる支援対象者のリストアップ及び税理士などの専門家の派遣による法人化、経営発展等のための助言・指導。</li> <li>・やまがた農業経営塾の運営。</li> <li>・経営発展の取組みに対するオーダーメイド型支援(想定件数3件)</li> </ul>			
<p>(2) 農業経営力向上支援プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○意欲ある農業者の経営発展に向け、経営力の向上と農業経営の</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営の法人化の推進や担い手の経営力向上・経営発展に向けた対応方策を協議するための農業経営発展支援協議会を設立するとともに、その下に総合支庁単位で農業経営支援チームを設置し、支援対象者をリストアップしたうえで、税理士などの専門家を派遣し、法人化、経営発展のための助言・指導を行った。</li> <li>・法人化のための研修会、個別の専門家派遣等を行った結果、法人へ移行した集落営農組織は前年より5件増加し 123 経営体となった。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b> 農業法人数(認定農業者)</p> <p><b>【現状値】</b> 〔戦略策定時〕</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の経営発展促進事業費</li> <li>・農業経営法人化等総合支援事業費</li> </ul>	<p>(県域組織) 山形県農業経営発展支援協議会(H29) 山形県農業経営相談所(H30 改)</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
法人化を促進する。 <b>【主担当課】</b> 農業経営・担い手支援課	<p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落営農組織の法人化への移行を加速するため、農業経営支援チームによる支援対象者への働きかけを進めるとともに、営農組織の熟度に応じたきめ細かな専門家派遣により法人化を推進していく必要がある。</li> <li>・引き続き、農業経営支援チームによる支援対象者のリストアップを進め、農業経営の法人化を推進していく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進・支援体制について、法人化のみならず、認定農業者等の経営発展・改善、経営継承などの取組みを全般的に推進・支援する体制に改組するとともに、法人化、経営発展に関心のある経営体のリスト化・カルテ化等の取組みを通して、重点的・継続的に支援していく。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 農業経営の法人化の推進</p> <div data-bbox="387 614 1366 981" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営発展支援協議会及び農業経営支援チーム・実践チームを設置・運営(6/14)[新]</li> <li>・法人化入門研修会を開催(村山 8/23、最上 9/11、置賜 10/18、庄内 11/16)</li> <li>・法人化実践研修会を開催(村山(1/23、1/30、2/7、2/20 計4回)、庄内(1/26、2/1、2/6、2/23 計4回))</li> <li>・農業経営支援アドバイザーの派遣と農業経営支援チームにより法人化計画のフォローアップを実施(支援件数 34 回(25 経営体))</li> <li>・農業法人の設立のために必要な経費に対する助成を実施(14 法人)</li> <li>・雇用就農希望者向けの就農相談会を開催。 (村山 7/23、法人 12 経営体、相談者8名) (庄内 7/29、法人7経営体、相談者4名)</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 981 1366 1316" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県農業経営相談所の設置・運営(事務局:公益財団法人やまがた農業支援センター)[新]</li> <li>・農業経営支援チーム・実践チームによる支援対象者のリストアップ及び税理士などの専門家の派遣による法人化、経営発展等のための助言・指導。</li> <li>・法人化入門研修会及び実践研修会の開催(実践研修会の開催地域を2地域から4地域に拡大)[拡]</li> <li>・農業経営の法人化、集落営農の組織化のために必要な経費に対する助成。</li> <li>・雇用就農希望者向けの就農相談会の開催(村山地域(1回)及び県内農業高校(5校)での開催)[拡]</li> </ul> </div> <p>ii) 農林大学校における経営力向上支援</p> <div data-bbox="387 1364 1366 1492" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパートップランナー育成のため「やまがた農業経営塾」を開講し、2月まで12日間の講座を実施(受講生:14名)</li> <li>・農業ビジネス支援研修(新分野導入、農産加工基礎)を開講し、起業に向けた研修を実施</li> </ul> </div>	401 法人(H27) <b>【直近】</b> 446 法人(H29.3) <b>【目標値】</b> 800 法人(H32)		組) (地域組織) 農業経営支援チーム 農業経営実践チーム

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>(受講生:新分野0名、農産加工基礎 14名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者に求められる農業技術の実践力や判断力を身につけるための「農業経営力養成基礎講座」、財務管理等にテーマを絞り経営力の高度化を図るための「農業経営力レベルアップ講座」を開催し、発展段階に応じたスキルアップを支援(受講生:農業経営力養成基礎講座13名、農業経営力レベルアップ講座 36名)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパートップランナー育成のための「やまがた農業経営塾」では、専門家による個別指導を実施しながら、経営戦略等新たな事業計画を策定・発表し、地域の中で収益性の高い経営を実践するけん引役の農業経営者を育成支援。</li> <li>・農業ビジネス支援研修(新分野導入、農産加工基礎)を開講し、起業に向けた研修を実施。</li> <li>・農業者に求められる農業技術の実践力や判断力を身につけるための「農業経営力養成基礎講座」、財務管理等にテーマを絞り、経営力の高度化を図るための「農業経営力レベルアップ講座」の開催による、発展段階に応じたスキルアップの支援。</li> </ul>			
<p>(3) 農業者ネットワーク化支援プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○ 全国の担い手と交流、情報交換を行うための全国農業担い手サミットの開催や県内の認定農業者、青年農業者等のネットワーク化により相互研鑽を促進し、意欲ある農業者の自立・発展を支援する。</p> <p><b>【主担当課】</b> 農業経営・担い手支援課 農業技術環境課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県農業会議による山形県認定農業者協議会の設立(7月)を支援した。</li> <li>・第 21 回全国農業担い手サミット in やまがた準備委員会を8月に設立した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県認定農業者協議会による農業経営改善の研修及び認定農業者の相互交流の取組みを円滑に推進する必要がある。</li> <li>・第21回全国農業担い手サミット in やまがたの開催(H30 秋)に向け、関係者とともに準備に万全を期す必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県認定農業者協議会の円滑な事業推進に向けて、引き続き連携を図っていく。</li> <li>・第 21 回全国農業担い手サミット in やまがた実行委員会を設立し、本格的に準備を進めていく。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 認定農業者組織の活性化</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県認定農業者協議会の山形県農業会議による設立及び講演会・研修会の開催を支援(7/14)[新]</li> <li>・「担い手の経営発展促進セミナー」を山形県認定農業者協議会及び山形県農業会議と連携しながら開催(1/31)[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県認定農業者協議会の円滑な事業推進に向けた助言の実施。</li> </ul> <p>ii) やまがた元気な農業チャレンジネットワーク</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の資質向上を図るため、視察研修・セミナーを開催(8月)</li> <li>・会員の資質向上を図るため、研修会(11月)を開催。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①山形県認定農業者協議会の設置</li> <li>②全国農業担い手サミットの開催</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> <b>〔戦略策定時〕</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ー</li> <li>②ー</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①山形県認定農業者協議会の設置</li> <li>②ー</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①設置(H29)</li> <li>②開催(H30)</li> </ol>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の経営発展促進支援事業費</li> <li>・全国農業担い手サミット開催推進事業費</li> </ul>	<p>山形県認定農業者協議会</p> <p>第 21 回全国農業担い手サミット in やまがた実行委員会・地域実行委員会</p>



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の資質向上を図るための視察研修・セミナーの開催(8月)</li> <li>・会員の資質向上を図り、互いに切磋琢磨して経営の発展につなげるための研修会(11月)の開催。</li> </ul> <p>iii)「全国農業担い手サミット」の開催</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 21 回全国農業担い手サミット in やまがた準備委員会(8/8)及び地域準備委員会(県内4地域、9月)を設立するとともに、準備委員会幹事会(第1回 9/13、第2回 11/21、第3回 1/12、第4回 2/21)を開催し、実施内容について検討。[新]</li> <li>・大会テーマを募集(10月)するとともに、高知県サミット(10/24～25)で次期開催をPR。[新]</li> <li>・プレイベント(大会テーマ発表・表彰式、講演、パネルトーク)を山形県認定農業者協議会及び山形県農業会議と連携しながら開催(1/31)[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 21 回全国農業担い手サミット in やまがた実行委員会を4月に設立し、本格的に準備を進めていく。</li> </ul>			
<p>(4) 担い手農地集積・集約化促進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○市町村や農業委員会等による地域での話し合い、マッチング活動を支援するとともに、県内全域で農地中間管理機構の活用を促進し、担い手への農地の集積・集約化を推進する。</p> <p><b>【担当部署】</b> 農業経営・担い手支援課 農村計画課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人・農地プランに関する市町村との意見交換会を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人・農地プランに関する市町村等との意見交換を、開催箇所を拡大(4ブロック→8ブロック)して実施したことにより、地域の実情をより詳細に把握することができた。</li> <li>・平成 26 年度から始まった農地中間管理事業による新規集積面積は、平成 29 年3月末現在で 3,136ha となっており、今後、農地中間管理事業による農地の貸し付けが本格化してくるから、担い手への農地の集積・集約化をさらに推進する必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き実効性のある人・農地プランの作成(見直し)に向けた市町村の取組み(地域での話し合い、マッチング活動)を支援するとともに、農地利用最適化推進委員等による積極的な農地利用の最適化活動を推進する。</li> <li>・県内全域で農地中間管理機構の活用を促進し、担い手への農地の集積・集約化を推進する。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の実績及び平成 30 年度の取組の内容</p> <p>i) 農地利用の最適化の推進</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人・農地プランの内容充実化等に向けた市町村との意見交換会等の開催(8ブロック、11月～12月)[拡]</li> <li>・人・農地プラン優良事例等の情報提供。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き市町村との意見交換会や人・農地プラン優良事例の情報提供等を実施しながら、市町村の積極的な取組みを促していく。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①担い手への農地集積率</p> <p>②農地中間管理機構を活用した新規集積面積(累計)</p> <p><b>【現状値】</b> 〔戦略策定時〕</p> <p>①60.2%(H27)</p> <p>②2,146ha(H27)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①63.1%(H28)</p> <p>②3,136ha(H28)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①78.0%(H32)</p> <p>②6,050ha(H32)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人・農地問題解決加速化支援事業費</li> <li>・農地中間管理事業費</li> <li>・農地集積推進事業費</li> </ul>	



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>ii) 農地中間管理機構の活用促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村との意見交換会を開催(4地域、6月～7月)[新]</li> <li>・市町村との意見交換会を開催(8地域、11月～12月)[拡]</li> <li>・市町村長・JA組合長・土地改良区理事長との意見交換を実施(5月～2月)。</li> <li>・農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPR及び活用事例の情報収集を実施。</li> <li>・農地中間管理事業活用事例集の作成及び情報発信。[拡]</li> <li>・農地中間管理事業のモデル地区(69地区)及び重点実施区域(281地区)を指定(H29.11.1現在)し、農地整備事業との連携を図った。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村との意見交換会の開催。</li> <li>・市町村長・JA組合長・土地改良区理事長との意見交換の実施。</li> <li>・農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPR及び活用事例の情報収集の実施。</li> <li>・農地中間管理事業活用事例の情報発信。</li> <li>・農地中間管理事業のモデル地区及び重点実施区域を指定し、農地整備事業との連携を図っていく。</li> </ul> </div>			
<p>(5) 農業情報発信力強化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○農業者の経営改善に役立つ先端技術や支援施策に関する情報の充実と発信力の強化に取り組む。</p> <p><b>【主担当課】</b> 農業技術環境課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年度の「あぐりん」の訪問者数は約 125 万件(前年比 149%)と増加傾向にある。</li> <li>・「補助金逆引事典」、「品目別経営指標」等の掲載により、担い手農家向け情報の充実を図った。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き「あぐりん」に掲載する情報の充実強化に取り組んでいく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あぐりんフェイスブック」の情報拡散機能等を活用して情報発信の強化に取り組む。</li> <li>・農業者の経営改善に役立つ先端技術や支援施策に関する情報の充実強化に取り組む。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の実績及び平成 30 年度の実績の内容</p> <p>i) あぐりんの利用促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あぐりん(PC版)のトップページをスマートフォン対応画面に改良。[新]</li> <li>・農業高校における農業情報活用に関する出前講座の実施(10月～1月、4校5回)</li> <li>・ラジオ、各農業技術普及課の広報誌を通じた「あぐりん」及び「フェイスブック」のPR(随時)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業高校における農業情報活用に関する出前講座の実施。</li> <li>・ラジオ、各農業技術普及課の広報誌等を活用した「あぐりん」及び「フェイスブック」のPR。</li> </ul> </div> <p>ii) あぐりんを活用した情報発信の充実強化</p>	<p><b>【目標指標】</b> 県農業情報サイト「あぐりん」への訪問者数</p> <p><b>【現状値】</b> 〔戦略策定時〕 645,000 件(H27) 〔直近〕 1,254,000 件(H29)</p> <p><b>【目標値】</b> 1,400,000 件(H32)</p>	<p><b>【ソフト】</b> ・やまがたアグリネット運営事業費</p>	<p>やまがたアグリネット運営会議(同作業部会)</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者向け「補助金等逆引事典」(4月)、優良経営体事例集(5月)を掲載。[新]</li> <li>・品目別経営指標(10a当たり)を掲載(3月)[新]</li> <li>・ICT等先端技術情報を掲載(13件)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT等先端技術情報の掲載(スマート農業普及推進事業の取組状況を含む)</li> <li>・農業者向け「補助金等逆引事典」の掲載。</li> <li>・家庭向け野菜づくり情報の拡充。</li> </ul>			
<p>(6) 農業経営セーフティネット強化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○気象災害や価格変動に対応できる農業経営の実現に向け、収入保険制度や農業共済等の各種セーフティネットの活用を促進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 団体検査指導室 農業技術環境課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内4地区において、山形県農業共済組合との共催で青色申告研修会を開催し、併せて収入保険制度の概要説明と農業共済制度の加入促進を図った。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入保険制度の創設及び農業共済制度の改正(H31.1)を踏まえ、県内農業者に対し新たな制度の周知を図るとともに、収入保険制度の加入の要件である青色申告者のさらなる増加に向け、研修会開催等の支援を行っていく必要がある。</li> <li>・平成 31 年産から水稻共済が当然加入から任意加入に移行するため、水稻共済、ナラシ対策及び収入保険等、いずれかのセーフティネット対策への加入を促進する必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気象災害や価格変動に対応できる農業経営の実現に向け、農業経営収入保険制度や農業共済制度等の各種セーフティネットの活用を促進。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 収入保険制度への加入促進</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入保険制度の普及推進に向け、支援体制の構築や青色申告研修会の開催方法等について、山形県農業共済組合との検討会を実施(2回)</li> <li>・加入の前提となる青色申告承認者数を増やすための研修会を、山形県農業共済組合との共催により県内4地区で開催。[拡]</li> <li>・農業経営収入保険制度の広報・啓発を実施。[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県農業共済組合が設立した山形県収入保険制度普及推進協議会に参画し、構成機関・団体と連携して収入保険制度の普及推進を図る。</li> <li>・加入の前提となる青色申告承認者数を増やすための研修会を、山形県農業共済組合との共催により開催。</li> </ul> <p>ii) 果樹のセーフティネットへの加入促進</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青色申告研修会において、農業共済及び収入保険の制度を説明し加入の呼びかけを実施。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b> 収入保険制度の加入の前提となる青色申告承認者数</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> 9,643 人(H27) <b>【直近】</b> 10,475 人(H29)</p> <p><b>【目標値】</b> 13,000 人(H32)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作農家のセーフティネット対策事業費</li> <li>・農業共済事業指導対策費</li> </ul>	

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県農業共済組合の開催した果樹共済加入推進協議会に参画し、加入拡大方策を協議するとともに、普及指導活動時の加入啓発、広報誌等による広報・啓発を実施。[拡]</li> <li>【平成 30 年度の取組予定】</li> <li>・青色申告研修会や普及指導活動時、広報誌等において果樹共済または収入保険の制度を説明し加入を呼びかける。</li> </ul> <p>iii) 水稲のセーフティネット加入率の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【平成 29 年度の取組実績】</li> <li>・水稲共済及びナラシ対策、収入保険の制度比較に関する勉強会を実施。</li> <li>・水稲共済及びナラシ対策、収入保険の制度について、農業経営形態に応じた補てん金の比較検討を行い、その結果を山形県農業共済組合と共有。</li> <li>・農業関係団体等と連携し、水稲共済、ナラシ対策、収入保険のいずれかのセーフティネットへの加入を促進する広報・啓発を実施。[新]</li> <li>【平成 30 年度の取組予定】</li> <li>・ナラシ対策及び収入保険に関するチラシの作成・配布。</li> <li>・青色申告研修会において水稲共済、ナラシ対策及び収入保険等のいずれかのセーフティネットへの加入を促進。</li> <li>・地域再生協議会が平成 31 年産の水稲生産実施計画書様式を配布する際、いずれかのセーフティネット対策への加入を薦めるチラシの同封を依頼。</li> </ul> <p>iv) 農業作業中の事故防止に向けた啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【平成 29 年度の取組実績】</li> <li>・農作業事故防止啓発運動を実施。</li> <li>・やまがたアグリネットにより作業安全啓発、資料を提供。</li> <li>【平成 30 年度の取組予定】</li> <li>・農作業事故防止啓発運動の実施。</li> <li>・やまがたアグリネットによる作業安全啓発、資料の提供。</li> </ul>			
<p>(7) スマート農業普及拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 OICT 等の先端技術を活用した農業生産性の向上などに繋がる「スマート農業」を導入するため、新たな技術開発や、新技術の実証を行う。</p> <p>【主担当課】 農業技術環境課 畜産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代型低コスト大型ハウスを建設し、実証試験を開始した。</li> <li>・スマート農業関連で新規8課題、継続4課題、計 12 課題を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな技術の開発に向け、着実に研究を進めるとともに、実用段階にある技術については現場での活用に向け、導入効果等について検証を行っていく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「スマート農業」の導入に向け、省力化・軽労化などの視点から技術開発を図るとともに、民間企業、JA等と一体となり、県内各地の現地ほ場において新技術の実証により普及拡大を推進。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 少ない労力のできる農場の実現</p>	<p>【目標指標】 県内における「スマート農業」の取組件数(累計)</p> <p>【現状値】 〔戦略策定時〕 － 〔直近〕 23 件(H29)</p> <p>【目標値】</p>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた次世代型施設園芸拠点づくり事業費</li> </ul> <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた野菜産地強化プロジェクト事業費</li> <li>・土地利用型作物技術開発事業費</li> <li>・さくらんぼ世界一プロジェクト事業費</li> <li>・やまがたスマート農業普</li> </ul>	

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営農情報管理システム導入による大規模稲作経営支援技術の実証（県内2か所）や、おうとうの軽労的な樹形等の開発など、新規1課題、継続3課題を実施。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組課題数5（うち、実証2、研究3）。</li> <li>・給排水遠隔制御装置による水田水管理の省力化の実証。</li> <li>・IT管理ツールの導入によるすいかの生産工程改善システムの実証。</li> <li>・営農情報管理システム導入による大規模稲作経営支援技術の実証（県内2か所）や、おうとうの軽労的な樹形等の開発など、新規1課題、継続2課題を実施。</li> </ul> <p>ii) 生産性が高い農業の実現</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代型低コスト大型ハウスの実証やリモートセンシング技術を活用した水稻広域診断技術、ICT養液土耕システムの実証など、新規4課題を実施。</li> <li>・次世代型低コスト大型ハウスを建設し、12月から実証試験を開始。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組課題数6（うち、実証1、研究5）。</li> <li>・小型気象観測装置によるりんご・すいかの病害感染予測システムの実証。</li> <li>・次世代型低コスト大型ハウスの実証やリモートセンシング技術を活用した水稻広域診断技術、ICT養液土耕システムの実証など、新規1課題、継続4課題を実施。</li> </ul> <p>iii) 意欲ある若手への熟練技術の継承</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おうとう大玉生産技術の開発や高泌乳牛の栄養管理技術の確立など、新規1課題、継続1課題を実施。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組課題数3（うち、実証1、研究2）</li> <li>・ハウス栽培管理のモニタリングによる技実継承システムの実証。</li> <li>・おうとう大玉生産技術の開発や高泌乳牛の栄養管理技術の確立の継続2課題を実施。</li> </ul>	50 件(H32)	及推進事業費	

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の実績と平成 30 年度の実績予定

### 基本戦略1: 多様な人材が活躍できる農業経営の実現

#### 戦略分野3: 地域活性化～地域資源をフルに活用した多様なスモールビジネスによる所得確保と活力ある地域づくり～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 中山間地域持続的農地保全推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○傾斜地など営農条件が不利な地域の持続的な農業推進に向けて、農業生産条件の不利を補正する政府の支援制度やそれを補完する県単独事業などの支援施策を最大限活用して、中山間地域の農地保全の取組みを支援する。</p> <p><b>【担当課】</b> 農村計画課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域の農地保全を図るため、中山間地域等直接支払制度の取組みを推進するとともに、要件を緩和した県独自の中山間地域等持続的農地保全支援事業を H28 に創設した。</li> <li>地域の共同活動を支援する多面的機能支払制度について、ニーズがあるものの制度を十分活用していない地域があり、出張相談会や研修会を開催して取組拡大を図った。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域等直接支払制度を有効に活用している集落がある一方で、一筆でも荒廃農地が発生した場合の交付金の全額遡及返還の規定があるため、新たな取組みを躊躇しているところがあり、規定の緩和を政府に働きかける必要がある。</li> <li>平成 30 年度までとなっている多面的機能支払制度について、31 年度以降の継続と交付金の使途拡大を政府に提案するなどして更なる取組みの推進を図る必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>持続的な農業の推進に向けて、支援制度の充実等を政府に施策提案するとともに、市町村とともに集落に対する指導をきめ細かに行き、政府と県の施策を最大限に活用して支援を実施する。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の実績及び平成 30 年度の実績予定の内容</p> <p>i) 中山間地域等の農地保全</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域等直接支払制度の取組事例を収集して他集落の指導に活用するとともに、取組みを拡大する際の課題を聞き取り。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域等直接支払制度の取組み推進に向けて、荒廃農地が発生した場合の遡及返還規定の緩和を政府に施策提案。</li> <li>市町村や中山間地域等持続的農地保全支援事業の取組集落に働きかけを行い、県単独事業終了後は中山間地域等直接支払制度にステップアップして取り組むことを指導。</li> </ul> </div> <p>ii) 多面的機能を支える共同活動の支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出張相談会や研修会を開催して多面的機能支払制度の取組拡大を図るとともに、本県の共同活動の実情を踏まえて、追加で支援が必要な活動項目を検討。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多面的機能支払制度の平成 31 年度以降の継続と交付金の使途拡大を政府に提案。</li> <li>本県の実情を踏まえ、県独自に設定し支援する活動項目の拡大を東北農政局と協議。</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b> 中山間地域の農地保全取組面積</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> 7,853ha (H27) <b>【直近】</b> 8,284ha (H29 見込み)</p> <p><b>【目標値】</b> 8,300ha (H32)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域等直接支払制度費</li> <li>中山間地域等持続的農地保全支援事業費</li> <li>多面的機能支払交付金</li> </ul>	



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議		
<p>(2) 中山間地域農業・農村活性化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○中山間地域の農地を有効に活用するため、地域での話し合い、マッチング活動を支援し、さらに、規模の小さい農家であっても営農を継続していくための付加価値の高い農業経営への転換や地域の活性化を図るための多様なスモールビジネスの展開を促進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 農村計画課 農政企画課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域の農地の有効活用に向け、地域での話し合いやマッチング活動を継続的に支援し、農地中間管理機構の転貸面積は、平成 29 年 3 月末現在で 1,667ha となっている。</li> <li>平成 29 年度新たに小規模な稲作農家を支援する事業を立ち上げ、市町村や関係団体を通じ周知に努めつつ支援対象者の掘り起こしを行ったが、応募は1件に止まった。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域の農地の有効活用に向け、地域での話し合いやマッチング活動を継続した支援をしているが、引き続き各々の地域の実情を踏まえつつ、担い手を確保し農地の集積を推進する必要がある。</li> <li>地域農業を支えている稲作農家の実情を踏まえて再構築した新たな支援事業を活用し、規模拡大が困難な中小稲作農家であっても知恵と工夫を活かし、所得を確保できる農業経営への転換を支援していく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域の農地を有効に活用するため、市町村や農業委員会等による地域での話し合い、マッチング活動を支援するとともに、農地中間管理機構の活用を促進し、担い手への農地の集積化を推進。</li> <li>これまでの起業化の芽出し事業のフォローアップ等による6次産業化の定着を強化するため、発展の可能性の高いスモールビジネスの取組みに絞り込みながら支援。</li> <li>小規模でも所得を確保できる付加価値の高い農業経営への転換を目指す小規模稲作農家の取組みを支援。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 中山間地域の条件不利地での農地集積の促進</p> <table border="1" data-bbox="387 957 1366 1495"> <tr> <td data-bbox="387 957 1366 1260"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村との意見交換会を開催(4地域、6月～7月) [新]</li> <li>市町村との意見交換会を開催(8地域、11月～12月) [拡]</li> <li>市町村長・JA組合長・土地改良区理事長との意見交換を実施(5月～2月)</li> <li>農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPR及び活用事例の情報収集を実施。</li> <li>中山間地域の条件不利地における農地中間管理事業活用事例集の作成及び情報発信。 [拡]</li> <li>中山間地域における話し合いの場を活用した農地と担い手のマッチング支援を実施。</li> </ul> </td> <td data-bbox="387 1260 1366 1495"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村との意見交換会の開催。</li> <li>市町村長・JA組合長・土地改良区理事長との意見交換の実施。</li> <li>農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPR及び活用事例の情報収集の実施。</li> <li>中山間地域の条件不利地における農地中間管理事業活用事例の情報発信。</li> <li>中山間地域における話し合いの場を活用した農地と担い手のマッチング支援の実施。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村との意見交換会を開催(4地域、6月～7月) [新]</li> <li>市町村との意見交換会を開催(8地域、11月～12月) [拡]</li> <li>市町村長・JA組合長・土地改良区理事長との意見交換を実施(5月～2月)</li> <li>農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPR及び活用事例の情報収集を実施。</li> <li>中山間地域の条件不利地における農地中間管理事業活用事例集の作成及び情報発信。 [拡]</li> <li>中山間地域における話し合いの場を活用した農地と担い手のマッチング支援を実施。</li> </ul>	<p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村との意見交換会の開催。</li> <li>市町村長・JA組合長・土地改良区理事長との意見交換の実施。</li> <li>農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPR及び活用事例の情報収集の実施。</li> <li>中山間地域の条件不利地における農地中間管理事業活用事例の情報発信。</li> <li>中山間地域における話し合いの場を活用した農地と担い手のマッチング支援の実施。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b> 中山間地域における農地中間管理機構を活用した新たな貸付面積</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> 573ha (H27) <b>【直近】</b> 426ha (H28)</p> <p><b>【目標値】</b> 580ha (H32)</p>	<p><b>【ハード】</b> ・地域農業を支える元気な中小稲作農家支援事業費</p> <p><b>【ソフト】</b> ・農地中間管理事業費 ・農地集積推進事業費 ・元気な6次産業化ステップアップ支援事業費の一部</p>	
<p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村との意見交換会を開催(4地域、6月～7月) [新]</li> <li>市町村との意見交換会を開催(8地域、11月～12月) [拡]</li> <li>市町村長・JA組合長・土地改良区理事長との意見交換を実施(5月～2月)</li> <li>農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPR及び活用事例の情報収集を実施。</li> <li>中山間地域の条件不利地における農地中間管理事業活用事例集の作成及び情報発信。 [拡]</li> <li>中山間地域における話し合いの場を活用した農地と担い手のマッチング支援を実施。</li> </ul>	<p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村との意見交換会の開催。</li> <li>市町村長・JA組合長・土地改良区理事長との意見交換の実施。</li> <li>農地中間管理機構活用の機運醸成のための機構集積協力金制度のPR及び活用事例の情報収集の実施。</li> <li>中山間地域の条件不利地における農地中間管理事業活用事例の情報発信。</li> <li>中山間地域における話し合いの場を活用した農地と担い手のマッチング支援の実施。</li> </ul>					



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>ii) 小規模な稲作農家への支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模稲作農家支援事業による小規模農家(稲作主体で水稲作付面積が概ね1ha 未満の専業又は第1種兼業農家)の付加価値の高い農業経営の実現に向けた取組みを支援(1件)[新]</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農業を支える元気な中小稲作農家支援事業による中小規模の稲作農家(水稲作付面積5ha 未満の稲作主体の農家及び当該農家で構成された団体)の付加価値の高い農業経営の実現に向けた取組みの支援(事業採択:7月)[新]</li> </ul> </div> <p>iii) 地域資源を活用したスモールビジネスの創出支援[関連]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールビジネス創出支援事業により地域の農林水産物を活用した女性や若者の起業化の取組みに対し助成(16件)【再掲】</li> <li>・地域資源を活用した商品開発等に係る技術的な課題等の解決を具体的に指導するビジネス相談会を開催(総合支庁単位、7回)【再掲】</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールビジネス創出支援事業による地域の農林水産物を活用した農林漁業者等のグループの起業化の取組みへの支援(事業採択:7月)【再掲】</li> <li>・地域資源を活用した商品開発等に係る技術的な課題等の解決を具体的に指導するビジネス相談会の開催(総合支庁単位)【再掲】</li> </ul> </div>			
<p>(3) 元気な地域づくり支援プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○豊富な農産物などの地域資源と女性や若者等の力を活かし、付加価値や働く場を生み出す地域内起業を促進させるとともに、多様な産業分野、業種・業界の垣根を越えた連携・協同による「地域の統合力」を発揮させる。</p> <p><b>【担当課】</b> 農政企画課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化の取り組み意欲が高い地区をケーススタディ実施地区として選定し、各々を支援するタスクチームを立ち上げて支援を実施した。</li> <li>・スモールビジネス創出支援事業により起業化の芽出しを支援した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内9地区でケーススタディを実施したが、4地域毎に見ると庄内地域では取組みがない状況にある。モデル的な取組み事例を県内各地に創出しつつ、その成果を地域内に波及させていく観点から、ケーススタディ実施に向けた地域への働きかけ方について見直しを行うとともに、具体的な取組み状況や成功事例を周知広報する効果的な手法について検討する必要がある。</li> <li>・企業化の芽出しとなるスモールビジネスの創出支援により、6次産業化に取り組む農林漁業者等は増加しているが、売上げを伸ばし6次産業化への定着を図っていくためには、フォローアップの充実や商品力・販売力を向上させる取組みの促進を図る必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きケーススタディを実施すると併せて、ケーススタディ全体の分析と活動の検証を行いながら、モデル事例として整理し、今後の地域づくりの指針となるものを取りまとめる。</li> <li>・これまでの起業化の芽出し事業のフォローアップ等による6次産業化の定着を強化するため、発展の可能性の高いスモールビジネスの取組みに絞り込みながら支援。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①県の支援により活力ある地域づくりの実践に取り組む件数(H26 からの累計)</p> <p>②市町村等における新たなアグリランド構想の策定数</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①7件(H27)</p> <p>②-</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①13件(H29)</p> <p>②0件(H29)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な6次産業化ステップアップ支援事業費の一部</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な地域づくり支援プロジェクト事業費</li> <li>・元気な6次産業化ステップアップ支援事業費の一部</li> </ul>	<p>元気な地域づくりプロジェクト戦略会議(仮称)</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 元気な地域づくりの活動支援</p> <div data-bbox="387 256 1364 630" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化の取組意欲が高い9地区(継続5、新規4)をケーススタディ実施地区として選定し、地区ごとに県の関係部署職員でタスクチームを組織し支援を実施(随時)</li> <li>・ケーススタディ全体の分析と活動の検証及び県内の地域づくりに波及させていくための支援策の検討を行う戦略会議を開催(3月)</li> <li>・地域づくりの話し合いや計画づくりを支援する8地区(新規8)を選定し、実践に向けた合意形成のためのワークショップを実施。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化の取組意欲が高い8地区程度でのケーススタディの実施。</li> <li>・地域づくりの話し合いや計画づくりを支援する8地区(総合支庁ごとに2地区)での実践に向けた合意形成のためのワークショップの実施。</li> </ul> </div> <p>ii) 地域づくりリーダーの育成・確保</p> <div data-bbox="387 675 1364 911" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村やNPOの担当者などから、地域活動に主体的に取り組んでいる地域リーダーの候補となる人材の情報収集を実施。</li> <li>・地域づくりの現場で活用できるワークショップの運営技術等の習得のため、県内4ブロックで研修会を開催。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくり推進の運営技術等を習得する、リーダー育成のための講座の開催。</li> </ul> </div> <p>iii) 地域資源を活用したスモールビジネスの創出支援</p> <div data-bbox="387 956 1364 1294" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールビジネス創出支援事業により地域の農林水産物を活用した女性や若者の起業化の取組みに対し助成(16件)</li> <li>・地域資源を活用した商品開発等に係る技術的な課題等の解決を具体的に指導するビジネス相談会を開催(総合支庁単位、7回)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールビジネス創出支援事業による地域の農林水産物を活用した農林漁業者等のグループの起業化の取組みへの支援(事業採択:7月)</li> <li>・地域資源を活用した商品開発等に係る技術的な課題等の解決を具体的に指導するビジネス相談会の開催(総合支庁単位)</li> </ul> </div> <p>iv) アグリランド構想モデルの策定支援・創出[関連]</p> <div data-bbox="387 1339 1364 1503" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリランド構想モデルの作成支援として、村山市と東根市でケーススタディを実施。【再掲】</li> <li>＊ネットワーク型のアグリランド構想策定のため、旅行会社と連携した新たな体験農業バスツアーの企画・創出を支援(村山市)</li> <li>＊産直施設を6次産業化の拠点として、周辺施設のネットワーク構築等について検討(東根</li> </ul> </div>	<p><b>【目標値】</b></p> <p>①27件(H32)</p> <p>②8件(H32)</p>		

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>市)</p> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリランド構想モデルの策定支援のための村山市と東根市でのケーススタディの実施。【再掲】</li> <li>＊運営組織の体制整備に向けたマニュアル・フローチャートの作成の支援(村山市)</li> <li>＊産直施設周辺への道の駅建設と周辺施設機能の充実強化に向けた、アグリランド構想を含む6次産業化推進戦略、同推進計画の策定への支援(東根市)</li> </ul>			
<p>(4) 鳥獣被害防止対策プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○市町村による被害防止計画の策定を推進し、市町村が中心となった総合的な被害防止活動を支援するとともに、研修の実施などにより、地域が主体となった鳥獣被害対策の指導者等の人材育成を促進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 園芸農業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノシシについては、農作物に直接被害を及ぼす夏季捕獲(4月～10月)の頭数が、平成28年度は82頭であったが、平成29年度は新たに夏季捕獲支援事業に取り組んだ(144頭)こと等により、183頭(平成30年2月現在)と大幅に増加した。</li> <li>・平成29年度から鳥獣被害対策指導者養成研修会を総合支庁で開催したことで、地元の被害対策従事者が多く参加でき、参加者が昨年の約30名/回から倍増の約60名/回となった。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クマやイノシシの被害が増加していることから、捕獲や侵入防止柵の導入支援を強化していく必要がある。</li> <li>・研修を受けた人材を活用し、市町村が主体的に地域ぐるみの鳥獣被害対策活動を実施できるようサポートしていくとともに、周辺地域にその取組みを波及させていく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村が策定する被害防止計画に基づき実施される電気柵の設置、追払い活動、有害捕獲等被害防止対策活動の推進。</li> <li>・地域で活動する指導者を育成するため、研修会等による人材育成の強化と地域を挙げた対策実施の推進。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 鳥獣被害の防止対策の支援</p> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鳥獣被害軽減モデル事業(県単)」による電気柵設置への補助支援(17市町)</li> <li>・イノシシ夏季捕獲支援事業により144頭を捕獲(7市町で実施)</li> <li>・クマ農作物被害防止対策のための啓発チラシの配布(5/2)</li> <li>・プロジェクト会議(10/16)を開催(30年度の取組みの検討など)</li> <li>・全市町村を対象とした担当者会議(6/12、2/16)を開催し、制度や事業等について情報交換。</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鳥獣被害軽減モデル事業(県単)」による電気柵設置への補助支援(22市町)</li> <li>・イノシシ有害捕獲夏季捕獲支援事業による有害捕獲の推進(14市町:目標440頭)</li> <li>・プロジェクト会議(9月)の開催(当年度の成果検討と次年度の取組み検討)</li> <li>・全市町村を対象とした担当者会議(6月、2月)を開催し、制度や事業等について情報交</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b> 鳥獣による農作物被害金額</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> 581百万円(H27) <b>【直近】</b> 595百万円(H28)</p> <p><b>【目標値】</b> 440百万円(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣被害防止総合対策交付金</li> <li>・有害鳥獣被害防止軽減モデル事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣被害対策指導者養成研修</li> <li>・地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業費</li> </ul>	<p>鳥獣被害防止対策プロジェクト会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>換。</p> <p>ii) 鳥獣被害の防止対策の地域における推進</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ぐるみで鳥獣被害防止対策に取り組む重点支援地区において研修会を実施(設置4か所:山形市山寺、舟形町長者原、川西町玉庭、鶴岡市熊出) このうち、山形市山寺において、ICT機器を活用した、イノシシのわな捕獲実証を実施(6/15～11/14)</li> <li>・鳥獣被害対策指導者養成研修会を実施(6回:6/12、7/10、7/21、8/29、9/22、10/25)</li> <li>・「鳥獣被害防止総合対策交付金(国庫)」により電気柵設置や捕獲等に対し助成を実施(19市町)</li> <li>・広域的に連携した効果的な被害対策を推進するため、環境部局(鳥獣の保護管理担当)と市町村からなる地域鳥獣被害対策連絡会議を総合支庁単位で開催(7/11～13)</li> <li>・地域ぐるみの鳥獣被害防止対策の成果検討会開催による他地域への取組みの波及促進(2/16)</li> <li>・ICT捕獲実証の検証を行い、より効率的なイノシシ捕獲技術について検討(10/25、2/16)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ぐるみで鳥獣被害防止対策に取り組む重点支援地区(設置4か所:大江町三郷、鮭川村鶴田野、長井市伊佐沢、鶴岡市黄金)</li> <li>・鳥獣被害対策指導者養成研修会を実施(6回)</li> <li>・「鳥獣被害防止総合対策交付金(国庫)」により電気柵設置や捕獲等に対し助成を実施(25市町村)</li> <li>・広域的に連携した効果的な被害対策を推進するため、地域鳥獣被害対策連絡会議(総合支庁単位)や広域連携のための研修会(村山地域)の実施。</li> <li>・地域ぐるみの鳥獣被害防止対策や ICT 実証の成果検討会開催による他地域への取組みの波及促進(2月)</li> </ul>			
<p>(5) 再生可能エネルギー導入推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○地域で豊富に存在する再生可能エネルギーを活用し、農林漁業者の所得向上と地域活性化につなげていくため、農林水産分野への導入を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 農政企画課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉熱を活用可能な地域に関する基礎資料を基に、候補地について検討を行った。</li> <li>・小水力発電に活用可能な農業水利施設での事業者の募集や小水力発電導入計画(ビジネスプラン)説明会の開催等により、民間発電事業者と土地改良区が事業参入に向けた検討を進めている。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉熱については、泉質、温度、PH 等の条件により、活用可能な地域は限られ、さらに、初期投資額が大きいことや、維持管理費用や労力がかかることなどが課題となっていることから、他県の成功事例も参考にしながら、利活用に向けた働きかけを行う必要がある。</li> <li>・小水力発電の一層の導入促進のため、個別相談会の開催等、今後も民間事業者と土地改良区とのマッチングに向けた取組を進めていく必要がある。また、県営地域用水環境整備事業については、小水力発電施設の工事の進捗を図る必要がある。</li> <li>・県内各地に木質バイオマス発電施設の整備が進み、木質バイオマスの需要が拡大しているが、</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①小水力発電出力の合計</li> <li>②温泉熱活用事例数(累計)</li> <li>③木質バイオマスの供給量</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①1,400kW(H28)</li> <li>②3件(H28)</li> </ol>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県営地域用水環境整備事業費</li> <li>・次世代林業基盤づくり交付金事業費(森林・林業再生基盤づくり交付金事業)</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小水力発電民間連携導入促進事業費</li> </ul>	

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
農業技術環境課 農村計画課 農村整備課 林業振興課	<p>増加する需要に対応するため原木を安定的に供給していくことが必要である。</p> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村等の関係機関と共に、候補地での温泉熱の利活用に向けた働きかけ及び実践的な取組み等に対する技術支援を行う。</li> <li>・社会的状況の変化を見据え、発電等の安定性を継続検討。</li> <li>・小水力発電事業への参入を希望する民間発電事業者と施設の有効利用を希望する土地改良区との連携を促進し、更なる小水力発電の導入を図る。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 小水力発電の導入促進</p> <div data-bbox="385 502 1364 735" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業への参入を希望する民間発電事業者を募集(6月)、事業への参加者(16 者 13 施設)を決定(7月)[新]</li> <li>・農業水利施設の現場調査を実施(7月下旬～8月上旬)[新]</li> <li>・小水力発電導入計画(ビジネスプラン)説明会を実施(10 者、5施設)(8月)[新]</li> <li>・県営地域用水環境整備事業について、小水力発電施設工事を実施(7施設)</li> <li>・県営地域用水環境整備事業の小水力発電施設工事の実施(7施設)</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 738 1364 874" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より詳細な発電事業計画をもとにした、民間発電事業者と土地改良区との個別相談会の開催。[新]</li> <li>・県営地域用水環境整備事業について、小水力発電施設工事を発注予定(7施設)</li> </ul> </div> <p>ii) 温泉熱の活用の促進</p> <div data-bbox="385 919 1364 1054" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地中熱・雪氷熱・温泉熱の利活用に関する研究を行う事業者を募集(5月、環境エネルギー部予算)。農林水産業における温泉熱活用の研究については2団体が応募し、活用に向けた調査研究費を支援。</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1058 1364 1193" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉熱については、2団体とも、平成 29 年度は活用に向けての調査研究を行っており、平成 30 年度以降構想が具体化していく中で、実践的な取組みとなるよう県及び市町村等の関係機関で支援。</li> </ul> </div> <p>iii) 木質バイオマスの利用促進[関連]</p> <div data-bbox="385 1238 1364 1437" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマス発電所等に対する燃料の安定供給を図るため、木質バイオマス燃料供給施設(4施設)の整備に対し助成を実施(6月)</li> <li>・県産木材の増産に向け意見交換会を開催(8月、10月、1月)[新]</li> <li>・県産木材の増産に向けセミナーを開催(8月、3月)</li> <li>・木質バイオマス施設用の低質材(C・D材)の搬出に対する支援を実施。</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1441 1364 1500" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマス燃料供給施設(3施設)の整備に対し助成予定。</li> </ul> </div>	<p>③34 千t(H27)</p> <p>[直近]</p> <p>①－</p> <p>②－</p> <p>③61 千t(H28)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①1,700kW(H32)</p> <p>②6件(H32)</p> <p>③106 千t(H32)</p>		

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<div data-bbox="385 172 1364 209" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマス施設用の低質材(C・D材)の搬出に対する支援の実施。</li> </ul> </div> <p data-bbox="360 220 770 247">iv) 営農継続型太陽光発電の評価検証</p> <div data-bbox="385 252 1364 352" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="396 256 685 284"><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月は昨年度よりやや発電量が多かったものの、6月～8月は日射量が少なく昨年度よりやや下回った。その結果、年間発電量は過去2年より少なくなった。</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 357 1364 421" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="396 362 685 389"><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価検証を継続する(発電の安定性等)</li> </ul> </div>			



## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の実績と平成 30 年度の実績予定

### 基本戦略2:水田農業の収益性の向上

#### 戦略分野1:土地利用型作物～県産米の更なるブランド振興と低コスト化による水田農業の収益性向上～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 県産米ブランド化戦略プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○売れる米づくりに向けて、「つや姫」や新品種「雪若丸」等の県産米ブランド化戦略を構築し、戦略に基づいた生産・流通・販売を展開する。</p> <p><b>【担当課】</b> 県産米ブランド推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つや姫」の高品質・良食味生産体制を前提としたトップブランド米としての評価確立に向けた販促・PR活動を展開した。</li> <li>・「雪若丸」については、平成 27 年度に「水稲新品種山形 112 号導入検討委員会」を開催し、「導入に向けた基本方針」をとりまとめた。平成 28 年度に、「山形 112 号ブランド化戦略実施本部」において、平成 30 年の本格デビュー、名称、ブランドコンセプト、ブランド化戦略を決定、平成 29 年度は、ロゴ・キャッチフレーズを決定し、9月に先行販売を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つや姫」については、良食味・高品質生産体制を一層強化するとともに、マスメディアを活用したPR活動や飲食店とタイアップしたキャンペーンの実施などによりこれまで獲得してきた「つや姫」ブランド評価の更なる浸透を図る必要がある。</li> <li>・「雪若丸」については、76 か所の実証ほを拠点として栽培管理研修会を開催してきたが、平成 30 年産に向けて高品質・良食味の雪若丸を生産するために、生産組織に対して栽培マニュアルに基づく技術の早期普及を図る必要がある。</li> <li>・購入者アンケートでは9割超が「おいしい」と評価し、7割超が「また購入したい」と回答しており、本格デビューに向け、特長である「しっかりした粒感と適度な粘りの新食感」を消費者に伝えるとともに、訴求力のある情報発信手法等について検討を行う必要がある。</li> <li>・「酒米」については、GI登録を契機に酒造組合と更に連携し、振興を図っている。特に大吟醸酒用酒造好適米「雪女神」のブランド化に向けて、高品質な酒米の生産をさらに推進していく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つや姫」については、良食味・高品質で安定した生産体制の堅持と更なる推進を図るとともに、高級感のある中食・外食での利用拡大や東京オリ・パラ等に向けた外国人への需要拡大など新たな販路開拓、テレビCM等を核とした全国PRを展開するとともに、品質・食味の高位維持に向けた栽培技術指導を強化。</li> <li>・「雪若丸」については、ブランド化戦略に基づいた生産体制を構築し、平成 30 年の本格デビューやブランド確立に向けたイベントやキャンペーンを展開。</li> <li>・「酒米」については、GI登録を契機に酒造組合と連携して、酒米のさらなる振興を図る。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p style="margin-left: 20px;">i) つや姫のブランド化戦略の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・29 年産米から「つや姫マイスター基準田」(66 か所、17ha)を設置し、指導を強化。[新]</li> <li>・衛星画像等による面的な葉色診断技術の実証(寒河江市)や色彩選別機の導入により高品質</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①米による産出額</li> <li>②「つや姫」の価格ポジション</li> <li>③「雪若丸」の作付面積</li> </ol> <p><b>【現状値</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①668 億円(H26)</li> <li>②魚沼産コシヒカリに次ぐ(H28)</li> <li>③10ha(試験栽培)(H28)</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①804 億円(H28) [853 億円(H29 県推計)]</li> <li>②魚沼産コシヒカリに次ぐ(H29)</li> <li>③76ha(H29)</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①930 億円(H32)</li> <li>②魚沼産コシヒカリに次ぐ</li> <li>③1,700ha(H30)、販売動向により判断(H32)</li> </ol>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「県産米新品種ブランド確立推進事業費」のうち食味分析計の導入</li> <li>・「オールやまがた米づくり日本一運動事業費」のうち、色彩選別機の導入</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「山形つや姫」ブランド化推進事業費</li> <li>・県産米新品種ブランド確立推進事業費</li> <li>・オールやまがた米づくり日本一運動事業費</li> </ul>	<p>山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部</p> <p>オールやまがた米づくり日本一運動推進本部</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>質化を推進(事業化し14件採択)[新]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30年産に向けた「つや姫」生産者認定証交付式や栽培マニュアル研修会を開催。</li> <li>・美しい「つや姫」づくりコンテストを開催(4産地)</li> <li>・「つや姫が食べられる店」と連携したキャンペーンの実施(7月～8月)や首都圏ホテルにおける「山形フェア」などにより飲食店等での利用を促進。</li> <li>・東京オリ・パラのホストタウンを通して外国人選手への「つや姫」のPRを実施。</li> <li>・南東北インターハイや全国農林水産祭等集客力のあるイベントにおいてPRを実施。</li> <li>・新米が出回る時期にあわせて、関東・関西・中京圏においてテレビCMを放映するとともに、CM放映にあわせて、JR東京駅等の主要駅において交通広告を掲載し、つや姫の認知度の向上に向けた取組みを実施。</li> <li>・銀座の飲食店とタイアップした「つや姫」を使ったメニューの提供や大都市の有名百貨店でのトップセールス等の実施により販売活動を促進。</li> <li>・つや姫レディによる百貨店やイベント等でのプロモーション活動を展開。</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つや姫マイスター基準田」(66か所、17ha)の設置。</li> <li>・色彩選別機の導入により高品質化を推進。[拡]</li> <li>・「つや姫」生産者認定証交付式や栽培マニュアル研修会の開催。</li> <li>・美しい「つや姫」づくりコンテストの開催。</li> <li>・「つや姫が食べられる店」と連携したキャンペーンの実施や首都圏ホテルにおける「山形フェア」などによる飲食店等での利用の促進。</li> <li>・東京オリ・パラのホストタウンを通じた外国人選手への「つや姫」のPRの実施。</li> <li>・三大都市圏の有名百貨店でのトップセールス等の実施による販売活動の促進。</li> <li>・つや姫レディによる百貨店やイベント等でのプロモーション活動の展開。</li> <li>・これまでの高級イメージを継承した新たなCMを作成し、関東・関西・中京圏においてテレビCMを放映し、つや姫の認知度の向上に向けた取組みを実施。</li> </ul> <p>ii) 雪若丸のブランド化戦略の推進</p> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培管理研修会を開催(6月、9月、1月)</li> <li>・生産組織を募集し、平成30年度に作付けを行う生産組織を登録(90組織:9月)[新]</li> <li>・食味分析計の導入支援による雪若丸の良食味生産体制へ支援(4台)[新]</li> <li>・ロゴマーク・キャッチフレーズ・米袋デザイン等を7月に作成。</li> <li>・田植えイベント(5月)、稲刈りイベント(9月)、先行販売イベント(県内オープニングイベント、先行販売キャラバン県内4か所、アンテナショップ即売会(9月)、3大都市の有名百貨店でのトップセールス(10月)等によるPR活動を実施。</li> <li>・「雪若丸」を食べられるお店の開拓のため、米穀卸や小売店への売り込みを実施(県内2店、県外2店で実施)</li> <li>・良食味・高品質生産に向けた栽培マニュアルの策定(H30.3)及び研修会を実施(2月～3月)、「雪若丸」生産組織代表者会議を開催(3月)[新]</li> <li>・「雪若丸」生産組織登録証の交付(3月)</li> </ul>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本格販売に向けたコミュニケーション戦略の取組み内容を検討。</li> <li>・寿司店等への求評及び、本格販売に向けた販売ルートの選定や価格の検討。[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培管理研修会の開催(3月、6月、9月、1月)</li> <li>・平成 31 年産生産組織(新規組織)の募集(7月)</li> <li>・「雪若丸」生産組織代表者会議の開催(9月)</li> <li>・テレビCMの制作・放映、オープニングイベントの開催(県内、首都圏)など、本格デビュープロモーションの展開。</li> <li>・「雪若丸」の特長を消費者に的確に伝えるため、首都圏を中心とした米穀専門店・卸を対象に販売説明会の実施(8月～9月)</li> <li>・消費者を対象とした販売促進キャンペーンの実施(9月末～)</li> <li>・本格販売に向け、食べられるお店や取扱い店確保に向けた販路開拓活動の実施(4月～)</li> </ul> <p>iii) 県産米の品質・評価の向上</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米づくり運動担当者会議の開催(4月、6月、7月、9月)や「特A栽培モデルほ場」の設置(12か所)、取組状況・生育状況の確認等により高品質・良食味米生産を推進。</li> <li>・直播栽培展示ほ(17か所)の設置、水稻直播栽培マニュアル(H29.3 作成)の活用により、技術の普及と面積の拡大を推進。</li> <li>・米づくり運動を中心に、オール山形の体制で特A評価が得られる高品質・良食味米生産を推進。[新]</li> <li>・直播等の拡大による低コスト化を推進。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米づくり技術情報の発信(10 回以上)、担当者会議の開催(随時)や「特A栽培モデルほ場」の設置(8か所)、取組状況・生育状況の確認等による高品質・良食味米生産の推進。</li> <li>・米づくり運動を中心に、オール山形の体制で特A評価が得られる高品質・良食味米生産の推進。</li> <li>・直播栽培展示ほの設置を継続し、展示ほを活用した指導の実施。</li> <li>・直播等の拡大による低コスト化の推進。</li> </ul> <p>iv) 新品種「雪女神」等の高品質な酒米生産の推進</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒造組合等と連携して酒米生産者に対し働きかけを行い、需要に応じた高品質な「雪女神」の酒米生産を推進(37.7ha、前年比+24ha)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒造組合、JA等と連携して「雪女神」栽培マニュアル(H29 作成)を活用した栽培指導を実施し、需要に応じた高品質な「雪女神」生産を推進。</li> </ul>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(2) 需要に応じた米生産対策推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○行政による生産数量目標の配分が廃止される平成30年度以降は、県農業再生協議会において、米の作付面積の統計かい離の解消を図りながら、需要に応じた米生産や飼料用米等の生産・利用の拡大を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 県産米ブランド推進課 農業技術環境課 畜産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <p>i) 需要に応じた米生産の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度産米の生産数量目標達成のため、「需要に応じた米生産推進キャラバン」等を実施した結果、平成29年度産米の作付面積は56,400haとなり、生産数量目標56,661haを261ha下回り、生産数量目標を超過達成した。</li> <li>平成30年度産米からの米政策の見直しへの本県の対応について、農業団体、市町村等で協議・検討を重ね、8月開催した県再生協臨時総会で、「平成30年度以降の需要に応じた米生産への対応方針」を決定し、12月に平成30年度産米の「生産の目安」を算定・提示した。</li> </ul> <p>ii) 飼料用米の生産・利用の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飼料用米生産拡大支援事業を行い、フレコンスケールの導入2件について、補助金を交付した。</li> </ul> <p>iii) 統計かい離の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>統計かい離の解消のため、モデル地区を設定し、関係市町村と統計かい離解消に向けた取組みを行った結果、統計かい離面積は前年より68ha減少し、710haとなった。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <p>i) 需要に応じた米生産の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度以降の「生産の目安」の算定方法については、今後の全国の需給状況や県産米の動向を踏まえ引き続き検討していくこととしており、今後も関係団体と綿密に連携し協議・検討を重ねていく必要がある。</li> </ul> <p>ii) 飼料用米の生産・利用の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内の飼料用米の作付面積は、平成28年度産の3,840haから平成29年度産の3,916haへと拡大しているが、規模拡大等に伴い、飼料用米の利用を増加したい意向のある畜産農家も存在しているため、更なる生産拡大とマッチングの広域化の推進が必要である。</li> </ul> <p>iii) 統計かい離の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、統計かい離解消ワーキングチーム会議を開催し、これまでの取組みの成果を検証しながら、更なるかい離解消を図っていく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度産米の「生産の目安」の達成を図るとともに、「需要に応じた米生産に関するワーキンググループ会議」で平成31年度以降の「生産の目安」の算定方法を検討。</li> <li>飼料用米の地域需給マッチングの強化やコスト低減に向けた取組みを推進。</li> <li>統計かい離解消ワーキングチーム会議を開催し、かい離解消を推進。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 需要に応じた米生産の推進</p> <div data-bbox="387 1294 1368 1495" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b> <b>【平成29年度産米への対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村の地域農業再生協議会への産地交付金の当初配分について、平成29年度産米の目標値設定の深掘り程度に応じて傾斜配分を実施。</li> <li>平成29年度産米の生産数量目標の達成が困難と思われた市町村を中心に「需要に応じた米生産推進キャラバン」を実施。</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b> 県で設定する生産目標達成率(H30年度以降は県再生協議会での設定を想定)</p> <p><b>【現状】</b> <b>【戦略策定時】</b> 100%(H28) <b>【直近】</b> 100%(H29)</p> <p><b>【目標値】</b> 100%(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b> ・飼料用米生産拡大支援事業費</p> <p><b>【ソフト】</b> ・飼料用米等生産利用拡大支援事業費</p>	<p>需要に応じた米生産に関するワーキンググループ会議</p> <p>統計かい離解消ワーキングチーム会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p><b>【平成 30 年産以降への対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月と8月の「需要に応じた米生産に関するワーキンググループ会議」において平成 30 年産以降の需要に応じた米生産への対応について検討するとともに、8月の「米政策推進会議」において、平成 30 年産以降の需要に応じた米生産への対応の内容について外部有識者の意見聴取を行い、県再生協臨時総会(8/31)において「生産の目安」の算定方法等「平成 30 年産以降の需要に応じた米生産への対応方針」を決定。</li> <li>・上記決定内容について、9月に各ブロックで説明会を開催し周知。</li> <li>・平成 30 年産米の「生産の目安」の算定と提示(12月)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年産の「生産の目安」の達成の推進。</li> <li>・平成 31 年産以降の「生産の目安」の算定方法等の検討。</li> </ul> <p>ii) 飼料用米の生産・利用の拡大</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・需給マッチングの定着・拡大に向けて、飼料用米利用拡大シンポジウムを開催(8/29)</li> <li>・飼料用米生産拡大支援事業の交付決定を通知(9月、フレコンスケール2件)</li> <li>・飼料用米の新たな需給マッチング組織の設立を支援(1地区)</li> <li>・飼料用米の生産拡大のための保管庫整備、低コスト利用のための粉砕・混合施設や機械の整備を支援。[拡]</li> <li>・飼料用米生産拡大支援事業の実施状況を確認。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料用米生産拡大支援事業や産地交付金を活用した、飼料用米の作付拡大の推進。</li> </ul> <p>iii) 統計かい離の解消</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル地区を設定し、関係市町村と統計かい離解消に向けた取組みを実施(3地区)</li> <li>・市町村におけるより正確な水稻作付面積把握を推進するため、出入作調査を実施。</li> <li>・統計かい離解消ワーキングチーム会議の開催(1回)</li> <li>・市町村におけるより正確な水稻作付面積把握を推進。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計かい離解消ワーキングチーム会議の開催(2回)</li> <li>・モデル地区において現地調査の実施。</li> </ul>			
<p>(3) 県産大豆評価向上・安定生産プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○県産大豆の評価向上に向けて「里のほほえみ」「シュウリュウ」の普</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収量・品質に優れた「里のほほえみ」「シュウリュウ」の作付け拡大を推進した。</li> <li>・優良生産者の栽培事例の発信、栽培技術の普及拡大を図った。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実需ニーズに応えられる産地づくりのため、品質の面でも収量の面でも安定した生産を行うことが求められている。このため、品種構成を見直し、収量・品質に優れた「里のほほえみ」「シュウリュウ」の作付け拡大を推進しているが、高収量・高品質生産の実現のためには、優良生産者の栽培事</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①大豆の収穫量 ②新品種(「里のほほえみ」「シュウリュウ」)の作付面積</p> <p><b>【現状値】</b></p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産大豆評価向上・安定生産推進事業費</li> </ul>	<p>県産大豆利用拡大プロジェクト会議</p>



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>及拡大、収量・品質の高位安定技術の定着を推進する。</p> <p>【担当課】 県産米ブランド推進課</p>	<p>例の発信を継続し、栽培技術の普及拡大を図る必要がある。</p> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「里のほほえみ」「シュウリュウ」を重点品種に位置づけ、実需ニーズに応える産地づくりを推進。</li> <li>・高収量高品質栽培技術、病害虫対策等を取りまとめた情報発信するなど農家経営安定化のための儲かる大豆づくりを推進。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 重点品種の安定生産の推進</p> <div data-bbox="385 435 1364 603" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点品種「里のほほえみ」「シュウリュウ」を栽培する大豆高収量高品質栽培展示ほを県内10か所に設置するとともに、展示ほを活用し現地指導を実施。</li> <li>・ダイズシストセンチュウ対策実証ほを県内2か所に設置し、対策技術を展示するとともに、評価に必要な生育データ等を収集。</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 608 1364 775" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点品種「里のほほえみ」「シュウリュウ」を栽培する大豆高収量高品質栽培展示ほの設置を継続実施し(県内10か所)、展示ほを活用し現地指導を実施。</li> <li>・ダイズシストセンチュウ対策実証ほの設置を継続し(県内2か所)、対策技術を展示する。また、対策技術を取りまとめる。</li> </ul> </div> <p>ii) 生産管理の効率化の推進</p> <div data-bbox="385 818 1364 954" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業技術研修会を播種期(6/7)及び培土期(7/19)に開催し、大型作業機を用いた高効率作業技術の実演を実施。</li> <li>・高効率作業技術事例の取りまとめ。[新]</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 959 1364 1023" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業技術研修会を県内2か所で実施し、高効率作業技術の普及を拡大。</li> </ul> </div> <p>iii) やまがた大豆の産地評価の向上</p> <div data-bbox="385 1066 1364 1337" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆安定生産推進会議を開催(7/19)し、収量と品質の向上に向け、実需者と意見交換を実施。</li> <li>・東北大豆セミナーin やまがたを東北農政局と共催(9/6)し、優良生産者の高収量高品質大豆生産の取組み、雑草管理技術、国産大豆への要望等の講演を実施するとともに、河北町と山形市の優良生産者の大豆栽培状況について現地調査を実施。</li> <li>・優良事例の発信を行いながら生産者の意識改革を図り、農家経営安定化のための儲かる大豆づくりを推進。</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1342 1364 1503" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やまがた大豆フォーラム」を開催し、優良生産者の高収量高品質大豆生産の取組み、作業の効率化、県産大豆への要望等の講演を実施。</li> <li>・県産大豆利用拡大プロジェクト会議を開催し(年2回予定)、実需者との意見交換や優良生産者の状況について現地調査を実施。</li> </ul> </div>	<p>【戦略策定時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①7,560t(H27)</li> <li>②1,817ha(H27)</li> </ul> <p>【直近】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①7,280t(H29)</li> <li>②2,582ha(H29)</li> </ul> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①8,000t(H32)</li> <li>②4,100ha(H32)</li> </ul>		



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(4) 県産そばブランド化推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○県産そばのブランド力向上のため、高品質安定生産技術の普及、優良種子の供給、県産そばの知名度向上及び「山形そば5号」のブランド化を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 県産米ブランド推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高収量高品質そばの生産指導を実施した。</li> <li>・県産そばの評価向上及び利用向上に向けた実需者と生産者の意見交換を実施した。</li> <li>・優良生産者の取組状況を発信した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収量及び品質の向上を図るため、多収展示ほを設置し高収量高品質そばの生産指導を行っている。また、県産そばの知名度向上と産地活性化に向けて一体的な取り組みができるよう実需者や主要生産者との意見交換を進めている。今後は、優良事例の発信や現地検討会の開催等を通じて生産者の意識向上に継続的に取り組んでいく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産そばの高収量・安定化に向けた多収展示ほを設置するとともに、現地検討会を開催。</li> <li>・優良種子の計画的生産。</li> <li>・実需者と連携して新品種「山形BW5号」のPRを行うなど、関連業界が一体となった県産そばの知名度向上、産地活性化を図る。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 高収量・高品質の安定化</p> <div data-bbox="385 756 1364 960" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高収量高品質栽培展示ほを県内8か所に設置し、評価に必要なデータを収集。</li> <li>・高収量・高品質展示ほでの収量品質調査及び評価を行い現地指導資料として活用。[新]</li> </ul> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高収量高品質栽培展示ほを県内8か所に設置</li> <li>・優良生産者の事例の発信。</li> </ul> </div> <p>ii) 優良品種の種子更新体制の整備</p> <div data-bbox="385 1007 1364 1174" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原種、一般種子の計画的生産体制を整備(種子協会、種子組合との採種計画の調整)</li> <li>・「山形BW5号」一般種子生産の開始を支援(種子組合へ栽培技術及び種子調製技術情報の提供と指導)</li> <li>・「山形BW5号」の原々種生産と緊急増殖体制を強化。</li> </ul> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原種、一般種子の計画的生産。</li> <li>・「山形BW5号」一般種子生産の拡大。</li> </ul> </div> <p>iii) 県産そばの知名度の向上</p> <div data-bbox="385 1323 1364 1455" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そばプロジェクト会議の開催に向けて、県産そばのPR方法を実需者と協議。</li> <li>・そばプロジェクト会議の開催(2月)</li> <li>・県産そばのPRを行うため品種紹介リーフレット等を作成・配布し、需要を喚起。</li> </ul> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> </div>	<p><b>【目標指標】</b> そばの収穫量</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> 1,620t(H27) <b>【直近】</b> 1,580t(H29)</p> <p><b>【目標値】</b> 2,200t(H32)</p>	<p><b>【ソフト】</b> ・美しいやまがた「そばの里」推進事業費</p>	<p>山形そばプロジェクト会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<div data-bbox="387 172 1366 272" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そばプロジェクト会議を開催し、実需者との意見交換や優良生産者の状況について現地調査を実施。</li> <li>・県産そばの利用拡大及び評価向上を目指し、実需者と連携したPR活動の展開。</li> </ul> </div> <p data-bbox="360 288 873 316">iv)「山形BW5号」のブランド化・普及拡大の支援</p> <div data-bbox="387 320 1366 488" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="398 323 685 347"><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「山形BW5号」栽培マニュアル原稿の作成に向け、関係機関と記載事項の整理を行い、原案を取りまとめ。</li> <li>・「山形BW5号」栽培展示ほを県内4か所に設置し、現地指導を実施。</li> <li>・「山形BW5号」栽培マニュアルを作成。[新]</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 491 1366 587" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="398 494 685 518"><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「山形BW5号」の栽培展示ほを県内4か所に設置し、普及を推進。</li> <li>・「山形BW5号」栽培マニュアルを活用した生産指導。</li> </ul> </div>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略2: 水田農業の収益性の向上

#### 戦略分野2: 生産基盤～水田農業の競争力強化と持続的発展のための生産基盤整備～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 水田農業低コスト化基盤整備促進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○水田農業の更なる低コスト化を実現するため、農地の集積・集約化やほ場の大区画化、水稲直播栽培や地下かんがい等省力化技術の導入を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 農村整備課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水田農業の更なる低コスト化を図るための大区画化等の基盤整備を実施した。</li> <li>水稲栽培の更なる低コスト化を図るための「鉄コーティング直播栽培」実証調査を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年度新規採択地区(6地区)を農地中間管理事業のモデル地区に指定(8月)し、継続地区(29地区)のうち、29地区で大区画化等の低コスト化基盤整備を実施。</li> <li>担い手への農地の集積・集約化を促進するには、畦畔撤去による区画拡大や排水路の管路化などの工種に特化した安価でスピーディな「簡易整備型」の制度創設による整備が必要である。</li> <li>「簡易整備型」の制度創設に当たっては、従来型の整備手法と簡易整備型との選定方法についてルール化する必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、水田農業の低コスト化を実現するために必要な生産基盤の整備(大区画化、水路地中管路化など)や水稲直播栽培、地下かんがい等の省力化技術の導入を推進。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 水田農業の低コスト・省力化に向けた基盤整備の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基盤整備実施地区 35 地区のうち 11 地区で、127.7ha の大区画化を整備中。</li> <li>低コスト水田農業の実現に向けた大区画化や排水路の管路化等の基盤整備を実施。</li> <li>低コスト水田農業の実現に向けた大区画化や水路の管路化などに特化した「簡易整備型」の制度検討。[新]</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基盤整備実施地区 42 地区のうち 14 地区で、158.3ha の大区画化の基盤整備を実施予定。</li> <li>低コスト水田農業の実現に向けた大区画化や水路の管路化に特化した「簡易整備型」により 2地区を採択しうち1地区で水路の管路化工事を実施予定。</li> </ul> </div> <p>ii) 農地の集積・集約化の促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農地中間管理機構と連携し事業実施中における農地中間管理事業活用方法の説明(8月)</li> <li>基盤整備を契機とした農地の集積・集約化を促進するため「簡易整備型」の制度検討。[新]</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農地の集積・集約化を促進するため、農地中間管理事業の活用支援を6地区で実施予定。</li> <li>「簡易整備型」の新規制度の対象地域も含めた活用ルールづくりの検討[拡]</li> </ul> </div> <p>iii) 直播等による低コスト生産の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>担い手の米の生産コスト(基盤整備実施地区)</li> <li>大区画ほ場整備面積(累計)</li> <li>水稲直播栽培面積</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>22 億円/年(H27)</li> <li>3,160ha(H27)</li> <li>2,360ha(H28)</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>18 億円/年(H28)</li> <li>3,322ha(H28)</li> <li>2,614ha(H29)</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13 億円/年(4割削減)(H32)</li> <li>4,000ha(H32)</li> <li>3,500ha(H32)</li> </ol>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営体育成基盤整備事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業経営高度化支援事業費</li> <li>農業農村整備事業実施計画費</li> </ul>	

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内と置賜の2か所に設置した鉄コーティング直播栽培実証ほにおいて、大区画ほ場での低コスト栽培技術と水管理省力化技術の実証試験を実施(5月～)</li> <li>・水稻の直播栽培等、低コスト化につながる新たな栽培技術の実証と生産現場への導入に向けた報告会を実施(3月)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる水管理の省力化を推進するため、基盤整備地区へのICTを活用した自動給水栓の普及に向けた実証設置の検討【新】(農業技術環境課関連)</li> </ul>			
<p>(2) 農村インフラ機能保全プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○農業水利施設の機能を将来にわたって安定的に発揮するため、基幹的農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコスト低減を図る効率的な保全管理のほか、農業用ため池等の機能強化による被害未然防止を図るとともに、ソフト・ハードを組み合わせた防災減災対策を推進する。</p> <p><b>【主担当課】</b> 農村整備課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業水利施設については、機能診断、保全計画を作成するとともに、計画に基づく対策工事を実施している。ため池については、耐震点検、ハザードマップ作成、整備工事とソフト・ハード両面で対策を進めている。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業水利施設の機能診断、保全計画作成、対策工事を計画的に進め、長寿命化やライフサイクルコストの低減に結びつけていくことが必要である。</li> <li>・ため池の耐震点検、整備工事を進めるとともに、作成したハザードマップの公表を進め、ソフト・ハード両面で対策を進めることが必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業水利施設の機能維持とライフサイクルコストの低減を図るため、施設の機能診断に基づく長寿命化等による効率的な保全管理を推進。</li> <li>・ため池の機能強化による被害の未然防止とソフト・ハードを組み合わせた防災減災対策による災害リスクの軽減を図る。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能診断を 13 施設で、保全計画策定を 12 施設で実施。</li> <li>・保全対策工事を 13 地区で実施。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能診断を 30 施設、保全計画策定を 31 施設で実施予定。</li> <li>・保全対策工事を 13 地区で実施予定。</li> </ul> <p>ii) ため池等の防災・減災の対策</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震点検を 12 か所で、ハザードマップ作成を 38 か所で実施。</li> <li>・ため池整備工事を 14 地区で実施。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震点検、現地調査、地元・関係機関への周知を9か所で予定。</li> <li>・ため池整備工事の発注及び工事着手を 16 地区で予定。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b> 基幹水利施設における保全計画策定箇所数</p> <p><b>【現状値】</b> 330 か所(H28)</p> <p><b>【戦略策定時】</b> 330 か所(H28)</p> <p><b>【直近】</b> 342 か所(H29)</p> <p><b>【目標値】</b> 418 か所(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県営かんがい排水事業費</li> <li>・基幹水利施設ストックマネジメント事業費</li> <li>・防災減災事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹水利施設ストックマネジメント事業費</li> <li>・防災減災事業費</li> </ul>	

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略3:「園芸大国やまがた」の実現

#### 戦略分野1: 果樹～ブランド力のさらなる強化と次世代につなぐ果樹産地の強化～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 山形さくらんぼ世界一ブランド強化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○大玉品種の開発や高品質安定生産と良品出荷を推進するとともに、省力・軽労化技術の開発と導入による規模拡大や新興地域での産地化を推進する。</p> <p><b>【担当当課】</b> 園芸農業推進課 農業技術環境課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの生産と流通の2組織を統合した「山形さくらんぼブランド力強化推進協議会」を新たに設置し、ブランド力強化や産地の維持・発展に向けた生産から販売までの取組みをオール山形体制で推進した。</li> <li>「山形C12 号」の品種登録出願に向けた現地適応性等の検討や導入に向けた基本方針の検討・策定した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年産の収穫量は 14,500t で、産出額は過去最高の前年を上回る見込みである。更なる産出額増加に向け、オール山形での高品質安定生産・良品出荷の取組みを継続する必要がある。</li> <li>大玉で外観・日持ち性に優れた「山形C12 号」について品種登録出願しており、高品質安定生産技術の確立に加え、ブランド化に向けた生産・流通対策を進める必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでのオール山形体制による高品質安定生産・良品出荷の取組みに加え、省力・軽労化樹形の導入の加速化に向けたソフト・ハード両面からの支援を進めていく。</li> <li>オリジナル新品種「山形C12 号」の速やかなブランド化を図るため、生産者登録制度による知的財産の保護を図るとともに、「佐藤錦」からの改植を基本とした導入を進めながら、大玉果実の生産を進め、早期に出荷ロットの確保を目指していく。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) オール山形での推進体制の強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「山形さくらんぼブランド力強化推進協議会」を開催(2回:4/18、8/23)</li> <li>山形さくらんぼのブランド力強化に向けた、①高品質安定生産、②厳選出荷、③産地基盤強化、④新興産地拡大の4つのプロジェクトを設置</li> <li><b>【高品質安定生産プロジェクト】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>安定生産のため防霜対策キャラバン(4/5～)や結実確保対策キャラバン(4/24～)を実施</li> </ul> </li> <li><b>【厳選出荷プロジェクト】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>出荷規格順守のためポスターやチラシによる啓発活動を実施</li> <li>出荷規格順守のため産地市場(4市場×5回)及び沿道販売店の巡回活動を実施(村山 116 か所、置賜 13 か所、最上8か所、庄内 58 か所)</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの4つの取組みに、「山形C12 号ブランド化プロジェクト」、「山形さくらんぼGI登録検討プロジェクト」を加えた6つのプロジェクトで、山形さくらんぼのブランド力強化対策をオール山形で推進。</li> <li>今年度のアクションプランを検討・策定するための協議会の開催(4/17)</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>さくらんぼ収穫量</li> <li>さくらんぼ産出額</li> <li>さくらんぼ大玉品種の開発</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13,200t (H27)</li> <li>332 億円 (H26)</li> <li>—</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15,000t (H28)</li> <li>344 億円 (H28)</li> <li>[368 億円 (H29 県推計)]</li> <li>—</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14,300t (H32)</li> <li>345 億円 (H32)</li> <li>1品種登録出願 (H29)</li> <li>1品種登録 (H32)</li> </ol>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園芸大国やまがた産地育成支援事業費</li> <li>園芸大国やまがた推進事業費</li> <li>果樹農業好循環形成総合対策事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さくらんぼ世界一プロジェクト事業費</li> <li>山形さくらんぼブランド力強化プロジェクト事業費</li> </ul>	<p>山形さくらんぼブランド力強化推進協議会</p> <p>最上さくらんぼブランド確立プロジェクト推進会議</p> <p>庄内さくらんぼ生産振興協議会</p> <p>さくらんぼ労働力確保推進協議会</p> <p>山形さくらんぼ世界一プロジェクト推進会議</p>



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定生産に向けた防霜対策キャラバン・結実確保対策キャラバンの開催(4/5、4/18)</li> <li>・出荷規格順守の啓発に向けた巡回活動の実施(5月～6月)</li> <li>・平成30年度の総括と生産から販売までの取組内容の評価検証(8月)</li> <li>・県全域を対象とした山形さくらんぼとしてのGI登録申請に向けた課題整理と対応の検討【新】</li> </ul> <p>【山形C12号ブランド化プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「山形C12号」ブランド化プランの検討・策定(5月、8月)【新】</li> <li>・名称の募集・決定と国内外での商標登録出願【新】</li> <li>・大玉安定生産のための着果管理技術の確立(4月～、園芸試験場)【新】</li> <li>・生産者登録制度の導入と苗木の販売開始(11月)【新】</li> </ul> <p>ii)産地の基盤強化(産地基盤強化プロジェクト)</p> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省力・軽労的な仕立て方(平棚・Y字・V字)の導入に向けた作業性の評価を実施。</li> </ul> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省力・軽労化樹形の導入推進に向けた研修会の開催(7月～10月)【拡】</li> <li>・省力・軽労化樹形の栽培マニュアルの作成(年度内)【新】</li> <li>・優良な果樹園地を継承に向けた仕組みづくりの検討会の開催(12月)【新】</li> </ul> <p>iii)さくらんぼ労働力の確保</p> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てママや仙台圏居住者などの新規労働力の掘り起こし。  <ul style="list-style-type: none"> <li>子育てママ向けフリー情報誌による募集PR(2回:4、5月号、5万部)</li> <li>仙台圏新聞折込みチラシによる募集PR(5/7、10万部)</li> <li>作業体験研修会の開催(子育てママ対象、6/7、11名、仙台圏居住者対象、5/27、47名)</li> </ul> </li> <li>・県職員の新規採用職員研修の一環としての収穫等の作業体験と、有志等による作業ボランティアを実施。  <ul style="list-style-type: none"> <li>(新規採用職員研修6/9、178名、県職員ボランティア6/24、81名)</li> </ul> </li> <li>・さくらんぼ労働力確保プロジェクト会議において今年度の取組みの評価・検証を実施(9/13)</li> <li>・30年度の具体的な取組みを検討するプロジェクト検討チーム会議を開催(10/11)</li> <li>・30年度のアクションプランを策定するさくらんぼ労働力確保プロジェクト会議の開催(2/14)</li> </ul> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取組内容の検討や取組実績の評価・検証を行う会議の開催(4月、9月)</li> <li>・新たな雇用労働力確保に向けたSNS等多様な媒体を活用したPRの実施(5月～)【新】</li> <li>・子育てママや仙台圏居住者対象の管理作業研修会の開催(5月～6月)</li> <li>・新規採用職員や県職員の有志等による作業ボランティアの実施(6月)</li> </ul> <p>iv)さくらんぼの加工技術の開発</p> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果実形状・香りを生かしたセミドライフルーツや飲料開発に向けた加工処理法の検討を実施。</li> </ul>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・セミドライフルーツの加工条件を解明。 ・相談のあった2社とセミドライフルーツを試作。</p> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b> ・果実加工に興味のある加工業者と商品化に向けた加工技術をすり合わせ ・引き続き、セミドライフルーツや飲料等の商品化に向けた技術支援の実施。</p> <p>v) 新興地域での産地化の推進(新興産地拡大プロジェクト)</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b> [最上地域] ・「紅秀峰」の大玉生産技術の普及・定着のため技術展示ほを設置(2園地) ・高品質安定生産技術の普及・定着のため栽培管理重点指導園地を設置(7園地) ・耐雪・省力仕立ての普及のため仕立て方研修会を開催(2回:6/7、9/4) ・生産者の技術向上と「もがみさくらんぼ」PRのため品評会を開催(6/29) ・今後の振興策を検討するための意見交換会を開催(12/6) [庄内地域] ・規模拡大のための新たな仕立て方(V字仕立て)の普及に向けた実証ほを設置(1か所) ・大規模園地(1ha×3か所)の形成に向け大苗育苗に対する技術指導を実施(随時) ・振興策を検討するための「庄内さくらんぼ生産振興協議会」を開催(3/16)</p> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b> [最上地域] ・振興方策の検討ならびに取組実績の評価検証のための「最上さくらんぼブランド確立プロジェクト推進会議」の開催(4月、3月) ・「もがみ・さくらんぼ通信」の発行、「紅秀峰」の高品質安定生産技術指導(随時) ・耐雪性の高い仕立て方(Y字)の導入推進に向けた技術指導(随時)[拡] ・もがみさくらんぼ品評会の開催(「佐藤錦」、「紅秀峰」、6月～7月)[拡] [庄内地域] ・振興方策の検討ならびに取組実績の評価検証のための「庄内さくらんぼ生産振興協議会」の開催(4月、3月) ・「庄内さくらんぼ通信」の発行、観光さくらんぼ園の巡回指導等(随時) ・大規模園地の形成に向けた省力・軽労的な仕立て方(V字)の技術指導(随時)[拡]</p> <p>vi) さくらんぼ世界一プロジェクトの推進</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b> ・世界各国の研究者が一堂に会し国際アウトウシンポジウムを開催(28か国 245名、6/5～6/9) ・大玉系統「山園C12号」の生育・果実特性の評価・検討を実施(県内10か所) ・「山形C12号」の品種登録出願および出願公表(9/28、12/19)[新] ・さくらんぼ世界一プロジェクト推進会議「流通・販売部」「大規模化・軽労化」部会合同会議を開催(11/22)</p> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b> ・超大玉品種の育成・選抜(4月～) ・さくらんぼ世界一プロジェクト推進会議の開催(1月)</p>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(2) 西洋なし産地ブランド強化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○「ラ・フランス」の生産性の向上に取組みながら、食味重視の生産・出荷・販売による消費拡大、優良新品種のブランド化に向けた生産・販売活動を展開する。</p> <p>【担当課】 園芸農業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食味を重視した「ラ・フランス」の生産・出荷に向けたオール山形での取組みの推進や消費拡大に向けた食べ頃判断方法等のプロモーション活動を推進した。</li> <li>・高級果実専門店を対象とした「メロウリッチ」の大玉生産技術の普及・定着や品種特性のPR活動を推進した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <p>[ラ・フランス]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適期収穫・産地追熟の徹底と販売開始基準日の定着により、市場からの評価は高まってきており、継続した取組みが必要である。</li> <li>・一方で、消費が伸び悩んでいるため、新たな消費拡大方策の検討や、ピールカット商品等の流通による新規需要の掘り起こし等を進めていく必要がある。</li> </ul> <p>[メロウリッチ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果実専門店をターゲットにした生産・販売の取組みが定着してきており、高単価で販売されているため、県主導から生産者団体を主体とした取組みへの移行を進める必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ラ・フランス」の新たな消費拡大方策を取り入れた、オール山形での食味を重視した生産・出荷・販売の取組みの推進とピールカット等新たな食べ方提案による需要の掘り起こし。</li> <li>・「メロウリッチ」の大玉生産技術の普及・定着と、高価格帯での販売によるブランド確立の支援。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 「ラ・フランス」のブランド力向上</p> <div data-bbox="387 868 1366 1070" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ラ・フランス」だよりにより生育状況と収穫・出荷見込み等の情報を発信(9/13～)</li> <li>・適期収穫、産地追熟を推進するための「ラ・フランス」振興協議会を開催(10/3)</li> <li>・新たな食べ方の提案による消費拡大のためのピールカット製造法の研修会を開催(10/13)</li> <li>・消費拡大のための果実の取扱いや食べ頃判断方法の消費地等での周知・徹底(11/9)</li> <li>・今年産の生産・出荷・販売状況の総括と取組内容を評価・検討(3/6)</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 1070 1366 1240" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適期収穫・産地追熟の推進や今年産の取組内容の評価・検証に向けた山形県「ラ・フランス」振興協議会の開催(9月、3月)</li> <li>・消費者等、多様な視点からの意見を踏まえた新たな消費拡大方策の検討(8月)[新]</li> <li>・ピールカット技術の普及・定着に向けた研修会や食べ頃判断研修会を開催(10月)[拡]</li> </ul> </div> <p>ii) 新品種の導入推進</p> <div data-bbox="387 1273 1366 1442" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「メロウリッチ」研究会の会員を対象として、大玉生産のための優良園地巡回や研修会を開催(8/16)</li> <li>・良食味果実生産のため収穫適期判定会を開催(9/19)</li> <li>・「メロウリッチ」の品種特性や食味をPRするための試食宣伝会を実施(10/5、東京都大田市場)</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 1442 1366 1509" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会による収穫適期判定会や消費地での試食宣伝会の開催に向けた支援(9月～10月)</li> </ul> </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①西洋なし産出額</li> <li>②「ラ・フランス」単価</li> </ol> <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①50億円(H26)</li> <li>②311円/kg(H27)</li> </ol> <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①61億円(H28) [57億円(H29県推計)]</li> <li>②318円/kg(H28)</li> </ol> <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①60億円(H32)</li> <li>②340円/kg</li> </ol>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</li> <li>・園芸大国やまがた推進事業費</li> <li>・果樹農業好循環形成総合対策事業費</li> </ul> <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新西洋なし産地活性化プロジェクト事業費</li> </ul>	<p>「ラ・フランス」振興協議会</p> <p>「メロウリッチ」研究会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(3) りんご産地生産力強化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○市場性の高い中生品種の絞り込みによる出荷ロットの拡大や、品質の高い「ふじ」の出荷促進による市場評価の向上、省力・軽労的な生産方式による規模拡大を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 園芸農業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良食味生産を基本としたオリジナル品種「秋陽」等の中生種のロット拡大や、「ふじ」の高品質果実の出荷推進による市場評価の向上とブランド力強化に向けた取組みを推進した。</li> <li>・省力・軽労的な生産方式の評価を進めながら、効率的な管理作業の導入を推進した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県オリジナル品種「ファーストレディ」は、商品果率が不安定なため振興方針の再検討が必要である。「秋陽」は、一元販売により販売ロットが拡大し、市場評価も高まっていることから、今後は、他の中生品種についても販売方策の統一化を検討する必要がある。</li> <li>・今後は、「りんご産地強化推進会議(仮称)」を核として、課題の抽出と対応策の検討を行い、産地一丸となって、本県産りんごのブランド力の強化を図る必要がある。</li> <li>・省力的で早期成園化が期待される新たな樹形(ロンバス仕立て)については、普及性を検討しながら、導入を図っていく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体、県で本県りんごの生産面や流通・販売面での課題の抽出と対応策を協議し、良食味果実の生産出荷を基本としながら、市場評価向上のための取組みを展開していく。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 戦略推進体制の強化</p> <div data-bbox="385 791 1364 1059" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県オリジナル品種「ファーストレディ」、「秋陽」の一元販売に向け出荷協議会を開催(ファーストレディ8/18、秋陽9/22)</li> <li>・「ファーストレディ」の統一共選による一元販売(8/24～9/4)と市場試食宣伝を実施(8/25、東京都大田市場)</li> <li>・「秋陽」の一元販売(9/28～10/14)と首都圏量販店における試食宣伝を実施(9/28～、のべ40店舗)</li> <li>・本県りんごの生産・流通販売の課題抽出と対応策に関する意見交換会を開催(2/16)[新]</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1059 1364 1195" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「秋陽」の良食味生産のための出荷開始基準日検討会や目揃え会の開催(9月)</li> <li>・りんご産地強化推進会議(仮称)設立会議の開催と本県りんご産地の課題の抽出と対応策の検討(7月)[新]</li> </ul> </div> <p>ii) りんご生産の効率化</p> <div data-bbox="385 1240 1364 1375" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな樹形(ロンバス仕立て)の省力性や耐雪性、収量性等を評価する現地調査を実施(4月～)</li> <li>・関係団体と連携し、ロンバス仕立ての特性や普及性を検討するための現地巡回を実施(7/28、3/27)</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1375 1364 1477" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省力・軽労的な仕立て方(ロンバス仕立て)の実証ほの設置(4月～)[新]</li> <li>・実証ほを活用したロンバス仕立ての導入推進に向けた現地研修会の開催(9月)[拡]</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①りんご産出額 ②一元販売品種数</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①114億円(H26) ②2品種(H27)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①111億円(H28) [102億円(H29県推計)] ②2品種(H28)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①120億円(H32) ②4品種(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</li> <li>・園芸大国やまがた推進事業費</li> <li>・果樹農業好循環形成総合対策事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りんご産地生産力強化プロジェクト事業費</li> </ul>	<p>りんご産地強化推進会議(仮称)</p> <p>「ファーストレディ」研究会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(4) ぶどう産地活性化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○「シャインマスカット」の導入促進と品質の高位平準化や戦略的な販売展開によるブランド構築を図るとともに、ワイン用ぶどう等の省力栽培の導入により、産地の活性化に取り組む。</p> <p><b>【主担当課】</b> 園芸農業推進課 農業技術環境課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シャインマスカット」は、シャインマスカットプロジェクト会議を軸として、フォーラムや研修会等を開催し、栽培面積の拡大を図るとともに、高品質生産とギフト需要に対応した貯蔵品販売を推進した。</li> <li>・ワイン用ぶどうを求めるワイナリーと生産組織等との情報交換会の開催によるマッチング支援と本県に適したワイン用ぶどう栽培技術確立のための実証内容を検討した。</li> <li>・これまで県オリジナル品種の開発に向けて予備試験を行ってきており、H30 より本格的に品種開発を開始した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シャインマスカット」は、栽培面積が拡大している一方で、栽培経験がない新規栽培者が増加しているため、これまでの高品質生産の技術指導に加え、新規栽培者向けの指導を強化する必要がある。</li> <li>・ワイン用ぶどうは、栽培面積の拡大に加え、生産者自らワイン製造に取り組む事例も増えているため、マッチング支援や本県に適したワイン用ぶどう栽培技術実証を進めていく必要がある。</li> <li>・本県産ぶどうのブランド力強化のためには、消費者ニーズの高い皮ごと食べられる赤系大粒ぶどう品種を開発する必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シャインマスカット」では、新規栽培者向けの技術指導を強化しながら更なる面積拡大を図るとともに、ギフト需要に対応した品質の向上、貯蔵品の出荷の拡大を目指していく。</li> <li>・ワイン用ぶどうでは、これまでの取組みに加え、推進ワーキング会議を核として、ワイナリー・生産者組織・産地市町が連携した振興策の検討を行いながら、本県に適した栽培技術の実証を進め、県産ワイン用ぶどうの生産拡大を目指していく。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i)「シャインマスカット」の産地拡大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シャインマスカット」プロジェクト会議を開催(5/22)</li> <li>・新規栽培者を対象とした栽培講習会を開催(5月～7月)</li> <li>・庄内地域において水稲育苗ハウス活用した高品質生産に向けた技術指導を実施(5月～)</li> <li>・中粒種等からの転換を誘導する高接ぎ講習会を開催(6月)</li> <li>・新規栽培者の技術習得に役立つ摘粒等の「作業の見える化」に向け試験研究を実施(5月～)[拡]</li> <li>・補助事業を活用した新植や他樹種等からの改植を支援。</li> <li>・県内外の新技术を学ぶための「シャインマスカットフォーラム」を開催(11/7)</li> </ul> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シャインマスカット」プロジェクト会議の開催(5月)</li> <li>・新規栽培者を対象とした県全体の研修会の開催(5月、7月)[拡]</li> <li>・庄内地域における水稲育苗ハウス活用した高品質生産に向けた技術指導(随時)</li> </ul> </div> <p>ii)ギフト需要に対応した「シャインマスカット」のブランド化</p>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①ぶどう産出額 ②「シャインマスカット」栽培面積</p> <p><b>【現状値】</b> 〔戦略策定時〕</p> <p>①91億円(H26) ②87ha(H26)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①109億円(H28) 〔102億円(H29県推計)〕 ②105ha(H27)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①115億円(H32) ②150ha(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</li> <li>・園芸大国やまがた推進事業費</li> <li>・果樹農業好循環形成総合対策事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぶどう振興プロジェクト事業費</li> </ul>	<p>シャインマスカットプロジェクト会議</p>



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培技術の高位平準化を図るための研修会を開催(2回:5/12、7/11)</li> <li>・高品質栽培技術の優良事例を産地間で共有するため園地巡回を実施(8/2)</li> <li>・品質向上とPRのため「山形県シャインマスカット品評会」を開催(9/28、東京都大田市場)</li> <li>・長期貯蔵出荷推進のための研修会や市場関係者による現地求評会を開催(11/30)</li> <li>・高品質生産のためのパンフレットの作成・配布(3月)[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品質の高位平準化を図る優良園地巡回研修会の開催(8月)</li> <li>・長期貯蔵販売推進のための研修会の開催(10月)</li> <li>・冬のギフト商品向けのPR資材(果房に取り付けるタグ等)の作製・活用(9月～)[新]</li> </ul> <p>iii) ワイン用ぶどう等の導入推進</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種補助事業による新規ワイナリーの開設や耕作放棄地等におけるワイン用ぶどう導入への助成を実施。</li> <li>・ワイン用ぶどうを求めるワイナリーと生産組織との情報交換会を開催(6/28)</li> <li>・省力・高品質生産のための仕立て方(スマートマイヨルガー仕立て等)を検討(園芸試験場)</li> <li>・ワインツーリズムの先進地事例調査を実施(5/30～6/3、米国 ナパバレー)[新]</li> <li>・本県に適したワイン用ぶどう栽培技術確立のための実証内容を関係団体・市町と連携し検討(10月～)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地実証ほの設置と本県に適した品種や栽培手法の検討(南陽市十分一山・上山市小穴、4月～)[新]</li> <li>・ワイン用ぶどう推進ワーキング会議(仮称)の開催(7月)[新]</li> </ul> <p>iv) サニールージュの産地確立</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培マニュアルを活用した研修会を実施(2か所×2回:5月・6月)</li> <li>・ジベレリン処理の省力化技術の現地実証ほを設置(1か所)</li> <li>・省力化技術の普及定着を図るための研修会を開催(2月)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査ほ設置と技術指導者検討会の開催による栽培技術の見直しとマニュアルの改訂</li> <li>・栽培面積拡大と高品質安定生産を図るための現地研修会の実施(5月～)</li> </ul> <p>v) 赤系大粒ぶどうの新品種開発</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県に適したぶどう育種方法の検討を実施。</li> <li>・赤系大粒ぶどうの品種開発に向けた研究課題を設定(2月)[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交雑の実施(2組合せ)と交雑実生の獲得。</li> <li>・皮ごと食べられる品種育成のため、ぶどう果皮・果肉の硬さを評価する方法の検討(9月～)</li> </ul>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(5)「北の桃源郷」もも産地拡大プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○立枯れ防止技術の実証等による枯死対策技術の定着と晩生品種の栽培体系の確立による生産拡大を加速し、晩生もものブランド化を推進する。</p> <p><b>【担当当課】</b> 園芸農業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「北の桃源郷ももづくりプロジェクト会議」を軸として、晩場産地の優位性を活かした晩生品種の栽培拡大・ブランド化を図っている。現在、生産ロット拡大のため、優良品種の絞り込みと出荷規格統一に向けて検討中。</li> <li>・「立枯れ防止対策プロジェクト会議」において、実証ほの設置、研修会の実施、栽培マニュアルの配布等により、立枯れしにくい新しい仕立て方(ハイブリッド仕立て)の導入推進を図っている。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・晩生品種の栽培面積は増加しているが、今後は、生産ロット拡大に向けた品種の絞り込みや選果のばらつきを解消するための出荷規格統一によるブランド力向上が必要である。</li> <li>・これまでの立枯れ防止対策に加え、立枯れに強く、多収で高品質果実生産が可能な新しい仕立て方(ハイブリッド仕立て)の導入に向けた、ソフト面とハード面での支援が必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有望な晩生品種の絞り込みや選定した品種の高品質生産技術の確立に加え、立枯れ対策技術の普及・定着による安定生産を図ることで、遅場産地としてのブランド確立を図っていく。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 晩生ももの産地化の推進</p> <div data-bbox="385 756 1364 890" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高品質果実の安定生産に向け樹体管理・着果管理研修会を開催(7/27)</li> <li>・出荷規格の統一及び新たな晩生品種選定のため検討会を開催(第1回、9/22)</li> <li>・補助事業を活用した新植や他樹種等からの改植の支援を実施。</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 890 1364 1024" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推奨品種選定と販売方策統一化のための検討会の開催(9月)</li> <li>・実証ほ設置による9月下旬に収穫できる晩生優良品種の選定(9月～10月)</li> <li>・登録商標「北の桃源郷」の知名度向上とブランド化を推進するためのPR活動(8月～)</li> </ul> </div> <p>ii) 樹体の枯死対策の推進</p> <div data-bbox="385 1072 1364 1238" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立枯れ対策技術の情報共有を図るため園地巡回を実施(7/20)</li> <li>・立枯れに強い新仕立て方の栽培研修会を開催(9/1)</li> <li>・ハイブリッド仕立ての冬期栽培管理研修会を開催(3/2)</li> <li>・ハイブリッド仕立て栽培マニュアルを作成・発行(3月)[新]</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1238 1364 1372" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイブリッド仕立て実証ほを活用した立枯れに強い樹体づくりの展示と研修会の開催(4月～)</li> <li>・ハイブリッド仕立ての導入推進(気象変動対策設備として、支柱の導入支援)(随時)</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①もも産出額 ②もも立枯れ発生割合</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①26億円(H26) ②15%(H27)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①31億円(H28) ②7%(H29)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①34億円(H32) ②5%以内(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</li> <li>・園芸大国やまがた推進事業費</li> <li>・果樹農業好循環形成総合対策事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「北の桃源郷」もも産地拡大プロジェクト事業費</li> </ul>	<p>「北の桃源郷」ももづくりプロジェクト会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(6) 特産果樹産地強化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○高品質安定生産を推進し、市場評価の向上を図るとともに、産地・品目の特性を活かした付加価値の高い流通・販売を図りながら、産地の強化や新たな産地づくりを推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 園芸農業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かき、日本なしは、大玉生産の普及・定着に向けた技術指導を進めるとともに、現地実証ほを設置し、市場評価の高い新品種等の導入を推進した。</li> <li>・すももでは、「サンルージュ」、「サンセプト」等の地域オリジナル品種の良食味出荷に向けた、適期収穫等の適切な栽培管理の徹底による高品質安定生産を推進した。</li> <li>・香酸かんきつ(すだち)では、普及推進に向けた栽培技術や収穫法の周知を図るとともに、旅館等での利用促進に向けたプロモーション活動を展開した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かき、日本なしは、大玉生産の取組みにより、単価が向上しており、引き続き大玉栽培技術の普及・定着を図っていく必要がある。</li> <li>・すももは、地域オリジナル品種の栽培面積が拡大しており、今後は、収穫期判定指標に基づいた適期収穫により良食味出荷を推進し、ブランド化を図っていく必要がある。</li> <li>・香酸かんきつ(すだち)は、栽培技術や商品性の高い収穫法が確立されつつあることから、飲食店等での活用を促進し、付加価値の高い販売ルートの開拓や地域活性化を図っていく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かき、日本なしでは、省力で大玉生産可能な栽培技術の普及・定着を図るとともに、日本なしでは、市場評価が高い品種の導入を推進。</li> <li>・地域オリジナルすもも品種(「サンルージュ」、「サンセプト」、「光李」)の栽培技術の普及や良食味果実出荷により、市場評価の向上と生産拡大を図る。</li> <li>・旅館や飲食店等と連携した香酸かんきつの活用を促し、地域の活性化を図る。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i) かき産地の強化</p> <div data-bbox="387 959 1368 1225" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内柿大玉生産マニュアルの作成に向けた優良事例調査を実施(5回:6月～8月)</li> <li>・大玉生産技術(早期着果制限)の普及・定着のため講習会を開催(摘蕾:5月、摘果:7月)</li> <li>・大玉生産及び干し柿生産による付加価値創出に関する先進地事例調査を実施(8/30、会津)</li> <li>・干し柿生産の導入推進のため販売検討会を開催(6/6)</li> <li>・市場評価の高い新品種「太秋」、「太天」の栽培特性を把握するための現地実証ほを設置。</li> <li>・付加価値の高い干し柿加工を推進する「庄内柿産地再生フォーラム」を開催(3/15) [新]</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 1230 1368 1394" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内柿振興協議会を核とした「庄内柿産地再生方針」に基づく取組内容の評価検証(3月)</li> <li>・大玉生産のためのマニュアル作成・配布と実証ほを活用した技術指導による大玉生産技術の普及・定着(マニュアル作成:年度内、技術指導:4月～) [新]</li> <li>・大玉生産技術の普及・定着を目指すフォーラムの開催(2月)</li> </ul> </div> <p>ii) 日本なし産地の強化</p> <div data-bbox="387 1442 1368 1506" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大玉生産(早期着果制限)に向けた巡回指導を実施(4回:5月～8月)</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①かき平均単価 ②日本なし平均単価</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①158円/kg(H27) ②214円/kg(H27)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①167円/kg(H29) ②226円/kg(H29)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①175円/kg(H32) ②240円/kg(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</li> <li>・園芸大国やまがた推進事業費</li> <li>・果樹農業好循環形成総合対策事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内柿産地再生プロジェクト事業費</li> </ul>	<p>庄内柿振興協議会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あきづき」の高品質安定生産のための巡回指導を実施(2回:6/22、7/26)</li> <li>・市場評価の高い品種導入に向けた市場関係者との情報交換会を開催(12/21)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大玉生産(早期着果制限)に向けた巡回指導(3回:6月～8月)</li> <li>・適期害虫防除実施のため、トラップ設置及び巡回調査(8回:5月～8月)</li> <li>・「あきづき」や「南水」等高接や改植支援。</li> </ul> </div> <p>iii) すもも産地の強化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品種に合わせた結実確保、着果管理技術を普及する講習会を開催(2回:4/19、5/25)</li> <li>・「サンルージュ」、「サンセプト」等における収穫期判定指標に基づいた適期収穫の指導及び新品種「光李」の収穫適期判定指標の作成。</li> <li>・補助事業を活用した新植や他樹種等からの改植の支援を実施。</li> <li>・良食味出荷のための収穫基準の定着を図る研修会を開催(1月)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品種特性にあった適正な管理作業の徹底に向けた栽培管理講習会・研修会の開催(4月～)</li> <li>・新たに作成した収穫適期判定指標を活用した新品種「光李」等の高品質安定生産・出荷に向けた講習会の開催(8月)</li> </ul> </div> <p>iv) 温暖化に対応した地域活性化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香酸かんきつ(すだち)の栽培技術や収穫法を普及するため研修会を開催(5/31)</li> <li>・地域の旅館・飲食店等において香酸かんきつ(すだち等)を活用(10月)</li> <li>・のぼりやリーフレットを活用した県産すだちPRを実施。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p><b>【平成 30 年度取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・傷果等の利用方法の検討。</li> <li>・庄内地域の旅館・飲食店における県産すだちの利用促進に向けたPR・打ち合わせ。</li> <li>・販促資材(のぼりやリーフレット)による県産すだちのPRの実施。</li> <li>・飛島における活用方法の検討。</li> </ul> </div>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略3:「園芸大国やまがた」の実現

#### 戦略分野2:野菜～次世代型施設園芸の導入と水田フル活用による野菜産地の拡大～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 山形えだまめ・すいか日本一産地化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○えだまめは産出額日本一を目指し、すいかは「夏すいか日本一」の地位を盤石なものにするため、省力技術や機械(収穫機等)の導入による規模拡大を進めるとともに、選果施設を核とした産地基盤の強化とブランド力の向上を図る。</p> <p><b>【担当当課】</b> 園芸農業推進課 農村整備課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <p>[えだまめ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良食味安定生産に向けて迅速かつ非破壊で食味成分を評価できる光センサーシステムを構築するとともに、茶毛系品種の良食味基準を設定した。長期継続出荷のため7月出しの品種として「おつな姫」と「味風香」を選定するとともに、JR山形新幹線での車内販売に取り組んだ。</li> </ul> <p>[すいか]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車メーカーと連携して、すいか版作業工程管理システムを年度内に試作した。また、ICTを活用した病害発生予測通知システムの導入や種なしすいかの安定生産の実証に取り組んだ。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <p>[えだまめ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産出額は 41 億円(H28)で、全国2位となっているが、産出額日本一に向けては、大規模団地の育成や機械化体系の導入による生産性向上、良食味基準に基づいた高品質安定生産の推進、継続出荷などの生産から販売までの総合的な取組みが必要である。</li> <li>・良食味安定生産に向けた光センサーシステムによる現地の食味レベルの評価と食味基準の設定は茶毛系品種では確立できたため、「秘伝」等の白毛系品種の構築が必要である。</li> <li>・販売PRでは、JR関連店舗での販売などを含めて新たなPR方法を再検討する必要がある。</li> </ul> <p>[すいか]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産出額は 62 億円(H28)と大きく伸びたが、今後とも持続的に産出額拡大を図るためには、生産工程の改善や省力化による規模拡大、高齢化に対応した軽労化技術の普及と新商品の開発が必要である。</li> <li>・生産工程の改善では、試作したすいか版作業工程管理システムの評価、検証が必要である。</li> <li>・軽労化が図られる栽植方式の普及拡大を図るとともに、新商品として期待される種なしすいか品種について検討する。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <p>(えだまめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本一の産出額の産地を目指すために、科学的根拠に裏打ちされた良食味えだまめの生産、知名度の向上による単価の向上と長期継続出荷を組み合わせた生産拡大を推進。</li> </ul> <p>(すいか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏すいか日本一の産地拡大に向けて、規模拡大の妨げとなっている作業工程の改善やICTを活用した安定生産技術等を導入し、新選果施設を核とした産地規模の拡大を推進。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 山形えだまめの日本一産地づくりの推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助事業を活用した、収穫から集荷調整まで機械化による団地化を支援(白鷹町) [新]</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①えだまめ産出額 ②えだまめ単価 ③すいか産出額 ④すいか単価</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①30 億円(H26) ②478 円/kg(H26) ③44 億円(H26) ④130 円/kg(H26)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①41 億円(H28) ②588 円/kg(H28) ③62 億円(H28) [58 億円(H29 県推計)] ④184 円/kg(H28)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①52 億円(H32) ②690 円/kg(H32) ③58 億円(H32) ④160 円/kg(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</li> <li>・園芸大国やまがた推進事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形えだまめ・すいか日本一産地化プロジェクト事業費</li> </ul>	<p>山形えだまめ日本一産地化推進協議会</p>



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光センサーによる 250 サンプルの分析結果に基づき茶毛系品種の良食味基準作成。[新]</li> <li>・7月出し品種の選定に向け現地適応性試験を実施(地域:西村山・西置賜・庄内)し、2品種を選定(おつな姫、味風香)[新]</li> <li>・県産えだまめのPRを目的としたJR山形新幹線における車内販売を実施(9月の金・土・日曜日及び祝日(延べ 15 日間)、品種:だだちゃ豆、ゆかた娘、雪音、秘伝)[新]</li> <li>・農協と生産者が一体となったブランド化による所得向上に向け「えだまめフォーラム」を開催(9/14、130 名参加)[拡]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良食味安定生産に向けた光センサーシステムによる「秘伝」等の白毛系品種の食味基準の設定。</li> <li>・長期安定出荷を実現するための7月出し良食味品種等の普及推進。</li> <li>・日本一高単価な産地(群馬県)から講師を招聘しての「えだまめフォーラム」の開催。</li> </ul> <p>ii) 日本一夏すいかの生産力の強化 [新]</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <p>[作業工程改善]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業工程管理システムの開発に向け推進会議を開催(4/14)[新]</li> <li>・自動車メーカーと連携し現地調査を実施(3回、調査内容:生産工程毎の作業方法、時間、作業姿勢、作業ロスなど)[新]</li> <li>・作業工程管理システムの試作版を報告。[新]</li> </ul> <p>[病害発生対策]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な病害虫防除に向け炭そ病の発生予測通知システムの有効性を検討。[新]</li> </ul> <p>[新商品開発]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種なしすいかの導入可能性を検討するため品種比較し、2品種を選定(タイガー、ほお晴れ)[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すいか版作業工程管理システムの実証・評価。[拡]</li> <li>・軽労化が図られる栽植方式の普及拡大と新商品として期待される種なしすいか品種について検討。</li> </ul>			
<p>(2) 野菜産地ランクアッププロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○本県の強みを活かせるトマトと土地利用型野菜(ねぎ、アスパラガス、にら)については、栽培施設の導入と水田転換畑への作付拡大を推進しながら、生産性の向上、出荷期</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型ハウスを利用した大規模なモデル経営体の育成に向けて、川西町及び酒田市で施設が整備され生産が開始された。</li> <li>・土地利用型野菜は、ねぎ、アスパラガス、にらの新技術研修会や省力機械の現地検討会を開催した。これらの産地強化に向けた取組により栽培面積及び産出額が増加しており、中でも、アスパラガスが伸びている。</li> </ul> <p>②評価・課題等 [トマト]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県におけるトマト生産は、パイプハウスによる夏秋栽培が中心であったが大型ハウスを利用した大規模な経営体が始まっており、この動きを他地域にも波及させていく必要がある。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①トマト産出額</li> <li>②トマト生産量</li> <li>③土地利用型野菜(アスパラガス、にら、ねぎ)産出額</li> <li>④土地利用型野菜(アスパラガス、にら、ねぎ)作付面積</li> </ol>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</li> <li>・園芸大国やまがた推進事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形野菜産地強化プロジェクト事業費</li> </ul>	<p>トマト産地強化プロジェクト会議</p> <p>土地利用型野菜産地強化プロジェクト会議</p> <p>おかひじきプロジェクト会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>間の延長、経営規模の拡大により、全国トップクラスの産地を目指していく。</p> <p><b>【担当課】</b> 園芸農業推進課</p>	<p>[土地利用型野菜]</p> <p>平成 30 年からの米政策の見直しにより産地間競争の激化が予想され、省力技術や機械化一貫体系の導入による規模拡大や大規模団地化などによる効率的な生産量の拡大を推進する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アスパラガスは、大規模経営の事例を活用した規模拡大と新産地づくりを推進する必要がある。</li> <li>・ねぎは、長期継続出荷技術の普及や省力多収生産技術を開発する必要がある。</li> <li>・にはら、長期継続出荷のための栽培技術の開発や優良品種の選定・普及を推進する必要がある。</li> </ul> <p>[おかひじき]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産拡大のために、施設の高度利用による生産性の向上と担い手の育成を継続して支援する必要がある。</li> </ul> <p><b>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トマトは、栽培施設の導入に向けた支援と産地を牽引するモデル経営体の育成、多収化技術の普及による生産拡大を推進。</li> <li>・土地利用型野菜は、水田をフル活用した生産の拡大のために、担い手の育成と省力技術や多収化技術の普及による産地の拡大を推進。</li> </ul> <p><b>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</b></p> <p>i) 高収益が見込まれる野菜の産地形成の強化</p> <div data-bbox="385 804 1364 1141" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助事業を活用し大型トマトハウス整備(川西町、酒田市)や生産拡大に必要な施設整備・機械導入への支援を実施(14 件)</li> <li>・大玉、中玉トマトは、9 月～11 月どりの単収向上に向け栽培管理と草勢管理技術の開発(園芸試験場、最上産地研究室)と着果管理改善の現地実証(大蔵村)を行うとともに、講習会(4 回)、検討会(11/7、29 名)を開催。</li> <li>・ミニトマトの障害果発生軽減技術の現地実証を実施(鶴岡市)</li> <li>・大規模経営体を育成するためのリーダー的トマト生産者を対象にした研修会を開催(11 月)</li> <li>・おかひじきは栽培技術習得に向けた「栽培塾」の開催(10～11 月)と高収益化を図るためハウス高度利用体系(6 回作付/年)実証ほを設置(南陽市)</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1141 1364 1310" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手リーダー育成のため県内 4 地域の若手代表らの先進地調査研修の開催(11 月、栃木)</li> <li>・大規模経営体の育成に向け次世代型施設園芸の成果を学ぶセミナーの開催(12 月)</li> <li>・おかひじきは「栽培塾」(4 月～11 月、月 1 回)と冬期安定出荷に向けた保温技術研修会の開催。[拡]</li> </ul> </div> <p>ii) 土地利用型野菜の産地形成の強化</p> <div data-bbox="385 1353 1364 1485" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA の野菜担当者等を対象に土地利用型野菜生産拡大に向け新技術研修会を開催(9/4)</li> <li>・今年度の開発技術や実証技術の評価・検証する検討会を開催(11 月)</li> </ul> <p>[アスパラガス]</p> </div>	<p><b>【現状値】</b></p> <p><b>【戦略策定時】</b></p> <p>①36 億円(H26)</p> <p>②11,000t(H26)</p> <p>③41 億円(H26)</p> <p>④991ha(H26)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①36 億円(H28)</p> <p>②10,300t(H28)</p> <p>③56 億円(H28)</p> <p>④999ha(H28)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①43 億円(H32)</p> <p>②12,300t(H32)</p> <p>③64 億円(H32)</p> <p>④1,100ha(H32)</p>		

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産拡大に向け補助事業を活用した土壌改良やパイプハウス整備等の支援を実施(16件)</li> <li>・大規模経営体育成に向け営農モデル作成のためモデル経営体の実態を調査(最上町)</li> <li>・新産地形成を図るため展示ほを設置(新庄市、鮭川村、戸沢村)</li> <li>・収量性向上に向け灌水同時施肥実験ほを設置(南陽市、川西町)</li> <li>・栽培面積の維持のため生育阻害を軽減できる改植方法を開発(最上産地研究室)</li> </ul> <p>[ねぎ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助事業を活用した軟白ねぎ栽培用ハウス整備や省力機械導入等への支援を実施(8件)</li> <li>・長期継続出荷に向けた春どり(5月～6月)の定植時期と品種適応性を検討する実証ほを設置(酒田市)</li> <li>・省力的に収量を向上する夏秋どり(7月～11月)密植栽培用品種を絞り込み選定(園芸試験場)</li> </ul> <p>[にら]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産拡大に向け補助事業を活用した施設整備・機械導入への支援を実施(3件)</li> <li>・品種選定による夏どりにおけるリレー出荷体系を開発(最上産地研究室)</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アスパラガスの大規模経営体の経営形態と生産性を調査し、営農モデルを作成(3月)</li> <li>・ねぎの周年出荷のための作型拡大技術の確立と新規栽培者の育成(4月～)</li> <li>・にらの大規模経営体と若手生産者の育成に向けた研修会や先進地事例研修の実施。</li> </ul>			
<p>(3) やまがた野菜産地再生プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○産地規模が縮小傾向にあるメロンやきゅうり、セルリー等で新規栽培者の確保・育成につながる栽培施設の導入と団地化を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 園芸農業推進課</p>	<p><b>①前年度までの主な取組状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「庄内砂丘メロン産地強化プロジェクト会議」を設置し、行動計画となるアクションプランを策定した。</li> <li>・きゅうりやセルリーは団地化の取組み(山形市)がみられることから、篤農家のハウスをモデルほ場とし、環境データや生育状況を調査し、新規栽培者等に技術の継承を図った。</li> </ul> <p><b>②評価・課題等</b></p> <p>[メロン]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産出額は32億円(H27)で増加傾向にあるが、さらなる拡大に向けて庄内地域の関係機関が一体となった産地復興の取組みを展開する必要がある。</li> </ul> <p>[きゅうり]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地の将来を担う新規栽培者等の技術習得を促進するため、ICTを活用した篤農家技術のデータ可視化など新たな展開が必要である。</li> </ul> <p>[セルリー]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産出額は、大規模団地の拡大により増加しているが、今後は篤農家の実践的な指導や研修会の開催により、新規栽培者の育成と確保に継続して取り組む必要がある。</li> </ul> <p>[さといも]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産さといもが不足している8月下旬～9月上旬の供給を増やしていく必要があり、作付面積の拡大と単収の向上を図り、中山間地における生産拡大が必要である。</li> </ul> <p>[なす]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化により栽培面積が減少している中で、生産性向上が課題となっており、病虫害防除体系や</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①メロン産出額</li> <li>②メロン単価</li> <li>③きゅうり産出額</li> <li>④地域特産野菜(セルリー、なす)産出額</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①29億円(H26)</li> <li>②230円/kg(H26)</li> <li>③35億円(H26)</li> <li>④20.5億円(H26)</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①34億円(H28)</li> <li>②309円/kg(H28)</li> <li>③35億円(H28)</li> <li>④19.6億円(H28)</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</li> <li>・園芸大国やまがた推進事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形野菜産地再生プロジェクト事業費</li> </ul>	<p>庄内砂丘メロン産地強化プロジェクト会議</p> <p>さといも生産振興プロジェクト会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>省力施肥技術の普及拡大が必要である。</p> <p>[食用ぎく]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栽培面積は近年減少しており、生産拡大のために新品種導入による長期継続出荷体系の確立が必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メロンについては、産地が一体となって産地再生の戦略を策定し、その戦略に基づく産地基盤の強化とブランド力の強化を推進。</li> <li>きゅうりは若手担い手への篤農家技術の継承と産地基盤の強化を推進。</li> <li>さといもは生産者、実需者等を構成メンバーとするプロジェクト会議を設立し、振興策を検討・実施し、中山間地における生産拡大を推進する。セルリーは団地化による生産性の向上と新規就農者への技術継承による産地再生を推進、なすは篤農家技術の担い手への継承や省力技術の導入、食用ぎくは新品種の生産拡大を図る。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i)メロン産地の再生</p> <div data-bbox="385 671 1364 938" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>庄内砂丘メロン復興に向け「庄内砂丘メロン産地強化プロジェクト会議」を設立(9/4) [新]</li> <li>「プロジェクトチーム会議」を開催(9/19、10/13)しアクションプランの取組み内容を検討。[新]</li> <li>若手や新規生産者の栽培管理技術の向上のため研修会を開催(4回) [新]</li> <li>多収生産技術の確立や腐敗果防止対策の定着のため実証ほを設置(酒田市、2か所) [拡]</li> <li>補助事業を活用し規模拡大と生産性向上に必要な施設整備・機械導入の支援を実施(6件) [拡]</li> <li>アクションプランを策定するプロジェクト会議を開催(11/20)</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 943 1364 1107" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アクションプランの進行管理を目的としたプロジェクト会議および戦略部会の開催。</li> <li>トンネル栽培の高品質安定生産技術の確立と普及。[新]</li> <li>「庄内砂丘メロンの日(7/6)」を核とした統一 PR の実施。[新]</li> <li>メロンの食感風味を活かす加工技術の開発。[新]</li> </ul> </div> <p>ii)きゅうり産地の再生</p> <div data-bbox="385 1155 1364 1319" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業を活用し大規模なハウス団地の整備支援や既存産地の生産拡大に必要な施設整備・機械導入の支援を実施(4件)</li> <li>簡易栄養診断技術を活用するため研修会を開催(3回)するとともに、個別指導を実施(9回)</li> <li>篤農家の生育指標を参考にした若手生産者向け栽培だよりを発行(4回)</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1324 1364 1425" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>篤農家の栽培管理のモニタリングによる技術継承を図る実証ほを設置(山形市)</li> <li>ICT機器開発メーカーの講演と実証ほの実績検討を行う研修会を開催(12月)</li> </ul> </div> <p>iii)地域特産野菜(セルリー、なす)産地の再生</p> <div data-bbox="385 1473 1364 1500" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> </div>	<p>①36 億円(H32)</p> <p>②255 円/kg(H32)</p> <p>③39 億円(H32)</p> <p>④26.8 億円(H32)</p>		

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>[セルリー]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模なハウス団地の整備に対する助成を実施。</li> <li>・若手生産者の経営安定に向け篤農家による実証ほでの実践指導(11 回)を行うとともに、研修会を開催(3回)</li> </ul> <p>[なす]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省力化に向けた全量基肥技術の実証(大江町)と現地講習会を開催(1回)</li> </ul> <p>[さといも]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産拡大に必要な設備・機械導入の経費を補助し、大規模生産農家等の生産の動きがでてきた。</li> <li>・試験研究では、早掘り可能な優良系統の選抜や砂丘地における生産技術開発を実施。</li> </ul> <p>[食用ぎく]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新品種「菊名月」の生産技術習得のための研修会を開催(5月)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セルリーの計画的な団地化推進とICTを活用した篤農家技術の早期継承。[拡]</li> <li>・なすについて、難防除病害虫の防除体系と省力施肥体系を確立する実証ほの設置(3か所)</li> <li>・さといもは実需者等を加えたプロジェクト会議の設立と大規模経営体育成のための栽培技術を確立し、中山間地における生産拡大に取り組む。[新]</li> <li>・食用ぎくについて、「菊名月」の栽培ポイントをまとめた栽培暦の作成・配布。</li> </ul>			
<p>(4) やまがた次世代型施設園芸推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○次世代を担う意欲ある農業者の経営発展のため、先端技術やICT、木質バイオマス等の地域資源エネルギー等を活用した次世代型施設による大規模施設園芸を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 園芸農業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代型施設園芸の実証拠点を2か所整備し、周年によるトマトの多収栽培の実証試験を開始した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代型施設園芸の実証拠点を2か所に加え、大型トマトハウスの整備(2か所)を支援しており、今後はこのモデル的な取組みを評価・検証し、他地域での導入を推進する必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設園芸を発展させるために、低コストハウスで、自動環境制御と地域資源エネルギーを活用した次世代型園芸施設による、トマトの周年栽培を実証し、本県の気象条件に対応した次世代型の施設園芸の導入を推進。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 次世代型の園芸施設の実証</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト周年栽培を実証するため、県内2か所に次世代型園芸施設を整備(園芸試験場・大蔵村、9/4 着工、12/15 竣工) [新]</li> <li>・周年によるトマト多収栽培(30t)の実証試験を実施(園芸試験場では3月 12 日から、大蔵村では3月 16 日から収穫開始)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2か所の次世代型施設園芸の実証拠点を活用した現地研修会の開催。[拡]</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①山形県に適応した次世代型施設の実証か所数</li> <li>②山形県に適応した次世代型施設園芸の拠点数</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①0か所(H27)</li> <li>②0か所(H27)</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①2か所(H29)</li> <li>②2か所(H29)</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①2か所(H29)</li> <li>②5か所(H32)</li> </ol>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた次世代型施設園芸拠点づくり事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた野菜産地強化プロジェクト事業費</li> </ul>	



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<div data-bbox="385 169 1364 209" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代型施設園芸の実証拠点の評価検証。</li> </ul> </div> <p data-bbox="362 220 750 244">ii)次世代型の園芸施設の拠点づくり</p> <div data-bbox="385 252 1364 520" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="398 256 685 280"><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模トマトハウスの整備を支援(川西町、酒田市) <ul style="list-style-type: none"> <li>川西町:竣工3月 21 日、200a(13 棟) <ul style="list-style-type: none"> <li>県内最大規模の低コスト耐候性ハウスで、炭酸ガスを利用した多収栽培[新]</li> </ul> </li> <li>酒田市:竣工4月 26 日、32.4a(4棟) <ul style="list-style-type: none"> <li>低コスト耐候性ハウスで、養液栽培システムとアイメック栽培を組み合わせたトマトの周年栽培[新]</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・次世代型園芸施設の導入意欲を喚起する研修会を開催(1/24)</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 523 1364 624" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="398 528 685 552"><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 か所の次世代型の園芸施設の拠点を活用した現地研修会の開催. [拡]</li> <li>・ 次世代型の園芸施設の拠点の評価検証。</li> </ul> </div>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略3:「園芸大国やまがた」の実現

#### 戦略分野3:花き～水田フル活用による露地花きの産地拡大と施設花きの収益性向上～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 露地花き産地拡大プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○新規生産者の確保と水田転換畑への作付け拡大と合わせ、長期継続出荷を可能とするハウス等を利用した産地拡大を推進する。 ○県の花である紅花については、観光資源としての利用も視野に入れた作付拡大や新たな加工食品等の開発による需要の拡大を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 園芸農業推進課 農業技術環境課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りんどうについては、作付面積の拡大のため、産地振興策の検討や種苗の供給等を実施した。</li> <li>・「啓翁桜」は、県内の全栽培者の現状や方向性の聞き取り、関係団体との振興方策の検討を行うとともに品質向上技術の実証ほを設置し、結果をもとに研修会を開催した。</li> <li>・露地栽培主体のダリア・スノーボールは、露地栽培とハウス栽培を組み合わせた出荷期間拡大に向け、栽培技術の実証を実施した。</li> <li>・紅花は、作付面積拡大のため、水田転換畑での輪作栽培による連作障害対策実証を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りんどうは、種苗の安定供給や切り花の品質と知名度の向上を図る必要がある。</li> <li>・「啓翁桜」は、出荷量の年次変動が大きいこと、年末と3月の需要に応えきれていないことが課題となっており、団地化を含めた新たな産地育成推進する必要がある。</li> <li>・露地栽培主体のダリア、「スノーボール」等は、ハウス栽培の安定生産技術や雪を活用した抑制栽培技術の確立を図る必要がある。</li> <li>・紅花は、輪作物目の雑草や病害虫対策等の栽培体系を検討する必要がある。また、県内外で切り花の需要拡大に取り組み、作付面積の拡大を図る必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・露地花きは、産地規模拡大のため、新規生産者の確保と水田転換畑への作付拡大とハウス等を利用した長期継続出荷により、産地拡大を推進。</li> <li>・紅花は、紅もち等の一次加工品の生産振興を図るとともに輪作による景観作物としての作付面積の拡大と集客の多い施設等での飾花活動による切り花の需要拡大を推進。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 露地花き(りんどう、花木等)産地の拡大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <p>[りんどう]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振興方策検討のためりんどう研究会役員との意見交換会を開催(6/9、村山市)[新]</li> <li>・「ハynes」シリーズの有望系統の選定検討会を開催(8/23、山辺町)</li> <li>・作付拡大に向けりんどう生産者を対象とした研修会を開催(8/23、上山市)</li> <li>・首都圏市場での消費 PR を実施(8/28～29、東日本板橋市場、他2社)[拡]</li> <li>・園芸試験場におけるオリジナル品種「ハynes」シリーズの種子の緊急増殖(4月～)[新]</li> <li>・新産地育成のための適応性実証ほ(2か所、米沢市・小国町)と「ハynes」シリーズの栽培体系確立試験ほを設置(2か所、尾花沢市・最上町)</li> <li>・りんどう「ハynes」シリーズの栽培面積拡大のための栽培管理技術研修会を開催(2月)</li> </ul> <p>[啓翁桜]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産振興に向け生産者・市場・主要市町との意見交換会を開催(5月～6月)[新]</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①露地花き(りんどう、さくら「啓翁桜」、ダリア等)の産出額</p> <p>②露地花き(りんどう、さくら「啓翁桜」、ダリア等)の作付面積</p> <p><b>【現状値】</b></p> <p><b>【戦略策定時】</b></p> <p>①6.5 億円(H26)</p> <p>②259ha(H26)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①7億円(H28)</p> <p>②277ha(H28)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①15 億円(H32)</p> <p>②320ha(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国産花きイノベーション推進事業費</li> </ul>	<p>花き産地強化プロジェクト会議</p> <p>山形県紅花振興協議会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂丘地での新産地育成に向けた栽培管理技術研修会を開催(6/9、酒田市)</li> <li>・切り枝品質向上のための施肥技術実証ほや3月出荷に向けた切り枝雪中保存実証ほを設置(4か所、上市市・西川町・東根市・尾花沢市)</li> <li>・安定出荷及び生産拡大に向けた技術研修会を開催(10/4、東根市)[新]</li> <li>・大規模団地形成に向けた支援活動を実施(4月～)[新]</li> <li>・大規模団地計画の策定と整備を支援(10月～)[新]</li> <li>・研修会における産地拡大のための産地化優良事例の情報発信(1月)</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りんどう「ハynes」シリーズの種子増殖と知名度向上に向けた首都圏市場でのPR展示の実施。[拡]</li> <li>・「啓翁桜」新規産地育成のための導入開始モデル事例集の作成と配付(4月～)[新]</li> </ul> <p>ii) 長期継続出荷による産地の育成</p> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <p>[ダリア]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス栽培導入に向け地域プロジェクト会議を開催(6/29、川西町)</li> <li>・11月～12月出荷に向けハウス栽培の技術研修会及び市場担当者との意見交換会を開催(7/25、26、川西町)</li> <li>・新たな産地育成のためハウス周年栽培の実証展示ほを設置(庄内町)</li> <li>・ダリアの出荷期拡大方策等を検討する地域プロジェクト会議を開催(2月)</li> </ul> <p>[ビブルナム「スノーボール」]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雪を活用した抑制栽培(5月下旬以降の出荷)開発検討会を開催(5/18、最上町)</li> <li>・10月～12月出荷の品質向上に向け仕立て技術実証ほを設置(西村山)</li> <li>・ビブルナム「スノーボール」の出荷期間拡大に向けた研修会を開催(2月)</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期出荷作型における仕立て法とオリジナル品種の特性調査の実施(4月～)</li> <li>・ビブルナム「スノーボール」の7月出し抑制栽培試験の実施(4月～)</li> </ul> <p>iii) 紅花の生産振興</p> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規産地の開拓に向け生産技術指導を強化(4月～、中山町)</li> <li>・連作障害防止のため輪作体系導入実証ほを設置(3か所、山形市・天童市・白鷹町)[拡]</li> <li>・栽培及び加工技術向上のため研修会を開催(6/28、農業総合研究センター)</li> <li>・オール山形で紅花を振興するため紅花振興協議会を開催(6/30、県庁)</li> <li>・紅花の食品加工を促進するための啓発研修会を開催(12月、農業総合研究センター)[新]</li> <li>・紅花振興協議会による最上紅花「日本農業遺産」申請の準備を実施(1月～)</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規産地・栽培者の掘り起こしと育成(4月～)</li> <li>・輪作体系導入、安定生産対策実証ほの設置(4月～)</li> <li>・紅花振興協議会による最上紅花「日本農業遺産」の申請(6月)</li> </ul>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(2) 施設花き生産性向上プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○新たな花き品目の導入や経営管理能力の向上による企業の経営を実現するとともに、低コスト・省力生産技術や開花調節技術等の導入による生産性と品質の向上を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 園芸農業推進課 農業技術環境課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周年型施設花き(ばら・アルストロメリア等)では、収益性の低い経営体を対象に品目転換、生産性向上技術・資材の導入による経営改善を支援している。</li> <li>・施設花きは、生産性を向上させるため、試験研究機関と連携しながら、開花調節技術の現地実証を実施した。</li> <li>・県産花きの需要拡大・認知度向上のため、やまがたフラワーフェスティバル 2017 の開催を支援するとともに、県内外の集客施設や県内小学校での展示を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周年型施設花きでは、経営改善効果の検証や専門家による経営指導等が必要である。</li> <li>・施設花きの生産性向上に向けて、低コスト・省力技術や開花調節技術の体系化及び技術の普及・定着を図る必要がある。</li> <li>・県産花きの需要拡大・認知度向上のため、首都圏のより集客力のある場所でのPR展示の他、地域に根差した花育活動の拡充により、子供たちが花に触れ合う機会を提供する必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周年型花きでは、新たな花き品目の導入や経営管理能力の向上により、企業の経営を実現。</li> <li>・施設花きでは、市場評価を高めるため、低コスト・省力生産技術や開花調節技術等の導入により、安定生産と品質の向上を推進。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 周年型施設花き(ばら、アルストロメリア等)の経営体質の強化</p> <div data-bbox="385 858 1366 1094" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収益性の低い経営体を対象として経営課題を抽出(ばら2経営体(寒河江市)、アルストロメリア1経営体(南陽市))し、品目転換(ばら→ツルムラサキ、ビブルナム)及び生産性向上(ばら:新品種導入、アルストロメリア:炭酸ガス施用や高機能遮光資材の導入)による経営改善を実証と経営管理指導(5月～)[新]</li> <li>・補助事業を活用し生産性向上設備・機械(ユリ:ヒートポンプ、予冷庫等)の導入支援を実施(9月～)[新]</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1094 1366 1230" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収益性の低い経営体への経営改善につながる栽培技術等の実証と経営コンサルタントによる経営改善計画の策定と実践(4月～)</li> <li>・アルストロメリアの生産量拡大のための炭酸ガスの効果的な施用方法の実証(4月～)</li> </ul> </div> <p>ii) 施設花き(トルコギキョウ、ストック等)産地の強化</p> <div data-bbox="385 1273 1366 1506" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <p>[トルコギキョウ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連作障害による土壌病害対策のため技術研修会を開催(8/23、鶴岡市)</li> <li>・生産性向上のため大輪八重品種の品種展示ほを設置(庄内町)</li> <li>・苗の品質向上のため施肥法の実証ほ試験を実施(新庄市)</li> <li>・トルコギキョウの有望品種導入に向けた研修会を開催(鶴岡市)</li> </ul> <p>[ストック]</p> </div>	<p><b>【目標指標】</b> 施設花き(ばら、アルストロメリア、トルコギキョウ、ストック)産出額</p> <p><b>【現状値】</b> 〔戦略策定時〕 32 億円 (H26) 〔直近〕 33 億円 (H28)</p> <p><b>【目標値】</b> 38 億円 (H32)</p>	<p><b>【ハード】</b> ・園芸大国やまがた産地育成支援事業費</p> <p><b>【ソフト】</b> ・国産花きイノベーション推進事業費</p>	<p>花き産地強化プロジェクト会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場需要に対応した出荷のため開花調節技術現地試験調査ほを設置(7か所(上市市、寒河江市、尾花沢市、鶴岡市2、酒田市2))</li> <li>・開花調節技術導入のため技術指導者研修会を開催(9/8、庄内町)</li> <li>・補助事業を活用し生産性向上機械(ストック:選別結束機、ラジコン動力噴霧機等)の導入支援を実施(9月～)</li> <li>・開花調節技術導入に向けた栽培研修会を開催(11/16、寒河江市)</li> <li>・ストック現地試験調査ほの成績・設計検討会を開催(3/15、寒河江市)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トルコぎきょう・ストックの安定生産に向けた開花調節・省力化技術の普及・定着を図るための実証ほの設置(4月～)</li> </ul> </div> <p>iii) 県産花きの需要拡大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内小学校へ県産花きを提供するとともに、花育教室を開催(6月～、山形市・庄内町)[新]</li> <li>・首都圏などでの紅花の展示を実施(7月、トヨタ本社、歌舞伎座など)[拡]</li> <li>・やまがたフラワーフェスティバル 2017 を開催(10/20～22、米沢市)</li> <li>・山形県花き生産連絡協議会と連携し、山形駅構内での県産花きの展示による観光客へのPR展示を支援(6月～)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内小学校へ県産花きの提供と花育教室の開催(6月～、山形市・庄内町)[拡]</li> <li>・県内や都圏などでの紅花展示の実施(7月、山形市山寺、トヨタ本社、歌舞伎座など)[拡]</li> <li>・やまがたフラワーフェスティバル 2018 の開催の支援(9月、新庄市)</li> </ul> </div>			



## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略3:「園芸大国やまがた」の実現

#### 戦略分野4:園芸産地の基盤強化～大規模園芸団地づくりや水田畑地化等による産業基盤の強化～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 園芸作物大規模集積団地推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○最先端技術等をフル活用し、省力的で高い生産力を実現し、大口取引にも対応できる収益性の高い大規模園芸団地の整備を推進する。</p> <p><b>【主担当課】</b> 園芸農業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i)大規模集積団地づくりに向けた合意形成</li> <li>・園芸団地化推進員や団地化支援チームによる支援により、6か所で団地化計画を策定した。</li> <li>ii)大規模集積団地の整備支援</li> <li>・園芸大規模集積団地整備支援事業の他、各種補助事業を活用し、6つの団地整備に着手した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i)大規模集積団地づくりに向けた合意形成</li> <li>・新たな団地化地区の掘り起こしや団地化計画の策定、営農開始までの総合的な支援を継続して実施することが必要である。</li> <li>ii)大規模集積団地の整備支援</li> <li>・産地パワーアップ事業の要件を満たさず、園芸大規模集積団地整備支援事業が利用できないケースが見られる。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団地化地区ごとに団地化支援チームを設置して、大規模園芸集積団地形成に向けた合意形成や団地化計画の策定を支援。(目標:5団地/年)</li> <li>・事業メニューを充実し、大規模園芸団地の形成に必要な生産施設の整備や農業機械導入を補助事業により支援。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i)大規模集積団地づくりに向けた合意形成</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団地化の取組方針を協議する大規模園芸団地化推進プロジェクト会議を設置(5/10)するとともに、これまでの取組みを評価・検証(12/22)</li> <li>・園芸団地化推進員を設置(各総合支庁に1名、合計4名)し、団地化計画に基づく団地整備や営農開始までの総合的な支援をワンストップで実施。</li> <li>・制度周知と団地化地区の掘起しのために、県内8か所での意見交換会(4/20～28)やJA・市町村との個別の打合せ(JAやまがた、JAみちのく村山、JA山形もがみ、(仮)JAもがみ中央、JA鶴岡、JA庄内みどり、JA庄内たがわ)を実施。</li> <li>・プロジェクトチーム会議を開催し、定期的な取組みの進捗状況を管理(7回:5/23、7/17、9/8、11/27、2/2、2/26、3/27)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸団地化推進員を継続設置(4名)</li> <li>・大規模園芸団地化推進プロジェクト会議(2回)、プロジェクトチーム会議(6回)を定期的開催して進捗管理。</li> <li>・団地化地区の掘り起こしを継続して実施し、団地化計画の策定を支援(目標:5団地)</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b> 新たな大規模集積園芸団地数</p> <p><b>【現状値】</b> 〔戦略策定時〕 －</p> <p><b>【直近】</b> 団地化計画策定数6 団地</p> <p><b>【目標値】</b> 20 団地 (H32)</p>	<p><b>【ハード】</b> ・園芸大規模団地整備事業費</p> <p><b>【ソフト】</b> ・園芸大規模団地形成に向けた合意形成支援</p>	<p>園芸作物大規模団地化推進プロジェクト会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・団地整備に着手した6団地は、団地整備から営農開始までの支援を支援チームが総合的に実施。</p> <p>ii)大規模集積団地の整備支援</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模園芸団地の合意形成地区に市町村、JA、総合支庁等で構成する園芸団地化支援チームを設置し、団地化計画の策定を支援(山形市セルリー、山形市きゅうり、白鷹町えだまめ、西川町啓翁桜、真室川町ブロッコリー、酒田市ゆり・カラー)</li> <li>・園芸大規模集積団地整備支援事業を採択(山形市セルリー、山形市きゅうり、白鷹町えだまめ、真室川町ブロッコリー、酒田市ゆり・カラー)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大規模集積団地整備支援事業を採択(山形市セルリー、山形市きゅうり、白鷹町えだまめ、真室川町ブロッコリー、酒田市ゆり・カラー)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大規模集積団地整備支援事業を採択(山形市セルリー、山形市きゅうり、白鷹町えだまめ、真室川町ブロッコリー、酒田市ゆり・カラー)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸大規模集積団地整備支援事業を採択(山形市セルリー、山形市きゅうり、白鷹町えだまめ、真室川町ブロッコリー、酒田市ゆり・カラー)</li> </ul>			
<p>(2) 水田畑地化基盤強化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○水田のフル活用を図っていくため、高収益作物への転換を後押しする水田の畑地化・汎用化(排水改良・地下かんがい等)を推進するとともに、産地形成に向けた園芸作物の導入を加速化する。</p> <p><b>【主担当課】</b> 農村整備課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田のフル活用を図るため、高収益作物への転換を後押しする水田の畑地化・汎用化(排水機能向上や地下かんがい等)の基盤整備を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸作物栽培への転換を後押しするため、園芸団地の整備や水田畑地化・汎用化の基盤整備について、小規模から大規模まで幅広く支援している。大豆・そばなどの土地利用型作物は団地化が図られているが、園芸作物は点在しており、効率的な営農を図るには団地化が必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、高収益作物への転換を後押しする水田の畑地化・汎用化(排水機能向上や地下かんがい等)の基盤整備を実施し、水田のフル活用による農家所得向上を支援。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i)水田の畑地利用の推進</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模園芸団地整備地区のハード支援を2地区採択(JA山形市・JAやまがた)[新]</li> <li>・水田畑地化・汎用化の基盤整備の工事を22地区整備し、完成後に園芸作物等を栽培。</li> <li>・新たな園芸作物栽培に向けた栽培実証ほを9地区(継続4地区・新規5地区)実施。</li> <li>・園芸作物導入に向けた栽培実証ほ設置支援と農地有効利活用推進会議と大規模園芸団地支援組織との連携強化による産地形成に向けた助言・指導。[拡]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模園芸団地整備地区のハード支援を1地区採択予定(JAやまがた)[新]</li> <li>・新たな園芸作物栽培に向けた栽培実証ほを10地区(継続9地区・新規1地区)実施予定。</li> </ul> <p>ii)水田畑地化の整備促進</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①高収益作物(園芸作物等)の生産額</p> <p>②園芸作物導入を加速化するための水田畑地化整備面積(累計)</p> <p><b>【現状値】</b></p> <p><b>【戦略策定時】</b></p> <p>①10億円/年(H27)</p> <p>②950ha(H27)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①—</p> <p>②1,707ha(H29)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①20億円/年(H32)</p> <p>②1,950ha(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田畑地化基盤強化対策事業費(基盤整備)</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田畑地化基盤強化対策事業費(小規模支援)</li> </ul>	<p>農地有効利活用推進会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田畑地化実施地区 22 地区において、512.1ha の基盤整備を実施中。</li> <li>・園芸作物導入を加速化するための排水改良等の基盤整備の促進。</li> <li>・園芸作物の転換を後押しするための水田畑地化基盤強化対策事業制度の見直し。[拡]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田畑地化実施地区 23 地区において、566.7ha の基盤整備を実施予定。</li> <li>・「簡易整備型」の新規制度を活用した暗渠排水等の機能回復・機能強化による水田畑地化の整備促進。[新]</li> </ul>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略4: 県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

#### 戦略分野1: 6次産業化～新たな付加価値を創出する6次産業化のさらなる拡大～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 農林漁業者自らの6次産業化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○農林漁業者による新たなスモールビジネスの芽出しから商品・販売力向上までの活動や、小規模な加工施設や地域の拠点となる6次産業化施設の整備など、発展段階に応じたきめ細やかな支援を行い、6次産業化の定着と取組拡大を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 農政企画課 6次産業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化支援機関や食品加工相談窓口、食品加工支援チーム等が、農林漁業者による6次産業化の取組みに対して段階に応じた助言・指導等を実施した。</li> <li>・元気な6次産業化ステップアップ支援事業により、起業化の芽出しから商品のブラッシュアップ、施設・設備の整備まで、農林漁業者による6次産業化の取組みを発展段階に応じて支援するとともに、6次産業化に取組実績があり事業拡大に向けて意欲的に取り組んでいる農林漁業者を対象とした商品力向上のための研修会・個別相談会・求評会等を開催した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化支援機関の体制充実等により、農林漁業者による6次産業化の取組みに対して段階に応じた助言・指導等を実施しているが、更なる取組みの充実・推進のため、引き続き支援を行う必要がある。</li> <li>・芽出しから施設整備までの発展段階に応じた支援の実施により、農林漁業者による6次産業化の取組みは着実に拡大しているが、販売が伸び悩む等により事業継続が困難となる事例も見受けられることから、フォローアップ等の充実・強化が必要である。</li> <li>・農林水産業の魅力向上させブランド力の強化を図るためには、商工分野では広く浸透しているデザインを活用したブランディングの取組みの農林水産分野での普及を支援し、デザイン活用について意識啓発を図ることが必要。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及組織や6次産業化支援機関等による事業計画から加工、販売までの各段階に応じた助言・指導等の強化。</li> <li>・農林漁業者等による6次産業化の定着と更なる発展を図るため、芽出しから事業化・商品化、施設整備まで、発展段階に応じたきめ細やかな支援を行うとともに、経営に関するフォローアップ等の取組みを強化。併せて、商品力向上に向けたサポート活動を展開。</li> <li>・農林水産業の魅力向上を図るため、ブランド力の強化に向けたデザインを活用したブランディングの取組みを支援。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p style="margin-left: 20px;">i) 農林漁業者の6次産業化の支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形6次産業化サポートセンターの6次産業化プランナーの派遣や6次産業化支援マニュアルの活用等により、6次産業化に取り組む農林漁業者に対し助言・指導等を実施。</li> <li>・農林漁業者自らによる6次産業化の取組みに必要な拠点となる施設の整備や機械の導入に対し助成を実施(8件)</li> <li>・地域の特産物等を活用した加工品の商品開発や、生産拡大に必要な小規模な施設整備・機器導入に対し助成を実施(14件)</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①産地直売所販売額</li> <li>②農産加工所販売額</li> </ul> <p><b>【現状値】</b></p> <p><b>【戦略策定時】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①93 億円(H27)</li> <li>②30.5 億円(H27)</li> </ul> <p><b>【直近】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①98.3 億円(H28)</li> <li>②31.4 億円(H28)</li> </ul> <p><b>【目標値】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①130 億円(H32)</li> <li>②35 億円(H32)</li> </ul>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な6次産業化ステップアップ支援事業の一部</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な6次産業化ステップアップ支援事業の一部</li> <li>・デザインを活用した農林水産業魅力アップ支援事業費</li> <li>・6次産業化総合推進事業費</li> </ul>	<p>やまがた6次産業戦略推進本部</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形6次産業化サポートセンターの6次産業化プランナーの派遣等による、6次産業化に取り組む農林漁業者に対する助言・指導等。</li> <li>・農林漁業者自らによる6次産業化の取組に必要な拠点となる施設の整備や機械の導入への助成(事業採択:7月)[拡] <ul style="list-style-type: none"> <li>* 事業計画のブラッシュアップのため新たに事前相談会を開催</li> <li>* 補助事業完了後、新たに経営に関するアドバイザーを派遣、6次産業化の取組みの定着や事業拡大を継続して支援</li> </ul> </li> <li>・地域の特産物等を活用した加工品の商品開発や、生産拡大に必要な小規模な施設整備・機器導入への助成(事業採択:7月)</li> </ul> <p>ii) 地域資源を活用したスモールビジネスの創出支援[関連]</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールビジネス創出支援事業により地域の農林水産物を活用した女性や若者の起業化の取組みに対し助成(16件)【再掲】</li> <li>・地域資源を活用した商品開発等に係る技術的な課題等の解決を具体的に指導するビジネス相談会を開催(総合支庁単位、7回)【再掲】</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールビジネス創出支援事業による地域の農林水産物を活用した農林漁業者等のグループの起業化の取組みへの支援(事業採択:7月)【再掲】</li> <li>・地域資源を活用した商品開発等に係る技術的な課題等の解決を具体的に指導するビジネス相談会の開催(総合支庁単位)【再掲】</li> </ul> <p>iii) 商品力の高い農産加工品づくり支援</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合支庁において6次産業化に取り組む農林漁業者の共通課題解決のための研修会(計17回)や専門家による個別相談会(計7回)、商品開発支援のための求評会(計14回)を開催。[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業拡大に向け意欲的に取り組んでいる農産加工業者等を対象とした、商品力の高い農産加工品づくりを行うための研修会・相談会や求評会等の開催(総合支庁単位)。</li> </ul> <p>iv) デザインを活用した農林水産業魅力アップ支援</p> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインを活用し、農場や集落全体をブランディングすることにより認知度向上や販売増を図る取組みの支援。[新] <ul style="list-style-type: none"> <li>* 農場や法人等をまるごとデザインし、ブランドイメージの向上を目指す取組みをモデル的に支援(5件)</li> <li>* 啓発リーフレットの作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>※「まるごとデザイン」: 事業実施主体の事業や活動について、理念にや方向性を整理した上で、これを共通のデザインとして構築し、様々な場面(商品パッケージ、名刺、ユニフォーム等)で活用すること</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>			



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(2) 農林漁業者と食品製造業者等との連携による6次産業化プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○農林漁業者と食品製造業者等との連携による県産農林水産物利用拡大に結びつく商品開発等への支援や、食品卸売業大手等との連携強化による販路開拓・拡大を推進する。</p> <p>【担当課】 6次産業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターによる農林漁業者と食品製造業者等に関する情報収集に基づき、両者のマッチング交流会を開催した。</li> <li>・県内食品製造業者の、県産農林水産物を活用した新商品開発や大手食品卸売業等と連携した販路開拓を支援した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターが食品製造業者への訪問等により情報収集した、県産農林水産物等の利用希望に基づき、農林漁業者と食品製造業者との交流会の開催などによるマッチング支援を強化した。その結果、マッチング支援に対する要望が多いことから、引き続き支援を行う必要がある。</li> <li>・県産農林水産物の利用拡大のため、県内食品製造業の商品開発の支援や、大手食品卸売業と連携した販路開拓の支援を展開しており、具体的利用拡大につながるよう引き続き推進していく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターによる農林漁業者と食品製造業者等とのマッチングの促進。</li> <li>・マーケットインの視点による「売れる商品」づくりと地元及び首都圏等での販路開拓の推進。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 農林漁業者と食品製造業者等とのマッチングの強化</p> <div data-bbox="385 791 1366 927" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターを配置し、食品製造業者等が求める県産農林水産物等の情報収集・分析とマッチング支援を実施。[拡]</li> <li>・産地と食品製造業者等とのマッチング交流会を開催(11月、2月)[新]</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 927 1366 1031" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターの配置による農林漁業者と食品製造業者等が求める情報の収集・分析。</li> <li>・産地と食品製造業者や、食品製造業者同士のマッチング支援。</li> </ul> </div> <p>ii) 食品製造業者等の商品開発力の強化</p> <div data-bbox="385 1075 1366 1241" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農林水産物の利用拡大に取り組む県内食品製造業者の設備整備等への助成を実施(採択件数3件)</li> <li>・県内食品製造業者等に対する商品開発に向けた奨励等を目的に、県産農林水産物を使用した新商品の優良事例を顕彰するコンクールを開催(8月)</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1241 1366 1377" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農林水産物の利用拡大に取り組む県内食品製造業者の設備整備等への支援。</li> <li>・県内食品製造業者等に対する商品開発に向けた奨励等を目的に、県産農林水産物を使用した新商品の優良事例を顕彰するコンクールの開催。</li> </ul> </div> <p>iii) 6次産業化商品等の販路開拓</p> <div data-bbox="385 1422 1366 1487" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大手食品卸売業(2社)主催の展示会(6月、7月)に出展した食品製造業者(計6社)に対す</li> </ul> </div>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①食品製造業等における県産農林水産物の使用割合(重量ベース)</li> <li>②食料品製造業の製造品出荷額等</li> <li>③全国の食料品製造業における本県の食料品製造業の製造品出荷額等の割合</li> </ol> <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①38.3%(H27)</li> <li>②3,011億円(H26)</li> <li>③1.2%(H26)</li> </ol> <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①40.1%(H29)</li> <li>②3,020億円(H27)</li> <li>③1.1%(H27)</li> </ol> <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①43%(H32)</li> <li>②4,500億円(H32)</li> <li>③1.9%(H32)</li> </ol>	<p>【ハード】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食産業王国やまがた推進事業費</li> </ul> <p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形の美味しい土産品開発推進事業費</li> <li>・食産業ネットワーク形成事業費</li> <li>・食産業王国やまがた推進事業費</li> <li>・県産米を使った米粉利用推進事業費</li> </ul>	<p>やまがた6次産業戦略推進本部</p> <p>山形県米粉利用拡大プロジェクト推進協議会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>る支援を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしい山形・食材王国みやぎビジネス商談会を開催(10月)</li> <li>・地元の小売店や食品卸売業と連携した商談会やフェアを開催(2月、3月)</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大手食品卸売業主催の展示会に出展する食品製造業者に対する支援。</li> <li>・おいしい山形・食材王国みやぎビジネス商談会の開催。</li> <li>・地元の小売店や食品卸売業と連携した商談会やフェアの開催。</li> </ul> <p>iv) 地域土産品開発等の推進</p> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品製造業者が中心となる連携体に取り組む土産品開発に対する助成を実施(採択件数17件)</li> <li>・高校生スイーツコンテストを開催(6月)するとともに、県内菓子店の協力により県知事賞受賞商品のトライアル販売を実施(9月)</li> <li>・訪日外国人旅行者向け土産品開発のための研修会(2回)及び個別相談会(1回)を開催するとともに、開発の取組みに対する助成を実施(採択件数3件)[新]</li> <li>・第3回やまがた土産菓子コンテストを開催(12月)</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品製造業者、販売者が連携体して取り組む土産品開発、訪日外国人旅行者向け土産品開発に対する助成。</li> <li>・高校生スイーツコンテストの開催と、県内菓子店の協力による県知事賞受賞商品のトライアル販売。</li> <li>・訪日外国人旅行者向け土産品開発のための研修会の開催。</li> <li>・第4回やまがた土産菓子コンテストの開催。</li> </ul> <p>v) 米粉・加工用米の利用拡大</p> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新素材(米ゲル、アルファ化米粉)に関する研究機関との情報交換を実施(6月)</li> <li>・山形県米粉利用拡大プロジェクト推進協議会総会の開催並びに米粉の用途別基準及びノングルテン表示に関する研修会を実施(7月)</li> <li>・食品製造業者を個別訪問し、米粉の利用方法について周知を図り、利用拡大の働きかけを実施(7月～)</li> <li>・山形県農林水産祭、やまがた食育県民大会において、米粉のPR、米粉食品の試食・アンケート等を実施(10月)</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新素材(アルファ化米粉、米ゲル)に関する研究機関との情報交換及び食品製造業者等への情報提供。</li> <li>・米粉の用途別基準、ノングルテン認証に関する情報発信。</li> <li>・山形県米粉利用拡大プロジェクト会議、米粉に関する研修会の開催。</li> <li>・県主催イベント等における県産米粉のPR。</li> </ul>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(3) 地域の6次産業化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○地域の多様な主体が参加した6次産業化ネットワークを全市町村に形成し、市町村等が行う6次産業化拠点施設整備や「アグリランド」の構想策定・創出を支援し、地域ぐるみの6次産業化を推進する。</p> <p><b>【主担当課】</b> 農政企画課 6次産業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化の取り組み意欲が高い地区をケーススタディ実施地区として選定し、各々を支援するタスクチームを立ち上げて支援を実施した。</li> <li>・市町村の6次産業化ネットワーク形成及び6次産業化戦略策定に向けた支援を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内9地区でケーススタディを実施したが、4地域毎に見ると庄内地域では取組みがない状況にある。モデル的な取組み事例を県内各地に創出しつつ、その成果を地域内に波及させていく観点から、ケーススタディ実施に向けた地域への働きかけ方について見直しを行うとともに、具体的な取組み状況や成功事例を周知広報する効果的な手法について検討する必要がある。</li> <li>・6次産業化ネットワーク未形成市町村への聞き取りや働きかけにより、新たなネットワーク形成の動きは活発化してきているが、引き続きネットワーク形成等への働きかけを推進するとともに、地域の魅力向上等につながる取組みを促進する必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きケーススタディを実施すると併せて、ケーススタディ全体の分析と活動の検証を行いながら、モデル事例として整理し、今後の地域づくりの指針となるものを取りまとめる。</li> <li>・市町村を中心に、地域の多様な主体による連携・協同につながる6次産業化ネットワークの構築を促進するほか、市町村の6次産業化戦略策定を支援。</li> <li>・地域資源となる地理的表示(GI)保護制度等を活用した農林水産物や食文化のブランド化、他産地との差別化による地域の魅力向上、新たな価値の創出につながる取組みを支援。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 元気な地域づくりの活動支援[関連]</p> <div data-bbox="387 922 1364 1161" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化の取組意欲が高い9地区(継続5、新規4)をケーススタディ実施地区として選定し、地区ごとに県の関係部署職員でタスクチームを組織し支援を実施(随時)【再掲】</li> <li>・ケーススタディ全体の分析と活動の検証及び県内の地域づくりに波及させていくための支援策の検討を行う戦略会議を開催(3月)【再掲】</li> <li>・地域づくりの話し合いや計画づくりを支援する8地区(新規8)を選定し、実践に向けた合意形成のためのワークショップを実施。【再掲】</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 1161 1364 1294" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化の取り組み意欲が高い8地区程度でのケーススタディの実施。【再掲】</li> <li>・地域づくりの話し合いや計画づくりを支援する8地区(総合支庁ごとに2地区)での実践に向けた合意形成のためのワークショップの実施。【再掲】</li> </ul> </div> <p>ii) 市町村等を核とした地域内連携の推進</p> <div data-bbox="387 1337 1364 1469" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化ネットワーク未形成市町村に対して訪問による聞き取りや働きかけを実施(8市町村)。新たに2市町でネットワーク形成。</li> <li>・地理的表示(GI)保護制度や地域団体商標制度の周知及び活用支援。</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 1469 1364 1506" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①市町村等における新たなアグリランド構想の策定数(H29からの累計)</p> <p>②市町村が参画する6次産業化ネットワーク数</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①-</p> <p>②26件(H28)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①-</p> <p>②28件(H29)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①8か所(H32)</p> <p>②35件(H30)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食産業ネットワーク形成事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食産業ネットワーク形成事業費</li> </ul>	<p>やまがた6次産業戦略推進本部</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化ネットワーク未形成市町村への働きかけと市町村戦略策定への支援。</li> <li>・地理的表示(GI)保護制度や地域団体商標制度の周知及び活用支援。</li> </ul> <p>iii)アグリランド構想モデルの策定支援・創出</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリランド構想モデルの作成支援として、村山市と東根市でケーススタディを実施。</li> <li>＊ネットワーク型のアグリランド構想策定のため、旅行会社と連携した新たな体験農業バスツアーの企画・創出を支援(村山市)</li> <li>＊産直施設を6次産業化の拠点として、周辺施設のネットワーク構築等について検討(東根市)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アグリランド構想モデルの策定支援のための村山市と東根市でのケーススタディの実施。</li> <li>＊運営組織の体制整備に向けたマニュアル・フローチャートの作成の支援(村山市)</li> <li>＊産直施設周辺への道の駅建設と周辺施設機能の充実強化に向けた、アグリランド構想を含む6次産業化推進戦略、同推進計画の策定への支援(東根市)</li> </ul>			
<p>(4)「農」と「食」による観光交流拡大プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○本県の豊かな農林水産物と地域の特色ある郷土料理、農村景観等を観光資源とした、「農」と「食」による観光交流の拡大に取り組む。</p> <p><b>【担当課】</b> 6次産業推進課 農政企画課 農業技術環境課 林業振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「農泊 食文化海外発信地域※」及び「日本農業遺産」認定制度に係る情報提供と、認定促進のためのメリット等の整理を行った。 ※平成 29 年度に「食と農の景勝地」から名称変更</li> <li>・農林漁家民宿・レストラン開業等を担う人材を育成するとともに、教育旅行や企業研修等を地域で受け入れる態勢づくりを検討した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「農泊 食文化海外発信地域」の申請促進に向け、関係機関への情報提供や制度説明会における認定地域の取組紹介を実施したが、申請予定地域での実行組織体制の構築が進まなかったため、今年度の申請には至らなかった。引き続き、制度の周知と申請に向けた情報提供を行う必要がある。</li> <li>・開業支援研修会には、継続受講者や具体的な起業プランを持つ受講者の参加が多いが、起業につなげるためには、開業並びに実践ノウハウに係る知識・技術習得に向けた支援が必要である。また、農林水産分野の資源に温泉や観光地、道の駅等の観光資源を組み合わせながら誘客促進に向けた受入態勢づくりが必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「農泊 食文化海外発信地域」及び「日本農業遺産」認定制度に係る情報提供と、認定に向けた取組を支援するとともに、認定された地域の連携や情報発信の強化による誘客拡大を促進。</li> <li>・農林漁家民宿・レストラン開業等を担う人材を育成するとともに、教育旅行や企業研修等を地域で受け入れる態勢づくりを推進。</li> <li>・増加が見込まれる訪日外国人旅行者向けの輸出も視野に入れた商品開発を支援。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i)「食と農の景勝地」及び「日本農業遺産」の認定促進</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p>	<p><b>【目標指標】</b> グリーンツーリズム交流人口</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> 949 万人(H27) <b>【直近】</b> 1,023 万人(H28)</p> <p><b>【目標値】</b> 1,200 万人(H32)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形のおいしい土産品開発推進事業費</li> <li>・農林漁家民宿・レストラン人材育成支援事業費</li> </ul>	<p>やまがた6次産業戦略推進本部</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「農泊 食文化海外発信地域」について、市町村の農林水産担当課及び商工観光担当課を対象とした制度説明会を開催(4月)</li> <li>・「最上紅花」の日本農業遺産申請を支援するため、国内外の紅花品種との比較調査など山形特産の紅花品種「もがみべにばな」の優位性の検証を実施。</li> <li>・「農泊 食文化海外発信地域」の認定によるメリット等の整理(情報収集、認定地域の事例検証・分析)(3月)</li> <li>・日本農業遺産制度について、総合支庁等に対し公募等に関する情報提供を行い、認定を目指す地域・団体の情報収集を実施。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「農泊 食文化海外発信地域」について、市町村担当課及び関係団体等を対象とした制度勉強会の開催。</li> <li>・日本農業遺産の平成 30 年の公募への「最上紅花」の申請に向けた支援の実施。</li> </ul> <p>ii) 観光と連携した農家民宿・農家レストラン等の受け入れ態勢づくり</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開業までのプロセスや関連法規等に関する開業支援研修会を開催(7月～9月、3回)【新】</li> <li>・観光と連携した受け入れ態勢づくりについて、先進事例紹介や関係機関及び実践団体等との情報交換により推進策を検討(9月)</li> <li>・農林漁家民宿・レストランの取組事例を学ぶ実践者訪問研修を実施(10月、2回)【新】</li> <li>・農林漁家民宿・レストランの経営の実際やノウハウ等を習得するための短期体験研修を実施(1月～2月、4回)【新】</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林漁家民宿・レストラン開業支援研修会の開催(県内2か所、各3日間)</li> <li>・農林漁家民宿・レストラン実践者訪問研修の実施(県内2コース)</li> <li>・短期体験研修の実施(6月以降、随時)</li> <li>・農林水産業分野の資源と温泉や道の駅等の観光資源を組み合わせた受入態勢づくり。</li> </ul> <p>iii) 交流拡大につながる商品開発の促進</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日外国人旅行者向け土産品開発のための研修会(2回)及び個別相談会(1回)を開催するとともに、開発の取組みに対する助成を実施(採択件数3件)【新】【再掲】</li> <li>・外国人留学生を対象とした試食・求評(12月)等に基づく海外で売れる商品づくりの支援。【新】</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品製造業者、販売者が中心となる連携体に取り組む訪日外国人旅行者向け土産品開発に対する助成。【再掲】</li> <li>・訪日外国人旅行者向け土産品開発のための研修会の開催。【再掲】</li> <li>・外国人留学生を対象とした試食・求評等に基づく海外で売れる商品づくりの支援。</li> </ul> <p>iv) 観光分野と連携した地域農産物の利用拡大</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p>			



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村山地域及び仙台圏からの観光誘客と交流拡大のため、「やまがた野菜」や「イタリア野菜」を使用した料理を管内レストランにおいて期間限定で提供する、「むらやまの野菜料理フェア」を開催(12/1～23、協賛レストラン 13 店舗)[拡]</li> <li>・料理フェア初日(12/1)に、「アルケッチャーノ」奥田シェフ、「GEAレストラン 0053」磯野シェフによる料理共演を実施。[拡]</li> <li>・「むらやまの野菜料理フェア」の開催や協賛レストラン、やまがたの野菜の紹介等について、「やまがたワインと日本酒の本」(9/20 発行)に掲載。[拡]</li> <li>・一般消費者向けに、ホームページ等で周知を図るとともに参加を呼びかけ。</li> <li>・旅行エージェント(JTB、仙台リビング新聞社)に、料理フェアオープニングイベント参加への働きかけを実施。[拡]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村山地域及び仙台圏からの観光誘客と交流拡大のため、「やまがた野菜」や「イタリア野菜」を使用した料理を管内レストランにおいて期間限定で提供する「むらやまの野菜料理フェア」の開催。</li> <li>・「むらやまの野菜料理フェア」をPRするため、フェアの開催や協賛レストラン、やまがたの野菜の紹介等について、広報誌等に掲載。</li> <li>・旅行エージェントに対する、料理フェアオープニングイベントへの参加及び協賛レストランにおける料理フェアの観光ツアーの造成に向けた働きかけの実施。</li> </ul> <p>v)産直を核とした農観連携の創出</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産直や市町村、農協等関係団体で組織する「産直を核とした農観連携推進会議」を開催(4/21)し、地域一丸となった推進体制を構築。[新]</li> <li>・専門家によるモデル組織の指導(4/26,5/30,6/13,9/11,11/27)や産直の魅力向上のための全体研修会を開催(6/26、3/8)[新]</li> <li>・管内産直と連携した「もがみ産直キャンペーン」を開催(6/10～19、9/16～25)し、最上地域全体でのPRを実施。[新]</li> <li>・「もがみ産直マップ」について、産直に加え、定期市、農家レストラン、観光等の情報を盛り込んだ産直マップを作成。[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内常設産直のモデルとなる組織、指導希望産直への専門家派遣指導(6回)や、全体研修会(2回)の開催による産直全体の底上げなど、魅力ある産直づくりの支援。</li> <li>・地域の農産物を活用した観光メニューの提案(マッシュルームの収穫体験、最上伝承野菜を使用した料理の提供等)などの情報発信や、観光商品化の支援。</li> <li>・季節の旬の食材アイテムのPRを強化するため、管内産直等関係機関と連携した「もがみ産直キャンペーン」(6月、10月)の開催(期間拡充)</li> </ul> <p>vi)置賜の地域資源を活用した6次産業化の推進</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化の推進に向けた意見交換や情報共有を図るとともに、先進地の事例紹介や農観連携のポイントについて理解を深めるため、管内市町担当者及び総合支庁担当者による情</li> </ul>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>報交換会を開催(7月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光と連携した誘客企画として、フラワー長井線ワイン列車を掲載した置賜地域ワイナリーパンフレットを作成し、東北中央自動車道の開通により置賜地域を訪れた観光客や隣県の旅行者に対し、管内ワイナリーなど農と食のPRを実施。(12月)[拡]</li> <li>6次産業化取組団体等を対象とした「おきたま6次産業活性化セミナー」を開催し、売れる農産加工品開発のポイントの習得や、食品製造業者等とのマッチングや連携の強化を支援。(12月)</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「6次産業化戦略推進ビジョン」に基づく具体的な取り組みを進めるための、おきたま6次産業化連絡会議等の開催。</li> <li>地元農産物を活用した加工食品等について、観光事業者等と連携し、道の駅米沢をはじめとする交流施設を訪れた観光客に向けて情報発信。</li> </ul> <p>vii)「食の都庄内」ブランドの普及・定着</p> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「食の都庄内」親善大使の活動を通じた集客力の高いイベントへの参加等により「食の都庄内」ブランドの普及・定着を促進。 庄内産食材を活用した料理の振る舞い(7/9 全国メロンサミット(鶴岡市))、弁当業者対象の講習会(9/21 酒田市)、商品(ポップコーン)販売(ANA国内線6/1~8/31)、冬の観光資源として庄内浜水産物(天然とらふぐ等)を活用した食事会(12/6 鶴岡市)等</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域内外に向けた庄内産の食材や食文化のPR(新潟県・庄内エリアDCとの連動(プレDC 10月~12月))</li> </ul> <p>viii)山菜・きのこによる観光・交流の拡大[関連]</p> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「やまがた山菜・きのこブランド化戦略」に掲げた各種施策を具現化するため、取組みの推進母体となる「山形県山菜・きのこ振興会」を設立(6月)[新][再掲]</li> <li>山菜・きのこ総合案内ホームページ開設(3月)による山菜・きのこに関する各種情報の発信と普及啓発の実施。[新][再掲] <ul style="list-style-type: none"> <li>○「やまがた山菜・きのこ」名人の登録(3月~)</li> <li>○名人による収穫・体験イベント等の企画・情報発信(3月~)</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山菜・きのこ総合案内ホームページの拡大充実[再掲]</li> </ul>			
<p>(5) 6次産業化推進基盤確立プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○6次産業化を推進す</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県立農林大学校や「やまがた6次産業ビジネス・スクール」などの各種研修により6次産業化を担う人材の育成を行った。</li> <li>6次産業化支援機関等(山形6次産業化サポートセンター、やまがた食産業クラスター協議会、食品加工技術相談窓口など)による相談・助言・技術指導等を実施した。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①食品製造業等における県産農林水産物の使用割合(重量ベース)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6次産業化総合推進事業費</li> <li>食品加工開発機能強化推進事業費</li> </ul>	<p>やまがた6次産業戦略推進本部</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>るための基盤となる人材育成や相談・技術支援体制の充実、6次産業化支援機関の更なる機能強化に取り組む。</p> <p><b>【主担当課】</b> 6次産業推進課 農業技術環境課 園芸農業推進課</p>	<p><b>②評価・課題等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化支援機関の体制充実等により、農林漁業者自らや食品製造業者等と連携した6次産業化の取組みに対して段階に応じた助言・指導等を実施してきたが、更なる取組みの推進のため、引き続き、支援体制の充実や人材育成、商品開発に必要となる技術支援、助言等が必要である。</li> <li>・食品製造業者等が求める県産農林水産物の情報を収集しており、今後、課題の整理を通して生産体制等を検討する必要がある。</li> </ul> <p><b>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6次産業化を推進する人材育成を図るとともに、6次産業化支援機関等による相談・助言、技術指導体制をより一層充実することにより、6次産業化の推進基盤を強化。</li> <li>・実需者のニーズを把握し、原材料となる農林水産物の安定生産・安定供給体制を整備。</li> </ul> <p><b>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</b></p> <p>i) 6次産業化を推進する人材の育成</p> <div data-bbox="387 646 1364 847" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「6次産業ビジネス・スクール」修了者の事業展開を促進するため、6次産業化支援機関が修了者を訪問し、事業の進捗状況の確認と助言等を実施(訪問件数 10 件)</li> <li>・産学官金が連携した「6次産業ビジネス・スクール」研修の実施(10 月～2月)</li> <li>・各種研修後の事業展開を促進するため、6次産業化支援機関等による継続的なサポート(フォローアップ)を実施。</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 847 1364 983" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産学官金が連携した「6次産業ビジネス・スクール」研修の実施。</li> <li>・各種研修後の事業展開を促進するため、6次産業化支援機関等による継続的なサポート(フォローアップ)の実施。</li> </ul> </div> <p>ii) 6次産業化支援機関の機能強化</p> <div data-bbox="387 1029 1364 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターを配置し、食品製造業者等が求める県産農林水産物等の情報収集・分析とマッチング支援を実施。[拡][再掲]</li> <li>・6次産業化の取組みに対する支援策に関する情報共有等を図るため、6次産業化支援機関による会議を開催(5月)</li> <li>・6次産業化の取組みを積極的・効果的に支援するための「6次産業化支援チーム」を各総合支庁に立ち上げ、情報共有と支援を実施(6月以降、順次)[新]</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 1265 1364 1434" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターによる農林漁業者と食品製造業者等に関する情報収集とそれを活用したマッチング支援。</li> <li>・支援機関相互の連携強化の推進。</li> <li>・「6次産業化支援チーム」による情報共有と支援。</li> </ul> </div> <p>iii) 食品加工支援チームによる支援</p> <div data-bbox="387 1481 1364 1509" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> </div>	<p>② 農業総合研究センター加工施設を活用した新商品販売件数(累計)</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>① 38.3% (H27)</p> <p>② -</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>① 40.1% (H29)</p> <p>② 0 件 (H28)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>① 43% (H32)</p> <p>② 30 件 (H32)</p>		

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・食品加工技術相談窓口で新商品開発や加工技術に関する 571 件の相談に対応 (H30.2 末。H29.2 末 621 件)</p> <p>・試験研究機関が開発した技術移転による商品開発や、地域ならではの商品開発を支援し、ジュンサイの瓶詰やえのきうどん、野菜ドレッシング等を商品化。</p> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <p>・食品加工技術相談窓口で新商品開発や加工技術に関する相談に対応。</p> <p>・試験研究機関が開発した技術移転による商品開発や、地域ならではの商品開発の支援。</p> <p>・食品加工支援ラボを活用した加工技術や衛生管理等の研修会の開催。</p> <p>・食品加工技術相談窓口と連携し、食品加工支援ラボを活用した新商品の開発の支援。</p> <p>iv) 農業総合研究センター加工施設の活用</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <p>・農業総合研究センター内に、試作と研修が出来る「食品加工支援ラボ」を整備。</p> <p>・食品加工支援ラボの運用に係る「農業総合研究センターの設備の一部使用に関する規則」等を整備。</p> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <p>・食品加工支援ラボの利用を図るため、広報媒体やチラシ等によるPRの実施。</p> <p>v) 原材料となる農林水産物の安定生産・安定供給の体制整備</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <p>・食品製造業者等が求める県産農林水産物の情報収集を実施。</p> <p>・加工業務向け野菜の栽培技術開発及び加工業者とのマッチングを推進。</p> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <p>・実需者が求める農林水産物のニーズ把握と課題の整理、生産現場への反映の推進。</p>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略4: 県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

#### 戦略分野2: 流通販売・食文化発信～価格競争に左右されない「山形ブランド」の創出・定着と輸出促進～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 「おいしい山形」流通戦略推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○消費者の理解と共感を醸成するコミュニケーションの充実強化と「農林水産業が盛んな地域」の産地イメージと結びついた「山形ブランド」の全国への発信強化に取り組む。</p> <p><b>【主担当課】</b> 6次産業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしい山形推進機構による各種事業を実施し、県産農産物等統一キャッチフレーズ・シンボルマークのCI活動や各種事業での消費者等への理解・共感の醸成を図るとともに、「山形ブランド」の創出・定着に向けた取り組みを進めた。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農産物等統一キャッチフレーズ・シンボルマークのCI活動と産地イメージにつながる県産農産物等の情報発信と「山形ブランド」の創出・定着が必要である。</li> <li>・トップセールスや各種事業での消費者等への理解・共感を醸成する取組みの推進が必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農産物等統一キャッチフレーズ・シンボルマークのCI活動と産地イメージにつながる県産農産物等の情報発信(海外や訪日外国人に向けた情報発信を含む)。</li> <li>・トップセールスや各種事業での消費者等への理解・共感を醸成する取組みの推進。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組の内容</p> <p style="margin-left: 20px;">i) 「おいしい山形」推進機構の運営</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしい山形推進機構総会を開催(5月)</li> <li>・おいしい山形推進機構の事業実施後における成果を検証(1月～2月)</li> <li>・おいしい山形推進機構の事業計画を策定(3月～4月)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしい山形推進機構総会の開催(5月)</li> <li>・おいしい山形推進機構の事業実施後における成果の検証(1月～2月)</li> <li>・おいしい山形推進機構の事業計画の策定(3月～4月)</li> </ul> </div> <p style="margin-left: 20px;">ii) 「おいしい山形」の魅力発信</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしい山形推進機構ホームページにおいて県産農産物等の情報を発信。</li> <li>・産地直売所情報提供サービスにエコ農産物を取扱う産地直売所の検索機能を追加して情報を発信。</li> <li>・産地直売所情報提供サービスへの参加働きかけを実施。</li> <li>・各種宣伝媒体(フリーペーパー・公共交通機関等)で県産農産物のPRを実施。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしい山形推進機構ホームページにおいて県産農産物等とあわせ郷土料理等の情報発信。</li> <li>・産地直売所情報提供サービスへの参加働きかけ。</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①おいしい山形ホームページへのアクセス数(延べ閲覧者数)</p> <p>②多言語ホームページへのアクセス数(延べ閲覧者数)</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①3,178,776 件(H27)</p> <p>②12,000 件(H28(見込み))</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①3,062,325 件(H28)</p> <p>②11,205 件(H28)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①4,500,000 件(H32)</p> <p>②24,000 件(H32)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物等流通戦略推進事業費</li> </ul>	<p>おいしい山形推進機構</p>



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・仙台空港アクセス鉄道駅における広報媒体での県産農産物のPR。[新]</p> <p>iii) 消費者の理解度・共感度の醸成</p> <p>【平成 29 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都において知事によるさくらんぼトップセールスを実施(6月)</li> <li>・県内量販店や首都圏ホテルでの山形フェアなどでペロリンを活用した販促資材等によるPRを実施。</li> <li>・県外小学校(2校)で県産農産物等の給食を提供(6月～2月)</li> <li>・農と食の魅力を効果的に発信するため、県産農林水産物や郷土料理等の食文化の魅力、歴史等をまとめた山形のうまいもの「改訂版」を作成(3月)[新]</li> </ul> <p>【平成 30 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都において知事によるさくらんぼトップセールスの実施(6月)</li> <li>・県内量販店や首都圏ホテルでの山形フェアなどでペロリンを活用した販促資材等によるPR。</li> <li>・県外小学校(2校)で県産農産物等の給食提供(6月～2月)</li> <li>・県内中学校(2校)の修学旅行と連携した県産農産物等のPR。[新]</li> </ul> <p>iv) 農林水産・観光・商工団体等との連携</p> <p>【平成 29 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回「日本一さくらんぼ祭」において県産農産物等のPRを実施(6月)</li> <li>・南東北総体 2017 において県産農産物等のPRを実施(7月～8月)[新]</li> <li>・日本一の芋煮会フェスティバルにおいて県産農産物等のPRを実施(9月)</li> <li>・山形県農林水産祭において県産農産物等のPRを実施(10月)</li> <li>・第 56 回農林水産祭「実りのフェスティバル」での県産農産物等のPRを実施(11月)</li> </ul> <p>【平成 30 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回「日本一さくらんぼ祭」での県産農産物等のPR(6月)</li> <li>・東北中央自動車道の開通と連携した県産農産物等のPR。[新]</li> <li>・新潟県・庄内エリアプレDCと連携した県産農産物のPR。[新]</li> <li>・日本一芋煮会フェスティバルでの県産農産物等のPR(9月)</li> <li>・山形県農林水産祭での県産農産物等のPR(10月)</li> <li>・第 57 回農林水産祭「実りのフェスティバル」での県産農産物等のPR(11月)</li> </ul> <p>v) 外国人に向けた本県食文化等の発信の強化</p> <p>【平成 29 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人向けホームページによる情報発信。</li> </ul> <p>【平成 30 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人向けホームページによる情報発信。</li> </ul> <p>vi) 国際大会における事前キャンプの支援</p> <p>【平成 29 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前キャンプの情報収集。</li> </ul> <p>【平成 30 年度の実績】</p>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・事前キャンプの情報収集と開催時の県産農産物等のPR。</p> <p>vii) インバウンド観光との連携プロモーションの実施</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米国サンフランシスコ日本国総領事館において、つや姫等県産食品のトップセールスを実施(6月)</li> <li>・米国ハワイ州において、つや姫等県産品の認知度向上に向けたプロモーションを実施(11月)</li> <li>・台湾台北市、高雄市において、つや姫等県産品販売プロモーションを実施(1月)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾における県産品販売プロモーション。</li> </ul>			
<p>(2) 県産農産物等販路拡大プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○マーケットインの視点による大消費地への県産農林水産物等の販路拡大と、有利販売に結びつく鮮度・品質を保持した輸送体制の確立とその活用を促進するとともに、新たな販路開拓に取り組んでいる生産者への需給マッチング支援に取り組む。</p> <p><b>【担当課】</b> 6次産業推進課 農政企画課 農業技術環境課 林業振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏・関西圏のホテル・レストラン等で山形フェアや商談会を開催し、県産農産物の認知度向上を図るとともに、新規取引の開拓、継続取引に繋がる実需マッチングを進めた。</li> <li>・首都圏・関西圏以外の地方主要5都市への販路・販売拡大を進めるため、県産農産物主要都市別販路・販売拡大プロジェクト会議の設置・開催とマーケット調査を実施し、都市別販路・販売拡大戦略(プラン)を策定した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏・関西圏のホテル・レストラン等で山形フェアや商談会を開催し、新規取引の開拓、継続取引による販路拡大を支援しており、引き続き実需マッチングを推進する必要がある。</li> <li>・県産農産物主要都市別販路・販売拡大プロジェクト会議を設置し、各市場のニーズ把握に取り組んでおり、引き続き首都圏・関西圏以外の主要5都市での販路拡大に向けた事業を進める必要がある。</li> <li>・庄内空港を活用した小口・保冷航空輸送体系の検証を香港向けで実施し、効果的な輸送方法であることを確認できたが、物量の安定確保や輸出検査機器が未整備等の課題があり、本格運用に向けた検討を行う必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地づくりと販売戦略・物流戦略の一体的な展開。</li> <li>・県産農産物主要都市別販路・販売拡大戦略(プラン)に基づく、試行販売、産地見学・商談会等を実施しながら販売拡大を展開。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の実績及び平成 30 年度の主な取組の内容</p> <p>i) 県産農産物の市場における流通ニーズ調査の実施</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農産物主要都市別販路・販売拡大プロジェクト会議の設置及び開催(5月、10月、2月)[新]</li> <li>・首都圏・関西圏以外の地方主要5都市(札幌市、名古屋、金沢市、広島市、福岡市)での市場統計等の情報収集と整理(7月～9月)[新]</li> <li>・首都圏・関西圏以外の地方主要5都市でのマーケット調査を実施(8月～3月)[新]</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①東京中央卸売市場における県産農産物の取扱金額割合</li> <li>②主要都市の中央卸売市場における県産農産物(野菜・果実)の取扱金額</li> <li>③森林管理認証の取得団体数(累計)</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> <b>〔戦略策定時〕</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①野菜:1.28% 果実:5.64%(H27)</li> <li>②5,562 百万円(H27)</li> <li>③—</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①野菜:1.26% 果実:5.74%(H28)</li> <li>②6,142 百万円(H28)</li> <li>③2件(H29)</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①野菜:1.40% 果実:5.80%(H32)</li> <li>②6,100 百万円(H32)</li> </ol>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的農産物販路・販売拡大事業費</li> <li>・県産農産物等流通戦略推進事業費</li> <li>・学校給食における食育・地産地消促進事業費</li> </ul>	<p>おいしい山形推進機構</p> <p>県産農産物主要都市別販路・販売拡大プロジェクト会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・首都圏・関西圏以外の地方主要5都市の都市別販売戦略(プラン)を策定(3月)[新]</p> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方主要5都市の販路開拓コーディネーターによる情報収集と情報発信。</li> <li>・県産農産物主要都市別販路・販売拡大プロジェクト会議の開催(9月)</li> </ul> <p>ii) 県産農産物の流通促進</p> <p><b>【平成29年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏・関西圏以外の地方主要5都市へ販路開拓コーディネーターを配置(6月)[新]</li> <li>・首都圏において商談会を開催(9月・3月)[拡]</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏・関西圏以外の地方主要5都市の実需者と本県産地とのマッチング機会の創出(試行販売、産地見学・商談会等の実施に向けた検討及び実施)[新]</li> <li>・首都圏での商談会の開催(9月・11月)</li> </ul> <p>iii) 食材提案による需要の創出・販路の開拓</p> <p><b>【平成29年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏・関西圏のホテル・レストランにおいて山形フェアを開催(5月～9月、9か所)</li> <li>・首都圏・関西圏の大手企業社員食堂において山形フェアを開催(7月、11月)</li> <li>・首都圏・関西圏の実需者を対象とした産地見学会を開催(10月、2月)</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏・関西圏のホテル・レストランでの山形フェアの開催(新たに1か所)[拡]</li> <li>・首都圏・関西圏の大手企業社員食堂での山形フェアの開催(各1回)</li> <li>・首都圏・関西圏の実需者を対象とした産地見学会の開催(10月、11月)</li> </ul> <p>iv) 直売所の魅力の向上・販売力の強化</p> <p><b>【平成29年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直売所に対し、交流事業への参加働きかけを実施。</li> <li>・産地直売所情報提供サービスにエコ農産物を取扱う産地直売所の検索機能を追加して情報を発信。【再掲】</li> <li>・産地直売所情報提供サービスへの参加働きかけを実施。【再掲】</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直売所に対する交流事業への参加働きかけ。</li> <li>・産地直売所情報提供サービスによる情報発信。</li> <li>・産地直売所情報提供サービスへの参加働きかけ。【再掲】</li> </ul> <p>v) 高付加価値輸送体制の確立</p> <p><b>【平成29年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマト運輸、ANAとの連携による庄内空港を活用した小口・保冷航空輸送体系の検証を香港向けで実施(5月)[新]</li> <li>・ヤマト運輸、ANAとの連携による庄内空港を活用した小口・保冷航空輸送体系の本格運用に向けた協議を実施(随時)[新]</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p>	③5件(H32)		

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・庄内空港を活用した常温コンテナによる輸出の可能性のある農産物の把握と、それらの品目でのテスト輸送及び求評調査。[新]</p> <p>vi) 給食向け県産農林水産物の利用拡大[関連]</p> <p>【平成 29 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農林水産物の使用割合が低い市町村の個別巡回を実施(5月、6月、3町村)【再掲】</li> <li>・学校給食における県産農林水産物の利用拡大のため、地産地消促進事業費補助金により市町村への助成を実施(7月、28 市町村)</li> <li>・地産地消の取組みの優良事例等を市町村へ情報提供。</li> </ul> <p>【平成 30 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農林水産物の使用割合が低い市町村への個別訪問。【再掲】</li> <li>・学校給食における県産農林水産物の利用拡大に対する助成。</li> </ul> <p>vii) オリ・パラでの農林水産物の利用</p> <p>【平成 29 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人東京オリ・パラ競技大会組織委員会が開催する飲食戦略検討会議に関する情報収集を実施。</li> <li>・国際水準GAPの認証取得に向けた指導を実施。</li> <li>・2020 オリ・パラ東京大会に対応できる山形県版GAP第三者認証体制の構築に向けた準備。[拡]</li> <li>・2020 オリ・パラ東京大会関連施設や公共施設等における県産木材の利用拡大を図るため、真室川県有林(348ha)、県民の森県有林(11ha)においてSGEC森林管理認証を取得(7/1)</li> <li>・2020 オリ・パラ東京大会関連施設への県産木材利用に関する公募事業に応募(9月)し決定(10月)[新]</li> </ul> <p>【平成 30 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケータリング会社への食材提案。</li> <li>・食文化の国際交流施設への食材提案。</li> <li>・山形県版GAP第三者認証制度の運用を開始。</li> <li>・GAP認証取得支援。</li> </ul>			
<p>(3) 「山形ブランド」評価向上プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】</p> <p>○さくらんぼや「つや姫」などに続く「日本ブランド」を目指す県産農林水産物の創生と、これらが全体を牽引する「山形ブランド」の定着・確立に取り組む。</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の至宝雪国やまがた伝統野菜PR大使による首都圏プロモーションにより認知度向上に取り組んだ。</li> <li>・価格競争に左右されない「山形ブランド」の創出・定着に向けた地理的表示保護制度の登録を促進するため「GI登録促進ワーキング会議」を設置し検討を進めた。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「食の至宝雪国やまがた伝統野菜PR大使」の活動により認知度が向上し、新たな取引先の開拓につながっているが、伝統野菜は小ロットであるため、出荷量に見合った販路拡大が課題である。</li> <li>・地理的表示保護制度の普及と登録を目指す産地の掘り起こし・働きかけに向けた会議を定期的</li> </ul>	<p>【目標指標】</p> <p>①東京都中央卸売市場におけるトップブランド品目数</p> <p>②地理的表示(GI)保護制度登録件数(県産農林水産物及びその加工品)(累計)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の至宝雪国やまがた伝統野菜推進事業費</li> </ul>	<p>おいしい山形推進機構</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>【主担当課】 6次産業推進課 農業技術環境課 園芸農業推進課 林業振興課</p>	<p>に開催し、GI登録に向け検討を重ねていく必要がある。</p> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の至宝雪国やまがた伝統野菜、雪国やまがたブランド等の取組みによる、山形ブランドの確立。</li> <li>・地理的表示保護制度の登録促進とこれらを活用したブランド化の推進。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i)「食の至宝雪国やまがた伝統野菜」の評価向上</p> <div data-bbox="387 403 1366 603" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の至宝雪国やまがた伝統野菜PR大使によるプロモーションを実施(6月)</li> <li>・食の至宝雪国やまがた伝統野菜PR大使によるレストラン等への提案や店舗でののぼり掲出を実施。</li> <li>・小売店等で伝統野菜プロモーション活動を展開(12月)[拡]</li> <li>・食の至宝雪国やまがた伝統野菜PR大使の活動を活かしたPRを実施。</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 603 1366 707" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の至宝雪国やまがた伝統野菜PR大使の活動を活かしたPR(通年)</li> <li>・食の至宝雪国やまがた伝統野菜PR大使によるプロモーション(2回/年)</li> </ul> </div> <p>ii)「雪国やまがたブランド」の構築</p> <div data-bbox="387 751 1366 855" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地直売所での雪を活用した農産物の調査を実施(4月)</li> <li>・ホームページによる雪下野菜の情報発信(3月)</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 855 1366 959" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地直売所での雪を活用した農産物の情報収集。</li> <li>・雪下野菜の生産及び販売状況に関する情報収集。</li> </ul> </div> <p>iii)地理的表示(GI)の登録促進</p> <div data-bbox="387 1003 1366 1203" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GI登録促進農林水産部内ワーキングチーム打合せを開催(7月)[新]</li> <li>・GI登録促進ワーキング会議を開催(12月)[新]</li> <li>・農林水産省等関係団体からの情報収集を実施。</li> <li>・地理的表示保護制度活用支援窓口などが実施する説明会・相談会等への参加促進及び制度周知を実施。</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 1203 1366 1370" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GI登録促進ワーキング会議の開催(4月、8月、12月、3月)</li> <li>・農林水産省等関係団体等からの情報収集。</li> <li>・地理的表示保護制度活用支援窓口などが実施する説明会・相談会等への参加促進及び制度周知。</li> </ul> </div> <p>iv)山菜・きのこの流通販売の拡大及び認知度の向上[関連]</p> <div data-bbox="387 1415 1366 1516" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山菜・きのこのキャッチコピーや山菜・きのこのPRグッズを作成。[新]</li> <li>・山菜・きのこの県内外への情報発信、首都圏でのやまがた「山菜・きのこ」フェアなどプロ</li> </ul> </div>	<p>【現状値】</p> <p>〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①13品目(H26)</li> <li>②0件(H28)</li> </ol> <p>〔直近〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①-</li> <li>②2件(H29)</li> </ol> <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①20品目(H32)</li> <li>②5件(H32)</li> </ol>		



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>モーション活動等を実施(3月)[新]</p> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きのこ料理コンクールの実施とレシピの作成。</li> <li>・首都圏フェアなどでの「山菜・きのこ」のプロモーション活動等の実施。</li> </ul>			
<p>(4) 食育・地産地消 県民運動展開プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○子どもから大人まで、地域の農林水産物や郷土食を味わう経験を通して、地域に対する愛着を深め、将来的には県産農林水産物を買える消費者づくりや若者の県内定着・回帰につながる食農教育と地産地消を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 6次産業推進課</p>	<p><b>①前年度までの主な取組状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第2次山形県食育・地産地消推進計画」の周知を図り、関係部局(健康福祉部、教育庁等)や、食育・地産地消実践団体等と連携し、様々な施策を活用しながら、家庭、学校、地域における食育・地産地消の取組みを促進した。</li> </ul> <p><b>②評価・課題等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第2次山形県食育・地産地消推進計画」のPR並びに食農体験事業の企画・実施により、食育の取組みを推進。県内各地への普及拡大を目指し、継続した取組みが必要である。</li> <li>・学校給食における県産農林水産物の使用割合が低い市町村への個別巡回により、地産地消促進事業の新たな導入(1町)につながった。郷土料理メニュー支援の周知も併せ、積極的な活用について今後も継続した働きかけを行っていく必要がある。</li> </ul> <p><b>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第2次山形県食育・地産地消推進計画」に基づき、関係部局や食育実践団体、市町村等と連携し、家庭、学校、地域における食育の取組みを促進。</li> <li>・市町村と生産者団体等と連携し、学校給食における県産食材の利用拡大を図るほか、社会福祉施設等での地産地消を推進。</li> </ul> <p><b>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</b></p> <p>i) 食育の県民運動</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子農業体験教室等で派遣要請のあった市町村に活動員を派遣(15回)</li> <li>・子どもを対象とした農業体験や郷土料理づくり体験等食農教育事業を実施(7月、8月、10月、11月、2月)</li> <li>・食育活動の重要性について県民の理解増進を図るため食育県民大会を開催(10月)</li> <li>・全市町村における食育推進計画、地産地消促進計画の策定を促進。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産業に対する理解促進、地域における郷土料理や食文化の伝承に向けた食農体験活動の推進。</li> <li>・市町村等が行う食育推進事業への支援。</li> <li>・県民の食育を推進する機運を高めるための「食育県民大会」の開催。</li> </ul> <p>ii) 山形の食の「語り部」づくり・魅力の発信</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農と食の魅力をも効果的に発信するため、県産農林水産物や郷土料理等の食文化の魅力、歴史等をまとめた山形のうまいもの「改訂版」を作成(3月)[新]</li> <li>・料理情報サイトへ郷土料理レシピ(学校給食メニュー)を掲載(2品/月)</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b> 学校給食における県産農林水産物の使用割合</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> 45%(H27) <b>【直近】</b> 43.2%(H28)</p> <p><b>【目標値】</b> 55%(H32)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育・地産地消推進事業費</li> <li>・学校給食における食育・地産地消促進事業費</li> </ul>	<p>やまがた食育協議会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>【平成 30 年度の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形のうまいものを活用した情報発信、食文化の普及・継承への支援。</li> </ul> <p>iii) 給食向け県産農林水産物の利用拡大</p> <p>【平成 29 年度の取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農林水産物の使用割合が低い市町村の個別巡回を実施(5月、6月、3町村)</li> <li>・学校給食への郷土料理の提供等に対する地産地消促進事業費補助金による支援(交付決定7月、21市町)[新]</li> <li>・学校給食における県産農林水産物や郷土料理の積極的な活用を支援。</li> </ul> <p>【平成 30 年度の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農林水産物の使用割合が低い市町村への個別訪問。</li> <li>・学校給食への県産農林水産物や郷土料理の提供等に対する助成。</li> </ul>			
<p>(5) 県産農産物等輸出拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】</p> <p>○本県食文化等の発信と併せた県産農産物・加工品の海外市場での販路開拓と業務用等の新たな分野への取引拡大を推進する。</p> <p>○新規輸出先国の開拓、既存輸出先国での販路拡大に向けた事業の展開と、販売拠点の設置を促進する。</p> <p>【主担当課】</p> <p>6次産業推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県国際経済振興機構を核としながら、新興市場として有望なASEAN諸国を中心に、県産米や県産果実等の販売プロモーションを開催し、山形ブランドの認知度向上を図った。</li> <li>・台湾版の国別輸出アクションプランを新規輸出者の掘り起こしに活用しつつ、シンガポール版とEU版を策定した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売プロモーションについては、高級スーパー等小売が中心であり、一般消費者への山形ブランドの認知度は高まってきているが、県産農産物等の輸出数量をさらに伸ばしていくには、業務用取引の拡大が必要である。</li> <li>・輸出先国ごとに輸出パートナーが固定化しつつあるほか、輸出取組者も固定化傾向にあるため、国別輸出アクションプランの活用により新規取組者を掘り起こしつつ、輸出量の拡大が見込まれる国や地域を対象としたアクションプランの策定を進めていく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多収米による低コスト・多収技術の実証と海外での求評を実施し、「業務用(外食産業)」取引の拡大を推進。</li> <li>・県産農産物等の輸出量の拡大が見込まれるマレーシア、タイ、北米を対象とした国別輸出アクションプランの策定とアクションプランを活用した新規輸出者の掘り起こしを実施。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 県産米の輸出拡大</p> <p>【平成 29 年度の取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米国サンフランシスコ日本国総領事館において、つや姫のトップセールスを実施(6月)</li> <li>・「県産米輸出拡大チーム」による情報共有と課題の整理を実施(7月)</li> <li>・台湾台北市での宮城県との合同フェアによる、つや姫等県産米販売プロモーションを実施(8月)</li> <li>・米国ハワイ州において、つや姫等県産品の認知度向上に向けたプロモーションを実施(11月)</li> </ul>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①県産農産物輸出货量</li> <li>②国別アクションプラン策定数(累計)</li> </ol> <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①987t(H27)</li> <li>②0件(H27)</li> </ol> <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①843t(H28)</li> <li>②3件(H29 予定)</li> </ol> <p>【目標値】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①1,300t(H32)</li> <li>②8件(H32)</li> </ol>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農産物・食品輸出拡大強化事業費</li> <li>・戦略的農産物販路・販売拡大事業費</li> <li>・県産米等輸出力強化推進事業費</li> </ul>	<p>山形県産農産物国別輸出アクションプラン検討チーム</p> <p>山形県産米輸出拡大チーム</p> <p>山形さくらんぼ世界一プロジェクト推進会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・台湾台北市、高雄市において、つや姫等県産品トップセールスを実施(1月)</p> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多収米による低コスト・多収技術の実証と海外での求評調査。[新]</li> <li>・低コスト・多収米によるパックライスの試作と試作したパックライスの中国主要都市での求評調査。[新]</li> <li>・米国における県産米プロモーション。</li> <li>・県産米の輸出拡大に積極的に取組む事業者自らが行う、海外への販路開拓・拡大に向けた取組みに対する助成。[新]</li> </ul> <p>ii) さくらんぼの輸出拡大</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マレーシアクアラルンプールにおいて販売プロモーションを実施(7月)</li> <li>・台湾台北市において販売プロモーションを実施(7月)</li> <li>・「山形さくらんぼ世界一プロジェクト推進会議」において輸出に関する情報共有と課題を整理(11月)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マレーシア及び台湾における販売プロモーション。</li> <li>・「山形さくらんぼ世界一プロジェクト推進会議」における輸出に関する情報共有と課題の整理。</li> </ul> <p>iii) 県産畜産物の輸出拡大</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香港において山形牛、県産豚販売プロモーションを実施(8月)</li> <li>・米国ハワイ州において、山形牛等県産品の認知度向上に向けたプロモーションを実施(11月)【再掲】</li> <li>・台湾台北市、高雄市において山形牛等県産品トップセールスを実施(1月)【再掲】</li> <li>・タイにおいて山形牛等県産食材プロモーションを実施(10月、2月)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香港における山形牛・県産豚販売プロモーション。</li> <li>・タイにおける山形牛等県産食材プロモーション。</li> </ul> <p>iv) 国別輸出アクションプランの策定</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクションプラン策定のためのマーケット調査、分析を実施(随時)</li> <li>・県産農産物等の輸出量の拡大が見込まれるシンガポール・EUの国別輸出アクションプラン(重点輸出品目や販売ターゲット、輸送体制、輸出モデル等をとりまとめたマニュアル)を策定(3月)【拡】</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マレーシア、タイ、北米、香港のマーケット調査、分析。</li> <li>・マレーシア、タイ、北米の国別輸出アクションプランの策定(香港は調査分析を前倒しで実施)</li> </ul>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>v) 東アジアへの輸出拡大</p> <div data-bbox="387 213 1364 416" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾台北市においてさくらんぼ販売プロモーションを実施(7月)【再掲】</li> <li>・台湾台北市において宮城県との合同フェアを実施(8月)【新】【再掲】</li> <li>・香港において県産農産物等販売プロモーションを実施(8月)【再掲】</li> <li>・台湾台北市、高雄市において県産品トップセールスを実施(1月)【再掲】</li> <li>・国別輸出アクションプラン(台湾)の活用による新たな輸出事業者の掘り起こし。【新】</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 416 1364 585" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾、香港におけるりんご、西洋なし等県産農産物販売プロモーション。</li> <li>・香港における多収米の求評調査。【新】【再掲】</li> <li>・試作した低コスト・多収米によるパックライスの中国主要都市での求評調査。【新】【再掲】</li> <li>・香港のマーケット調査、分析。【再掲】</li> </ul> </div> <p>vi) ASEANへの輸出拡大</p> <div data-bbox="387 630 1364 866" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マレーシアクアラルンプールにおいてさくらんぼ販売プロモーションを実施(7月)【再掲】</li> <li>・タイにおいて山形牛等県産食材プロモーションを実施(10月、2月)【再掲】</li> <li>・シンガポールにおいて県産農産物等の業務用への販路拡大に向けた、レストランを活用したフェア開催及び求評調査を実施(1月)【拡】</li> <li>・県産農産物等の輸出量の拡大が見込まれるシンガポールの国別輸出アクションプランを策定(3月)【拡】【再掲】</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 866 1364 1035" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マレーシア、タイ等におけるりんご、西洋なし等県産農産物販売プロモーション。</li> <li>・シンガポールにおける多収米の求評調査。【新】【再掲】</li> <li>・マレーシア、タイのマーケット調査、分析。【再掲】</li> <li>・マレーシア、タイ、国別輸出アクションプランの策定。【再掲】</li> </ul> </div> <p>vii) EUへの輸出促進</p> <div data-bbox="387 1080 1364 1283" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを活用した現地語(英語、イタリア語)による情報を発信。【新】</li> <li>・ドイツにおいて県産米等の業務用への販路拡大に向けた、レストランを活用したフェア開催及び求評調査を実施(12月)【拡】</li> <li>・県産農産物等の輸出量の拡大が見込まれる EU の国別輸出アクションプランを策定(3月)【拡】【再掲】</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 1283 1364 1385" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国別輸出アクションプランの活用による輸出事業者の掘り起こし。</li> <li>・ホームページを活用した現地語(英語、イタリア語)による情報発信。</li> </ul> </div> <p>viii) 北米への輸出促進</p> <div data-bbox="387 1430 1364 1495" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米国サンフランシスコ日本国総領事館において、つや姫等県産食品のPRを実施(6月)【新】</li> </ul> </div>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米国ハワイ州において、つや姫等県産品の認知度向上に向けたプロモーションを実施(11月)【再掲】</li> </ul> <p>【平成 30 年度の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米国における県産米プロモーション。【再掲】</li> <li>・米国における柿販売プロモーション。</li> <li>・北米のマーケット調査、分析。【再掲】</li> <li>・北米の国別輸出アクションプランの策定。【再掲】</li> </ul>			
<p>(6) 輸出基盤対策プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○生産者や輸出事業者等が輸出する上で抱える課題の解決に向けた対策の構築と支援等の強化に取り組む。</p> <p>【主担当課】 6次産業推進課 農業技術環境課 畜産振興課 水産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県国際経済振興機構において、県内事業者と海外企業とのマッチング支援、輸出パートナーの発掘・関係強化、海外プロモーションの展開など、各国のマーケット特性に応じた販路の開拓・拡大に向けた取組みを実施した。</li> <li>・山形県・ヤマト運輸・ANA総合研究所の3者による連携協定に基づき、香港向けに庄内空港を活用した小口・保冷航空輸送体系での農産物のテスト輸送を実施し、効果を確認した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸出先国ごとに輸出パートナーが固定化しつつあるほか、輸出取組者も固定化傾向にあるため、新たに輸出に取組む事業者の掘り起こしが必要である。</li> <li>・庄内空港を活用した小口・保冷航空輸送体系は、物量の安定確保や輸出検査機器が未整備等の課題があり、本格運用に向けた継続した検討を行う必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内空港を活用した常温コンテナによる輸出の可能性がある農産物を把握し、それらの品目でのテスト輸送及び求評調査の実施。</li> <li>・山形県国際経済振興機構における、県内事業者と海外企業とのマッチング支援等の取組みを継続して実施。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 県産農産物等の輸出実現支援</p> <p>【平成 29 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際機構会員等に対してヤマト運輸、ANA等が主催する海外商談会の情報を提供(9月)</li> <li>・輸出志向者の情報を国際機構と共有し、同機構によるフォローアップを実施(随時)</li> <li>・JAや農業法人等の輸出の取組みに対して助成を実施。</li> </ul> <p>【平成 30 年度の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県国際経済振興機構における、県内事業者と海外企業とのマッチング支援等。</li> <li>・JAや農業法人等の輸出の取組みに対する助成。</li> <li>・県産米の輸出拡大に積極的に取組む事業者自らが行う、海外への販路開拓・拡大に向けた取組みに対する助成。【新】【再掲】</li> </ul> <p>ii) 海外輸送体制の確立</p> <p>【平成 29 年度の実績】</p>	<p>【目標指標】 県産農産物輸出货量</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 987t(H27) 【直近】 843t(H28)</p> <p>【目標値】 1,300t(H32)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農産物・食品輸出拡大強化事業費</li> <li>・戦略的農産物販路・販売拡大事業費</li> </ul>	



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマト運輸、ANAとの連携による庄内空港を活用した小口・保冷航空輸送体系の検証を香港向けで実施(5月)【新】【再掲】</li> <li>・ヤマト運輸、ANAとの連携による庄内空港を活用した小口・保冷航空輸送体系の本格運用に向けた協議を実施(随時)【新】【再掲】</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <b>【平成 30 年度の取組予定】</b>          ・庄内空港を活用した常温コンテナによる輸出の可能性のある農産物の把握と、それらの品目でのテスト輸送及び求評調査。【新】【再掲】       </div> <p>iii) 地域商社を活用した輸出展開</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <b>【平成 29 年度の実績】</b>          ・「東北・食文化輸出推進事業協同組合」の活動に関する情報収集を実施(9月)       </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <b>【平成 30 年度の取組予定】</b>          ・「東北・食文化輸出推進事業協同組合」の活動に関する情報収集。       </div> <p>iv) 輸出促進に向けた県産農産物の検疫対策</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <b>【平成 29 年度の実績】</b>          ・海外各国・地域の検疫条件緩和等に関する政府への施策提案を実施。          ・台湾向け輸出生果実選果技術研修会を開催(8月)          ・台湾等輸出相手国・地域の検疫に適合するための手続きに関する情報提供(随時)       </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <b>【平成 30 年度の取組予定】</b>          ・海外各国・地域の検疫条件緩和等に関する政府への施策提案。          ・台湾向け輸出生果実選果技術研修会の開催。          ・台湾等輸出相手国・地域の検疫に適合するための手続きに関する情報提供。       </div>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の実績と平成 30 年度の実績予定

### 基本戦略4: 県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

#### 戦略分野3: 環境農業～エコ農産物の付加価値向上と環境や安全に配慮した生産管理の導入促進～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) エコ農産物生産推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○「環境保全型農業直接支払交付金」を活用して環境保全型農業の面的拡大を図るとともに、エコ農産物に対する消費者の理解促進と評価向上を図る。</p> <p><b>【主担当課】</b> 農業技術環境課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型農業直接支払交付金の平成 29 年 12 月現在の取組見込面積は 7,870ha で、前年の取組面積より 750ha 増加した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域によって取組みに差がみられることから、取組みが少ない市町村に対し交付金の積極的活用を働きかける必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型農業直接支払交付金の活用や有機・特別栽培農産物認証の推進等により、環境保全型農業の面的拡大を図るとともに、消費者交流イベントや情報サイト「山形 eco 農家」等により、エコ農産物の理解の醸成とブランド化を推進する。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p style="margin-left: 20px;">i) 環境保全型農業の面的拡大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 40px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型農業直接支払交付金の活用により環境保全効果が高い営農活動を拡大(4月担当者会議、6月申請受付)</li> <li>・置賜地域エコエリアモデル地区等を活用した技術研修会を開催(8月)</li> <li>・エコエリア庄内地域推進会議を開催(2月)</li> <li>・県内4地域で特別栽培農産物認証制度説明会を開催(12月)</li> <li>・エコエリアやまがた推進協議会を開催(2月)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 40px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型農業直接支払交付金の活用による環境保全効果が高い営農活動の拡大(4月担当者会議、6月申請受付)</li> <li>・有機・特別栽培農産物認証制度の推進。</li> </ul> </div> <p style="margin-left: 20px;">ii) 環境保全型農業の技術開発</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 40px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥等有機性資源を活用した施肥代替量の調査を実施(5月～9月)</li> <li>・技術集作成等による環境保全型農業技術の普及拡大。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 40px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥等有機性資源を活用した施肥代替量の調査の実施。</li> <li>・持続農法導入指針への技術追加等による環境保全型農業技術の普及拡大。</li> </ul> </div> <p style="margin-left: 20px;">iii) エコ農産物に対する消費者の理解促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 40px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型農業情報サイト「山形 eco 農家」を開設し(8月)、エコ農産物等の情報を発信</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b> 環境保全型農業直接支払交付金取組面積</p> <p><b>【現状値】</b> 〔戦略策定時〕 7,561ha (H27) 〔直近〕 7,144ha (H28)</p> <p><b>【目標値】</b> 11,000ha (H32)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型農業推進事業費</li> <li>・環境保全型農業直接支払対策費</li> </ul>	<p>エコエリアやまがた推進協議会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>[新]。 ・エコエリアやまがた推進コンクールを開催(3月)。 ・イベント等により消費者交流を推進。</p> <p>【平成 30 年度の取組予定】 ・消費者と生産者の交流イベント「エコエリア農楽隊」の開催[新] ・情報サイト「山形 eco 農家」によるエコ農産物等の情報の発信</p>			
<p>(2) 有機農産物生産 拡大・ブランド化プ ロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○有機農業の技術開発 と生産技術のマニユア ル化により生産者の拡 大及び生産性の向上 を図るとともに、積極 的な情報発信など、県 産有機農産物の消費 者理解の促進と評価 向上を図りブランド化 を推進する。</p> <p>【担当課】 農業技術環境課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況 ・「やまがた有機農業の匠」を 19 名認定し、新規取組者へのサポート体制を構築するとともに、えだ まめの有機栽培の手引き策定や「国際オーガニック EXPO2017」への出展(2件の商談成立)な ど、有機農産物の生産拡大に向けた技術開発や販路拡大に取り組んだ。</p> <p>②評価・課題等 ・「やまがた有機農業の匠」は有機農業生産拡大の推進役となっているが、地域的偏りがあるため、 各市町村における推進体制の整備が必要である。また、さらなる販路の拡大や消費者理解の促 進に向けて、生産者と実需者とのマッチングや情報発信、消費者との交流等をすすめる必要があ る。</p> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向) ・市町村の推進体制整備を促進するとともに、野菜や水稻の有機栽培技術開発や熟練農業者等 による新規取組者への技術的サポート体制の構築等により有機農業の拡大と定着を図るととも に、イベントやマッチング等による消費者との交流促進やインターネット等を活用した多方面の実 需者への情報発信により消費者理解を促進する。</p> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 有機農業の生産拡大</p> <div data-bbox="387 986 1366 1189" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成 29 年度の取組実績】 ・熟練有機農業者 19 名を「やまがた有機農業の匠」に認定(6月)し、新規取組者へのサポ ート体制を構築。[新] ・技術展示ほ(オープンフィールド)の設置(8か所)や高能率水田用除草装置に関する現地 セミナー開催(8月)等により有機栽培技術の普及拡大を促進。 ・東南村山地区有機栽培研修会を開催(12月)</p> </div> <div data-bbox="387 1189 1366 1358" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成 30 年度の取組予定】 ・山形県有機農業推進計画の改定[拡] ・市町村と「匠」が連携して推進体制整備や普及推進に取り組むための補助事業の実施。 [新] ・オープンフィールドを設置(8か所)し、技術実証等による普及拡大を図る。</p> </div> <p>ii) 有機農業の技術開発</p> <div data-bbox="387 1401 1366 1503" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平成 29 年度の取組実績】 ・えだまめの有機栽培の手引きを策定(3月)[拡] ・水稻の省力低コスト除草技術の研究開発を実施(5月～9月)[拡]</p> </div>	<p>【目標指標】 有機農業の取組面積</p> <p>【現状値】 【戦略策定時】 696ha (H27) 【直近】 713ha (H28)</p> <p>【目標値】 990ha (H32)</p>	<p>【ソフト】 ・有機農業推進事業費 ・環境保全型農業直接支 援対策費</p>	<p>有機農産物ブラン ド化推進専門部 会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さといも及びねぎの有機栽培技術開発(さといもの有機栽培マニュアル作成)</li> <li>・水稻の省力低コスト除草技術の研究開発。</li> </ul> <p>iii)有機農産物の評価向上</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農産物ブランド化推進専門部会を開催(8月)[新]</li> <li>・「国際オーガニック EXPO.2017」(8月、横浜市)に出展し、マッチングを推進。[新]</li> <li>・第2回有機農産物ブランド化推進専門部会の開催(2月)</li> <li>・消費者交流イベント「やまがたオーガニックフェスタ」(11月、山形市)の開催支援。</li> <li>・「有機農業推進フォーラム」を開催(3月)し、他県の有機農産物ブランド化事例等を研修。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農産物ブランド化推進専門部会の開催。</li> <li>・県内スーパーにおける有機農産物販売促進フェアの実施。[新]</li> <li>・「国際オーガニック EXPO」への出展等による販路拡大や情報発信。</li> </ul>			
<p>(3) 安全農産物生産推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○「やまがた農産物安全・安心取組認証制度」に導入した山形県版GAPの定着による県内生産者の安全・安心の取組みレベルの向上と、輸出促進にも繋がる第三者認証GAP取得を積極的に推進する。</p> <p><b>【担当当課】</b> 農業技術環境課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県版GAPの取組農家割合は35%となり平成28年度の約2倍に増加し、国際水準GAPの認証取得は19件46農場(3月現在)に拡大した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県版GAPに取り組む農家の割合は35%となり、平成28年の約2倍に増加し、国際水準GAPの認証取得は19件46農場(3月現在)に拡大するなど、GAPの取り組みは拡大しているが、山形県版GAPの取組みや国際水準GAP等の認証取得を促進するためには、JGAP指導員等の県内GAP指導員の早急な育成が必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種GAP研修会の開催等により、山形県版GAPの普及・定着を図るとともに、国際水準GAPの認証取得についても、GAP指導員の育成やガイダンス研修会の開催などにより推進。</li> <li>・モデル組織による認証取得を支援し、具体的な取組みや過程を見える化することで、県版GAP認証取得へ向けた機運の醸成を図る。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i)認証GAPの推進</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際水準GAP認証取得に取り組む生産者に対する技術的支援・助言等を実施。</li> <li>・普及指導員等41名をJGAP指導員として育成。</li> <li>・認証取得予定者に対するガイダンス研修(2月)開催。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス研修会の開催等による国際水準GAPの認証取得の推進。</li> <li>・国庫事業活用による県内JGAP指導員の育成。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①県産農産物の食品衛生法違反件数</li> <li>②「山形県版GAP」に取り組む農家割合</li> <li>③国際水準GAP認証農場数</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①0件(H27)</li> <li>②15.7%(H28)</li> <li>③33農場(H28)</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①0件(H28)</li> <li>②35.0%(H29)</li> <li>③-</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①0件(H32)</li> <li>②50%</li> <li>③66農場(H32)</li> </ol>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心農産物生産推進事業費</li> <li>・農産物の輸出適合性確保対策事業費</li> </ul>	<p>安全・安心ブランドやまがた産地協議会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議				
	<p>ii) 山形県版GAPの推進</p> <table border="1" data-bbox="385 213 1368 488"> <tr> <td data-bbox="385 213 1368 384"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心ブランドやまがた産地協議会(8月)等において県版GAPのPRを実施。</li> <li>・各種研修会の開催等により県版GAPの普及・定着を促進。</li> <li>・2020 オリ・パラ東京大会に対応できる山形県版GAP認証体制の構築に向けた準備。【再掲】[新]</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 384 1368 488"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県版GAP第三者認証制度の運用開始。[新]</li> <li>・各種研修会の開催等による県版GAPの普及・定着の促進。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>iii) 病害虫対策の確立</p> <table border="1" data-bbox="385 529 1368 735"> <tr> <td data-bbox="385 529 1368 635"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋なし胴枯病等の現地巡回等を実施(9月)</li> <li>・地域特産作物(うるい、セルリー)の農薬の適用拡大試験を実施。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 635 1368 735"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年問題となっている西洋なし胴枯病、りんご黒星病等の病害虫防除技術の構築。</li> <li>・地域特産作物(セルリー、わらび)の農薬の適用拡大試験の実施。</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心ブランドやまがた産地協議会(8月)等において県版GAPのPRを実施。</li> <li>・各種研修会の開催等により県版GAPの普及・定着を促進。</li> <li>・2020 オリ・パラ東京大会に対応できる山形県版GAP認証体制の構築に向けた準備。【再掲】[新]</li> </ul>	<p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県版GAP第三者認証制度の運用開始。[新]</li> <li>・各種研修会の開催等による県版GAPの普及・定着の促進。</li> </ul>	<p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋なし胴枯病等の現地巡回等を実施(9月)</li> <li>・地域特産作物(うるい、セルリー)の農薬の適用拡大試験を実施。</li> </ul>	<p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年問題となっている西洋なし胴枯病、りんご黒星病等の病害虫防除技術の構築。</li> <li>・地域特産作物(セルリー、わらび)の農薬の適用拡大試験の実施。</li> </ul>			
<p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心ブランドやまがた産地協議会(8月)等において県版GAPのPRを実施。</li> <li>・各種研修会の開催等により県版GAPの普及・定着を促進。</li> <li>・2020 オリ・パラ東京大会に対応できる山形県版GAP認証体制の構築に向けた準備。【再掲】[新]</li> </ul>								
<p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県版GAP第三者認証制度の運用開始。[新]</li> <li>・各種研修会の開催等による県版GAPの普及・定着の促進。</li> </ul>								
<p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋なし胴枯病等の現地巡回等を実施(9月)</li> <li>・地域特産作物(うるい、セルリー)の農薬の適用拡大試験を実施。</li> </ul>								
<p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年問題となっている西洋なし胴枯病、りんご黒星病等の病害虫防除技術の構築。</li> <li>・地域特産作物(セルリー、わらび)の農薬の適用拡大試験の実施。</li> </ul>								



## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略5:畜産業の競争力強化

#### 戦略分野1:畜産生産～山形生まれ山形育ちの畜産物の生産拡大とブランド力向上～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 地域で支える畜産クラスター推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○地域の中心となる畜産担い手を育成・確保するとともに、担い手の規模拡大や省力化・生産性向上に資する施設・機械の整備と家畜の増頭を支援し、畜産生産基盤の強化を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 畜産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手のスキルアップや交流促進を図るため和牛塾などの研修会を各総合支庁単位で開催した。</li> <li>・畜産経営競争力強化支援事業(県単)により 27 地区(事業費計約6億円)の施設整備等を支援するとともに、畜産クラスター事業(国庫)により12地区(事業費計約 57 億円)の施設整備を支援した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手を対象とした研修会の開催により、飼養管理技術の習得や相互の交流促進が図られている。生産者の高齢化等による畜産農家戸数の減少が続いているため、後継者や新規就農者の担い手を継続的に育成・確保していく必要がある。</li> <li>・規模拡大のための施設整備や省力化・生産性向上のための機械導入への支援により、担い手の生産基盤の強化が着実に進んでいる。畜産による産出額 500 億円の達成に向けて、引き続き意欲ある担い手が行う規模拡大等の取組みを地域ぐるみで支援していく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術向上研修会の開催や、特に新規就農者等に対しては、重点指導などできめ細かな支援を実施し、畜産担い手を育成。</li> <li>・意欲ある担い手に対して、国庫や県単事業により生産基盤の拡大を支援し、経営の安定化を図るとともに競争力を強化。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 若手の畜産担い手の育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉用牛の担い手を対象に、和牛増頭をテーマとした研修会を総合支庁単位に4回開催(村山 2/27、最上 2/7、置賜 8/30、庄内 11/28～29)</li> <li>・酪農の担い手を対象に、後継牛確保対策等をテーマとした研修会を開催(7/31、8/1)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉用牛の担い手育成のための研修会の開催(4回)</li> <li>・酪農の担い手育成のための研修会の開催(1回)</li> </ul> </div> <p>ii) 畜舎等の生産基盤強化の支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産経営競争力強化支援事業(県単)により 27 地区(事業費約6億円)の施設整備等を採択・支援。[拡]</li> <li>・畜産クラスター事業(国庫)の施設整備事業により 12 地区(事業費計約 57 億円)の施設整備を支援。</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b> 畜産による産出額</p> <p><b>【現状値】</b> 〔戦略策定時〕 447 億円(H26)</p> <p><b>【直近】</b> 473 億円(H27)</p> <p><b>【目標値】</b> 500 億円(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b> ・畜産経営競争力強化支援事業費</p> <p><b>【ソフト】</b> ・畜産経営技術対策事業費 ・やまがたの和牛増頭戦略事業費</p>	

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産クラスター事業(国庫)の機械導入事業で、国の平成 27 年度補正予算による採択分のうち 19 戸、平成 28 年度補正予算による採択分のうち 20 戸の機械導入を支援。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産経営競争力強化支援事業(県単)による施設整備等の支援。[拡]</li> <li>・国の平成 29 年度補正予算の畜産クラスター事業による6地区(事業費計約 24 億円)の施設整備の支援。機械導入についても国の採択に基づき支援。</li> </ul> <p>iii)キャトルセンターの設置支援</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全農山形県本部が進めている乳用牛育成施設・キャトルセンターの設置計画及び妊娠牛や子牛の流通の仕組みづくりについて打合せ会を実施(4/28、8/30)[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全農山形県本部の乳用牛育成施設の設置及びキャトルセンターの整備計画作成の支援。</li> </ul>			
<p>(2) やまがたの和牛増頭加速化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○和牛繁殖雌牛の増頭や一貫経営への移行推進、ET(受精卵移植)技術の活用により、和牛子牛の増産を図るとともに、優秀な県産種雄牛の造成等により、「総称山形牛」のブランド力を強化する。</p> <p><b>【担当課】</b> 畜産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖雌牛の増頭支援やICT技術(分娩・発情予知通報システム)導入による生産性向上を実証した。</li> <li>・能力の優れた2頭の県産種雄牛「幸花久」号と「神安平」号を作出した。</li> <li>・乳用牛への和牛受精卵の移植実証を行うとともに受精卵移植技術者のスキルアップ研修会を開催した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの繁殖雌牛導入への支援により、繁殖雌牛頭数は着実に増加。また、研修会の開催により経験の浅い受精卵移植技術者のスキルアップが図られている。しかしながら、県内の子牛の自給率は2割程度に留まっているため、従来から実施している繁殖雌牛の増頭支援に加え、繁殖部門の導入による一貫経営への移行支援、新技術を活用した乳牛への和牛受精卵移植を一層推進し、増頭の加速化と経営の体質強化を図っていく必要がある。</li> <li>・「満開1」号や新規種雄牛「幸花久」号、「神安平」号を中心に県産種雄牛の利用が増加しており、本県和牛改良と肉質向上に寄与している。今後、国際化の進展等により、産地間競争の激化が見込まれることから、県産種雄牛を活用した「山形生まれ、山形育ち」の「総称山形牛」の生産拡大により、ブランド力の強化に向けた取組みを一層推進していく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖雌牛の増頭及び乳用牛への和牛受精卵移植による和牛子牛の増産を推進。</li> <li>・肥育経営から一貫経営への移行を支援し、和牛子牛の確保と経営の安定化を一体的に推進。</li> <li>・優良な県産種雄牛の造成を継続し普及利用を図りながら、「総称山形牛」のブランド力を強化。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i)和牛繁殖雌牛の増頭</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT技術(分娩・発情予知通報システム)導入による生産性向上のための実証を実施(3か所)[新]</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①肉用牛産出額 ②繁殖雌牛頭数</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①110 億円(H26) ②6,140 頭(H27)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①115 億円(H28) [119 億円(H29 県推計)] ②6,720 頭(H29)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①142 億円(H32) ②7,500 頭(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産経営競争力強化支援事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがたの和牛増頭戦略事業費</li> <li>・肉用牛改良増殖対策事業費</li> <li>・乳用牛改良増殖対策事業費</li> <li>・試験研究費</li> </ul>	<p>やまがたの和牛増頭戦略協議会</p> <p>肉用牛育種改良推進協議会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖雌牛の導入に対する助成(増頭支援 170 頭、一貫経営移行支援 40 頭)</li> <li>・和牛増頭や一貫経営への円滑な移行に向けた繁殖技術向上研修会を開催(4回)[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT技術導入による生産性向上のための実証の実施(4か所)</li> <li>・繁殖雌牛の導入に対する助成(増頭支援 170 頭、一貫経営移行支援 40 頭)</li> <li>・研修会(和牛塾)の開催(4回)</li> </ul> <p>ii) 優良県産種雄牛の造成</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉用牛育種改良推進協議会を開催(7/10、11/17、2/6)</li> <li>・候補種雄牛の発育等の能力検定を実施(4頭)</li> <li>・候補種雄牛の現場後代検定材料牛生産のための調整交配を実施(「安三郎」号、「美津岳」号)</li> <li>・県産種雄牛の人工授精用精液を供給(平成 29 年度:14,624 本)</li> <li>・現場後代検定が完了し、平成 29 年7月に脂肪交雑など肉質が優れた「幸花久(ゆきはなひさ)」号、12 月には高級部位であるロース芯面積が大きい「神安平(かみやすひら)」号を作出。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉用牛育種改良推進協議会の開催(3回)</li> <li>・候補種雄牛の発育等の能力検定の実施(4頭)</li> <li>・候補種雄牛の現場後代検定材料牛生産のための調整交配の実施(2頭)</li> <li>・県産種雄牛の人工授精用精液の供給。</li> </ul> <p>iii) ET(受精卵移植)技術の活用による和牛子牛の増産</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受精卵移植の受胎率を高めるため、畜産試験場が開発した保存用具を用い、移植技術者を対象にスキルアップ研修会を開催(8/30、10/25～26)[新]</li> <li>・畜産試験場において和牛受精卵を製造(250 個)。県内の移植技術者に供給し、酪農家の乳牛への移植実証を実施。[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の受精卵移植技術者を対象としたスキルアップ研修会の開催(1回)</li> <li>・和牛受精卵を製造(250 個)、乳牛への移植実証の実施。</li> </ul> <p>iv) 総称山形牛ブランドの向上</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛肉の「おいしさの指標」の見える化に関する研究において、JAみちのく村山と連携し、枝肉共進会の牛肉サンプルを新たな評価手法により試験的に分析・表示(7月)</li> <li>・「第 11 回全国和牛能力共進会(宮城大会)」において、初めて臨んだ若雄牛の部で上位入賞を果たし、品質の高い「総称山形牛」生産の基盤となる県産種雄牛を全国にPR(9/7～9/11)</li> <li>・山形肉牛協会との連携により、山形県農林水産祭(10/14～10/15)、香港での山形フェア</li> </ul>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>(11月)等において「総称山形牛」のPR活動を実施。</p> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛肉の「おいしさの指標」の見える化研究の推進。</li> <li>・山形肉牛協会等との連携による「総称山形牛」のPR活動の実施。</li> </ul>			
<p>(3) 酪農生産性向上・消費拡大プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○乳用牛群検定事業の活用等により個体能力を把握し、生産性を高めるとともに、県産牛乳の消費拡大を図り酪農家の所得向上を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 畜産振興課</p>	<p><b>①前年度までの主な取組状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛群検定の実施や飼養管理技術の向上のためのベストパフォーマンス実現セミナーを開催した。</li> <li>・性別別精液活用促進のための現地研修会を総合支庁単位単位に4地域で開催した。</li> <li>・山形県牛乳普及協会との連携により、県産牛乳及び乳製品を利用した料理コンクールの開催等を通して、県産牛乳等のPRを実施した。</li> </ul> <p><b>②評価・課題等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーや現地検討会の開催等により飼養管理技術の向上が図られ、経産牛1頭当たりの生乳生産量は徐々に増加しているものの、酪農の戸数・頭数が減少していることに加え、乳用初妊牛価格の高騰により後継牛の導入が困難な状況が続いていることから、生乳生産量の拡大に向けた取組みを引き続き推進していくことが必要である。</li> <li>・県産ヨーグルト等の乳製品開発と販売拡大が進んでいるものの、牛乳・乳製品における産地間競争が激化していることから、県産飼料利用や資源循環などの生産面でのこだわり等をアピールした販促活動が必要である。</li> </ul> <p><b>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳用牛の能力を最大限発揮できる飼養管理の実践と性別別精液を活用した後継牛の安定確保等により、生乳生産量の拡大及び所得向上を推進。</li> <li>・本県の酪農と乳業が連携し、こだわりのある生乳生産等による高付加価値化を一層推進するとともに、こうして製造された商品を牽引役として県産牛乳・乳製品全体の販路を開拓・拡大。</li> </ul> <p><b>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</b></p> <p>i) 乳用牛のベストパフォーマンス実現の支援</p> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳用牛改良推進会議を開催(6/6)</li> <li>・牛群検定の実施への支援・指導を実施(対象56戸、1,687頭)</li> <li>・暑熱対策や後継牛確保対策をテーマとしたベストパフォーマンス実現セミナーを開催(7/31天童市、8/1河北町(農場研修))</li> <li>・性別別精液活用促進のための現地研修会を4地域で開催(村山 7/14、最上 7/13、置賜 7/19、庄内 7/14)[拡]</li> <li>・今年度の取組みの総括のための乳用牛ベストパフォーマンス実現検討会を開催(3/14)[新]</li> </ul> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳用牛改良推進会議の開催(1回)</li> <li>・牛群検定の実施への支援・指導の実施(対象50戸)</li> <li>・ベストパフォーマンス実現セミナーの開催(1回)</li> <li>・性別別精液活用促進のための現地研修会の開催(2回)</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①乳用牛産出額 ②経産牛1頭当たり生乳生産量</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①81億円(H26) ②7,254kg(H23~27)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①89億円(H28) [86億円(H29県推計)] ②7,645kg(H28)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①93億円(H32) ②7,700kg(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産経営競争力強化支援事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳用牛改良増殖対策事業費</li> <li>・酪農ヘルパー支援事業費</li> <li>・試験研究費</li> <li>・畜産物需給調整等対策事業費</li> <li>・やまがたの和牛増頭戦略事業費</li> </ul>	<p>山形県牛乳普及協会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>ii) 県産牛乳等の消費拡大</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県牛乳普及協会が主催する牛乳・乳製品料理コンクール開催(9/30)への協力。</li> <li>・山形県牛乳普及協会との連携により、山形県農林水産祭(10/14～10/15)などでの県産牛乳のPR活動を実施。</li> <li>・山形県ミルクブランド推進協議会との連携により、「アグリビジネス創出フェア」(東京都 10/4～10/6)などでの県産乳製品のPR活動を実施。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県牛乳普及協会との連携によるイベント等での県産牛乳のPR活動の実施。</li> <li>・山形県ミルクブランド推進協議会との連携による商談会やイベント等での県産ヨーグルト等の乳製品のPRと販促活動の実施。</li> </ul> </div>			
<p>(4) 県産銘柄豚生産・販路拡大プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○繁殖性や肉質に優れた種豚を作出し、普及利用を図ることにより、県産銘柄豚の生産拡大と販路拡大を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 畜産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統豚「ガッサンエル」をベースにした繁殖能力の高いランドレース種及び肉質に優れたデュロック種の改良型種豚作出のため、能力検定・選抜を実施した。</li> <li>・山形県産豚肉銘柄推進協議会と連携しながら、各種イベントや商談会への出展を支援し、県産銘柄豚のPRを実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改良型種豚の作出については、系統豚「ガッサンエル」をベースとしたランドレース種の繁殖性の改良及びデュロック種の肉質の改良に取り組んでおり、平成 30 年度の完成に向けて、引き続き優れた個体の選抜と能力検定を行っていく。</li> <li>・これまで、優良種豚の精液利用や県産豚肉の品質向上の取組みにより、県産豚肉の枝肉上物率は順調に上昇しているが、今後、国際化の進展等により、産地間競争が激化していくことが見込まれ、県産豚肉の生産拡大と評価向上に向けた取組みを推進していくことが必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産豚肉の生産性とブランド力を高めるため、繁殖性や肉質に優れた種豚を作出し、普及利用を推進。</li> <li>・県産銘柄豚の生産拡大を支援するとともに、商談会等でのPRにより販路を拡大。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 改良型種豚の作出</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統豚「ガッサンエル」をベースとして新たに導入(精液)したランドレース種系統との交配・分娩、能力検定、産肉調査、選抜等を実施。</li> <li>・養豚試験場繋養デュロック種と新たに導入(生体・精液)したデュロック種系統との交配・分娩、能力検定、産肉調査、選抜等を実施。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランドレース種及びデュロック種の種豚改良の継続実施。</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①豚産出額 ②豚枝肉上物率</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①128 億円(H26) ②46%(H23～27)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①120 億円(H28) [134 億円(H29 県推計)] ②50.9%(H28)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①172 億円(H32) ②50%(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産経営競争力強化支援事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産経営競争力強化支援事業費</li> <li>・豚改良増殖対策事業費</li> <li>・山形県産豚肉銘柄推進事業費</li> </ul>	<p>山形県産豚肉銘柄推進協議会</p>



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>ii) 県産豚肉の銘柄化の推進</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山形県産豚肉銘柄推進協議会と連携し県産銘柄豚をPR。 「第 11 回全国和牛能力共進会(宮城大会)」の県ブースで県産銘柄豚をPR(仙台市、9/7～9/11)</li> <li>「おいしい山形商談会」への出展支援(9/14～15)</li> <li>「日本一いも煮会フェスティバル」でのPR(9/17)</li> <li>「山形県農林水産祭」でのPR(10/14～10/15)</li> <li>「おいしいやまがた・食材王国みやぎビジネス商談会」への出展支援(宮城県 10/24)</li> <li>「おいしい山形商談会」への出展支援(東京都 3/15)</li> <li>「アグリフードエキスポ大阪 2018」への出展支援(2/21～2/22)</li> <li>山形県産銘柄豚リーフレットのリニューアル(2月)</li> <li>養豚試験場において、優良種豚の人工授精用精液を供給(4月～2月:3,631 本)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山形県産豚肉銘柄推進協議会と連携した県産銘柄豚のPR。</li> <li>養豚試験場における優良種豚の人工授精用精液の供給。</li> </ul>			
<p>(5) 養鶏生産・販路拡大プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○肉用鶏や採卵鶏の規模拡大を支援するとともに、やまがた地鶏については、新規参入者の確保や民間における種卵生産体制の確立を図りながら、養鶏全体の生産拡大と販路開拓・拡大を推進する。</p> <p><b>【主担当課】</b> 畜産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産クラスター事業(国庫)により、採卵鶏及び肉用鶏各1地区(事業費計約4億円)の施設整備を支援した。</li> <li>やまがた地鶏の民間での種卵生産・ヒナ供給体制を構築するため、県内2農場において現地実証を実施した。</li> <li>やまがた地鶏振興協議会と連携し、各種イベントにおいてPRを実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産クラスター事業(国庫)を活用した規模拡大のための施設整備等への支援を行っており、施設完成後は採卵鶏2万羽、肉用鶏1万9千羽の増羽が図られる見込みである。農場規模が大きくなることから、高病原性鳥インフルエンザ等の伝染病の発生を防止するため、衛生対策の徹底を指導していく必要がある。</li> <li>やまがた地鶏の民間での種卵生産・ヒナ供給の実証により、畜産試験場と連携したヒナの安定供給体制が構築されつつあるものの、ヒナの生産性を高めていくため、民間での産卵率とふ化率の向上を図る必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産出額の増加に向けて、意欲ある養鶏生産者の規模拡大を引き続き推進。</li> <li>やまがた地鶏のヒナの安定供給に向けて、県と民間が連携した種卵生産体制を構築。</li> <li>やまがた地鶏の知名度向上を図るとともに、販路開拓等により需要拡大を推進。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 養鶏の生産拡大</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①鶏産出額 ②やまがた地鶏飼養羽数</p> <p><b>【現状値】</b> <b>〔戦略策定時〕</b> ①34 億円(H26) ②16,000 羽(H27)</p> <p><b>〔直近〕</b> ①37 億円(H28) ②15,800 羽(H29)</p> <p><b>【目標値】</b> ①42 億円(H32) ②20,000 羽(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産経営競争力強化支援事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産経営競争力強化支援事業費</li> <li>やまがた地鶏産地形成推進事業費</li> </ul>	<p>やまがた地鶏振興協議会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産クラスター事業(国庫)により2地区(事業費計約 4.1 億円)の採卵鶏・肉用鶏の鶏舎等施設整備を支援。[地域で支える畜産クラスター推進プロジェクトの内数]</li> <li>・やまがた地鶏の民間での種卵生産・ヒナ供給体制の構築のため現地実証を実施(2農場)</li> <li>・食肉販売をテーマとしたやまがた地鶏飼育技術研修会を開催(6/9)</li> <li>・やまがた地鶏振興研修会を開催(3/15)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産クラスター事業(国庫)及び県単事業による鶏舎等施設整備の支援。[地域で支える畜産クラスター推進プロジェクトの内数]</li> <li>・やまがた地鶏の民間での種卵生産・ヒナ供給体制の構築のため現地実証の実施(2農場)</li> <li>・やまがた地鶏研修会の開催(2回)</li> </ul> <p>ii) やまがた地鶏の販路拡大</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた地鶏振興協議会との連携により各種イベントでのPRを実施。 「日本一さくらんぼ祭り」でのPR(6/17) 「県観光物産市」でのPR(8/5) 「第 11 回全国和牛能力共進会(宮城大会)」(仙台市 9/7~9/10)でのPR 「山形県農林水産祭」でのPR(10/14~10/15)</li> <li>・村山総合支庁の企画により村山総合支庁食堂においてやまがた地鶏使用メニューを提供(6/19~6/23)。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた地鶏振興協議会との連携による各種イベントでのPRの実施。</li> </ul>			
<p>(6) やまがた畜産ブランド推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○新たな県産畜産加工品の開発により高付加価値化を推進するとともに、安全・安心な畜産物の生産により県産畜産物の評価向上を図る。</p> <p><b>【主担当課】</b> 畜産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放牧酪農牛乳ソフトクリームの商品化(榊飯豊ながめやま牧場)への支援や山形県ミルクブランド推進協議会との連携により、県産ヨーグルト等のPRを実施した。</li> <li>・県産畜産物に対する「安全・安心」の評価を高めるため、農場HACCP認証取得に向けた指導、畜産物の放射性物質検査及び自給飼料の放射性物質検査等を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産畜産物の加工品開発による高付加価値化の取組みを支援し、今年度はこれまでに3件が商品化されている。規模の小さい個人経営の生産者は開発や販売面で課題も多く、食品製造業者と連携した取組みや法人経営の事業者の取組みを支援していくことが必要である。</li> <li>・安全・安心な本県畜産物の生産推進の取組みとして、農場HACCP取得に向けた指導等を実施しているが、平成 32 年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けて農場HACCPや日本版畜産GAPの取組みを促進していくことが求められることから、指導員の養成とともに、生産者への普及啓発を図っていくことが必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地間競争を勝ち抜くため、県産飼料にこだわった畜産物生産や加工品開発による高付加価値化と有利販売を一層推進。</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b> 畜産農家等の新たな畜産加工食品の開発件数(H29~32の累計)</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> 6件(H27)</p> <p><b>【直近】</b> 3件(H29)</p> <p><b>【目標値】</b> 12件(H29~H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食産業王国やまがた推進事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物等流通戦略推進事業費</li> <li>・畜産競争力強化支援事業費</li> <li>・山形県産豚肉銘柄推進事業費</li> <li>・やまがた地鶏産地形成推進事業費</li> <li>・農畜産物放射性物質検査事業費</li> <li>・家畜個体識別等情報活</li> </ul>	<p>山形県ミルクブランド推進協議会</p> <p>山形肉牛協会</p> <p>山形県産銘柄豚推進協議会</p> <p>やまがた地鶏振興協議会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・安全・安心な畜産物の供給に向けて、農場の衛生管理指導や家畜伝染病の防疫対策を強化。</p> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 県産畜産物の高付加価値化</p> <div data-bbox="385 293 1364 523" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放牧酪農牛乳ソフトクリームの商品化(楸飯豊ながめやま牧場)を支援。</li> <li>・「第 11 回全国和牛能力共進会(宮城大会)」の県ブースにおいて県産乳製品をPR(仙台市 9/7~9/11)</li> <li>・山形県ミルクブランド推進協議会との連携により「アグリビジネス創出フェア」へ出展(東京都、10/4~10/6)</li> <li>・畜産農家等の新たな畜産加工品開発への支援を実施(3件)</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 523 1364 624" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産農家等が取り組む新たな畜産加工品開発への支援。</li> <li>・山形県ミルクブランド推進協議会との連携による県産乳製品のPR。</li> </ul> </div> <p>ii) 安全安心な本県畜産物の生産の推進</p> <div data-bbox="385 668 1364 898" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農場HACCP認証取得に向けて事前指導を実施(15 農場)。</li> <li>・畜産物の放射性物質検査(牛肉全頭、牛肉以外の品目計 28 件)及び自給飼料の放射性物質検査(16 件)を実施。</li> <li>・家畜個体識別システム(牛トレーサビリティ)の運用及び飼養管理情報データベースの構築・ホームページでの公開。</li> <li>・高病原性鳥インフルエンザのモニタリング検査(延べ 174 戸)を実施。</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 898 1364 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農場HACCP認証取得に向けて事前指導の実施。</li> <li>・畜産物及び自給飼料の放射性物質検査の実施。</li> <li>・家畜個体識別システム(牛トレーサビリティ)の運用及び飼養管理情報データベースの構築・ホームページでの公開。</li> <li>・高病原性鳥インフルエンザのモニタリング検査の実施。</li> </ul> </div>		<p>用促進事業費</p> <p>・高病原性鳥インフルエンザ対策事業費</p> <p>ほか</p>	

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の実績と平成 30 年度の実績予定

### 基本戦略5: 畜産の競争力強化

#### 戦略分野2: 耕畜連携・自給飼料～耕種農家と畜産農家の連携による県産飼料の生産・利用拡大～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 県産飼料生産拡大プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○耕畜連携の強化とともに、飼料基盤の整備や水田フル活用による飼料生産を推進し、県産飼料の生産・利用拡大を図る。</p> <p><b>【担当課】</b> 畜産振興課 県産米ブランド推進課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産クラスター事業(国庫)や畜産経営競争力強化支援事業(県単)により、自給飼料機械の導入や牧場の草地更新による生産性向上を支援した。</li> <li>飼料用米の需給マッチングの定着・拡大に向けて、飼料用米利用拡大シンポジウムを開催した。</li> <li>飼料用米の低コスト利用のための粉砕・混合施設や機械の整備を支援した。</li> <li>稲WCS(稲発酵粗飼料)の稲作地帯と畜産地帯間での広域流通マッチングに向けて、栽培・給与実証を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産クラスター事業や畜産経営競争力強化支援事業(県単)において、草地更新や自給飼料生産のための機械導入を支援したことにより、収量の向上や飼料収穫・調製等の効率化が図られたものの、潜在的な機械導入の需要は多く、その対応が必要である。</li> <li>稲作農家と畜産農家の需給マッチングを継続的に推進してきたことにより、県内の飼料用米の作付面積がH28の3,840haからH29の3,916haへと拡大し、利用も増加しているが、規模拡大等に伴い飼料用米の利用を増加したい意向のある畜産農家も存在しているため、更なる生産拡大とマッチングの広域化の推進が必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の実績予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飼料生産ほ場の整備や施設・機械の導入を支援し、省力的かつ効率的な飼料生産と利用拡大を推進。</li> <li>耕畜連携による飼料用米等の県産飼料の生産・利用拡大に向けて、需給マッチングを強化(広域化を含む)し飼料費の低減を推進。</li> </ul> <p>④平成29年度の実績及び平成30年度の実績予定の内容</p> <p>i) 県産飼料の基盤整備</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産経営競争力強化支援事業(県単)で、最上町の前森牧場の草地更新による生産性向上を支援。</li> <li>畜産クラスター事業(国庫)により自給飼料関連の機械の導入を支援(20戸、事業費計約2.5億円)[地域で支える畜産クラスター推進プロジェクトの内数]</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成30年度の実績予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産クラスター事業(国庫)や県単事業による自給飼料の生産・利用拡大のための飼料保管庫等の施設整備や機械導入の支援。</li> </ul> </div> <p>ii) 飼料用米の生産・利用の拡大[関連]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飼料用米の需給マッチングの定着・拡大に向けて、飼料用米利用拡大シンポジウムを開催</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①飼料作物の作付面積(飼料用米含む)</p> <p>②県内飼料生産・利用のための耕畜連携組織数</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①10,333ha(H27)</p> <p>②66組織(H27)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①10,200ha(H28)</p> <p>②67組織(H28)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①11,200ha(H32)</p> <p>②75組織(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産経営競争力強化支援事業費</li> <li>草地開発事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>飼料用米等生産利用拡大支援事業費</li> <li>自給飼料生産対策事業費</li> </ul>	

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>(8/29)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料用米の新たな需給マッチング組織の設立を支援(1地区)</li> <li>・飼料用米の生産拡大のための保管庫整備、低コスト利用のための粉砕・混合施設や機械の整備を支援。[拡]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料用米の新たな需給マッチング組織の設立の支援(1地区)</li> <li>・地域内で生産・流通・利用が完結する取組みを行う協議会への支援(1地区)</li> <li>・飼料用米の流通・保管の効率化に必要なフレコンバグの導入に対する支援。</li> </ul> <p>iii) 耕畜連携の推進</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作地帯と畜産地帯における稲WCS(稲発酵粗飼料)の広域流通マッチングに向けた栽培実証(高島町・白鷹町、5月～10月)と給与実証(尾花沢市内肉用牛農家2戸、10月～2月)を実施。</li> <li>・良質な稲WCSの生産・利用拡大を図るための成分分析の実施(最上町内繁殖農家4戸、12月～2月)</li> <li>・簡易放牧の取組み拡大に向け、飯豊町高峰地区、小国町金目地区にてアブトラップの講習会・実演会を開催(7/3)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲WCS用として茎葉タイプの品種による栽培・給与実証の実施。</li> <li>・耕作放棄地等の未利用農地を活用した簡易放牧の取組みへの支援。</li> <li>・コントラクター(飼料作物栽培・収穫調製作業請負組織)の育成強化を図るためのコントラクター等研究会の開催(1回)</li> </ul> <p>iv) 置賜地域での飼料自給力の強化</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子実用とうもろこし栽培実証ほの設置に向けて、生産者や関係機関による打合せを2回実施し、飯豊町の1法人、1個人において作付面積合計7.8haで実施することを確認(4/7、4/18)</li> <li>・栽培体系(品種、施肥、除草方法)を検討するため、生産者、種苗メーカー、関係機関により実証予定ほ場の現地確認を実施(4/25)</li> <li>・とうもろこしの栽培技術習得に向け、実証ほ(飯豊町)において播種作業実演を実施(5/11、5/19)</li> <li>・除草剤一発処理(茎葉処理)の有効性を検証するため、実証ほ(飯豊町)において除草剤散布を実施(6/12、6/24)</li> <li>・実証ほ(飯豊町)において子実水分調査を実施し収穫適期判断を支援(8月～9月)</li> <li>・飯豊町の個人の生産者が子実用からWCSへ軌道修正したため、子実用は0.8haに変更(9月)</li> <li>・子実用とうもろこしの収穫作業実演会を開催、調製技術を実証(10/4) [農振・普及課・農整・農計・飯豊町・県内関係機関・関係団体・研修生(生産者)] 約60名</li> <li>・農整課・農計課と連携し、基盤整備を実施したほ場の畑地化作物として子実用とうもろこしの提案を3地区(川西 11/14,27,30)で実施[農整・農計・農振・普及課]</li> </ul>			



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子実用とうもろこしの生産拡大に向けた課題の整理と問題解決に向けた検討会を開催(12/25)</li> <li>・和牛肥育牛の飼料としての有効性を検証するため、飼料分析及び給与牛の血液検査を実施(1戸、2月～3月)</li> <li>・実証結果の総括と来年度に向けた課題の整理のための検討会を開催(3/27)</li> <li>・平成30年度の川西町西大塚地区での栽培実証と川西町肉用牛振興部会での給与実証に向けた打合せを実施(3/27)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>【平成30年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川西町及び飯豊町における子実用とうもろこしの栽培及び肥育牛への給与実証支援。</li> <li>・小国町におけるやまがた地鶏への給与実証支援。</li> </ul> </div>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の実績と平成 30 年度の実績予定

### 基本戦略6:「やまがた森林ノミクス」の推進

#### 戦略分野1:人材育成～やまがた森林ノミクスを支える人材の育成・確保～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 森林ノミクスを支える人材育成・確保プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b>                      ○森林ノミクスを支える人材を確保するため、県立農林大学校林業経営学科や緑の雇用制度等を活用して若い林業就業者の育成を図るとともに、県産木材の安定供給を担う技術者の育成に取り組む。                      ○森林組合等の林業事業体の経営基盤の強化を図ることにより、林業・木材産業における就業者の所得の向上と雇用の改善を図る取組みを推進する。</p> <p><b>【担当課】</b>                      林業振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林ノミクスの推進を担う人材確保のため、農林大学校生への給付金の給付や、林業就業希望者向けの講習会、青年林業士による林業の普及活動等を実施した。</li> <li>・林業技術者の技術向上を図るための研修会等を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の青年就業準備給付金について、国の予算枠の関係で満額の給付ができない状況にあることから、国に対し十分な予算の確保を求めていく必要がある。</li> <li>・林業技術の指導、普及を担う技術者の育成が必要である。</li> <li>・林業の新規就業者確保のため、ホームページ等による情報発信や様々なイベントでのPR活動などを通じ、林業の魅力を発信する取組みをさらに推進していくことが必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立農林大学校林業経営学科卒業生の林業関係団体・企業等への着実な就業を支援。</li> <li>・林業の新規就業者を確保するための施策の展開、青年林業士の活動促進。</li> <li>・森林組合等の林業事業体の育成強化を図るための、集約化を推進する技術者や木材生産等の現場を管理する技術者の育成。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の実績及び平成 30 年度の実績予定の内容</p> <p>i) 林業の新規就業の促進確保</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林業への新規就業を促進するため緑の青年就業準備給付金を給付。                              1 年生 8 名（生徒数 10 名）、2 年生 11 名（生徒数 15 名）[拡]</li> <li>・林業への新規就業を検討している方を対象とした就業支援講習会を開催。                              (5日間コース:6月、6名。20 日間コース:9月、9名)</li> <li>・農林大学校林業経営学科の学生への青年林業士による修業を支援。[拡]</li> <li>・農林大学校生や林業に興味を持つ方を対象とした就業ガイダンスの開催(2月)[新]</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就業者の確保を促進するための緑の青年就業準備給付金の給付。</li> <li>・農林大学校生や林業に興味を持つ方を対象とした就業ガイダンスの開催(2月)</li> </ul> </div> <p>ii) 林業技術者の育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林施業プランナー技術向上研修を実施(9月、3月)</li> <li>・森林作業道作設指導者研修(6月)、オペレーター研修を実施(9月)</li> <li>・木材生産等の現場作業を管理するフォレストリーダー等の技術者を養成(9月～11月)</li> <li>・森林施業の集約化に向けた森林経営計画の策定を促進するための指導強化。</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①林業の新規就業者数(4年間の累計)</p> <p>②森林施業プランナーの数</p> <p>③林業士数(指導林業士+青年林業士)</p> <p><b>【現状値】</b>  <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①222 人(H24～27)</p> <p>②28 人(H28)</p> <p>③51 人(H28)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①—</p> <p>②32 人(H29)</p> <p>③58 人(H29)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①270 人(H29～H32)</p> <p>②50 人(H32)</p> <p>③71 人(H32)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の青年就業準備給付金事業費</li> <li>・やまがた森林ノミクス推進事業費(県青年林業士活動推進事業)</li> <li>・林業技術向上対策事業費</li> <li>・林業普及指導事業費</li> </ul>	

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<div data-bbox="387 172 1364 341" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林施業の生産性や収益の向上を図るためのフォレストリーダーや森林施業プランナーなど林業技術者を対象とした研修会の実施。</li> <li>・林業技術に関する指導や普及を担う人材の育成を図るための林業技術者や林業普及指導員等を対象とした研修会の実施。</li> </ul> </div> <p data-bbox="360 355 831 379">iii) 林業士(指導林業士・青年林業士)の育成</p> <div data-bbox="387 384 1364 520" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年林業士スキルアップ研修(8月)、指導林業士研修(9月)を実施。</li> <li>・青年林業士による県立農林大学校林業経営学科の実習支援を実施。</li> <li>・青年・指導林業士会の新規認定候補者の推薦及び養成研修の実施(1月～2月)</li> </ul> </div> <div data-bbox="387 525 1364 660" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年、指導林業士の認定、スキルアップ研修の実施。(9月)</li> <li>・青年林業士による県立農林大学校林業経営学科の実習支援の実施。</li> <li>・青年・指導林業士会の新規認定候補者の養成研修の実施(1月～2月)</li> </ul> </div>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略6:「やまがた森林ノミクス」の推進

#### 戦略分野2:木材生産・加工～木を育て・使い・再び植える「緑の循環システム」の構築～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 再造林推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○再造林を推進するための会議を開催し、民間主導により再造林を支援する基金制度を創設するなど、再造林の推進体制及び支援体制の構築を図り、再造林率を向上させる。</p> <p><b>【主担当課】</b> 林業振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 29 年度に関係事業者で構成する「山形県再造林推進会議」を4回開催し、行政と民間が連携して再造林を支援する仕組みについて検討を行うとともに、民間事業者で構成する「山形県再造林推進機構」の設置について合意形成を図った。</li> <li>「主伐・再造林」を適正かつ計画的に進めるため、「皆伐・更新施業の手引き」と「伐採事業者と造林事業者の連携等による伐採と再造林のガイドライン」を作成した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民間事業者で構成する「山形県再造林推進機構」が平成 29 年 12 月に設置されるなど、再造林を推進するための支援体制は整いつつある。</li> <li>伐採事業者と森林組合等の造林事業者が情報の共有を図り、伐採前の段階で、連携して森林所有者に再造林を働きかけることが必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村森林整備計画や県作成の「皆伐・更新施業の手引き」等に基づき、伐採事業者と造林事業者が連携して主伐(皆伐)後の再造林を適正かつ計画的に実施するよう、指導を徹底する。</li> <li>行政と山形県再造林推進機構が連携して、持続的に再造林を支援する取組みを継続する。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 再造林の推進体制の整備</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係事業者で構成する「山形県再造林推進会議」を4回(5月、9月、11月、3月)開催し、支援スキームについて検討。[新]</li> <li>関係事業者に対し、総合支庁単位で再造林推進に向けた説明会を実施し意見を集約。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「山形県再造林推進会議」において、再造林推進に向け、伐採事業者と造林事業者の連携に係る課題の洗い出しと対策について継続して検討。</li> <li>伐採事業者と造林事業者に対し、平成 29 年度に作成した手引き、ガイドラインに則して、「伐採・更新計画」を自主的に作成し、連携して「主伐・再造林」を計画的に実行するよう指導。[新]</li> <li>再造林の低コスト化を図るため低密度植栽技術の確立に向けた実証の実施。[新]</li> </ul> </div> <p>ii) 再造林の支援体制の構築</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実質補助率 100%の再造林支援等により森林所有者の再造林意欲を喚起。[新]</li> <li>事業者が協力金を拠出し再造林経費を助成する基金運営組織である「山形県再造林推進機構」が 12 月に発足。[新]</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①再造林率 ②再造林を支援する基金制度の創設</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> ①33%(H27) ②－</p> <p><b>【直近】</b> ①32%(H28) ②－</p> <p><b>【目標値】</b> ①100% ②制度創設(H29) 制度運用(H30～)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林施業支援事業費</li> <li>森林環境緊急保全対策事業費(森林資源再生事業)</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やまがた森林ノミクス推進事業費(再造林支援制度推進事業)</li> </ul>	<p>山形県再造林推進会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>苗木生産施設整備への支援及び苗木生産技術向上と新規参入者の育成を図るため種苗生産者講習会を実施。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再造林推進機構と連携し、補助率 100%の再造林支援等により森林所有者の再造林意欲を喚起。</li> <li>苗木生産施設整備への支援及び苗木生産技術向上と新規参入者の育成を図るための種苗生産者講習会の実施。</li> </ul>			
<p>(2) 県産木材安定供給プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○県産木材の生産拡大に向けた森林施業の集約化、路網の計画的な整備、高性能林業機械の導入等の低コスト作業システムを構築することにより、持続可能で収益性の高い森林経営を推進する。 ○県産木材や県産木材製品の高付加価値化に向けて、森林認証やJAS認定の取得を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 林業振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施業の集約化を目指した森林経営計画の策定が進んでいない地域に対し重点的な指導を実施した。</li> <li>東京 2020 オリ・パラ関連施設での木材使用の調達基準となる森林管理認証を7月に取得し、製材工場のJAS認定も1工場取得した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林経営計画の策定や高性能林業機械の導入等により、森林組合等の事業体の素材生産体制は強化されつつあるが、県産木材の生産拡大を進めるためには、施業の低コスト化を一層推進するとともに、間伐主体の森林経営から主伐主体の森林経営へ方向転換を図ることが必要である。</li> <li>県産木材や県産木材製品の高付加価値化に向けて、森林管理認証やJAS認定製材工場を着実に増加させ、非住宅分野への木材利用を推進していく必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施業の集約化を一層推し、低コスト作業システムを構築して県産木材の安定供給を推進。</li> <li>県産木材製品の高付加価値化の取組を推進。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組の内容</p> <p>i) 施業の集約化の推進</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林経営計画の策定が進んでいない地域において新たに計画を策定(村山・置賜)</li> <li>県内5事業体で境界明確化事業に着手(計画面積計 221ha)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現行の間伐主体の森林経営計画から主伐主体の計画への変更の促進。</li> <li>森林整備活動支援交付金等の活用による森林の境界明確化の推進。</li> </ul> <p>ii) 林内路網の整備促進</p> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>林道開設6路線、林道改良2路線、林業専用道4路線について着手。</li> <li>森林土木職員を対象として路網作設研修会を実施(9月)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>林道開設6路線、林道改良2路線、林業専用道4路線(内、新規開設1路線を計画)について着手予定。</li> <li>森林土木職員の技術向上を図るため路網作設研修会を実施(10月)</li> </ul>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①木材(素材)生産量</li> <li>②高性能林業機械保有台数</li> <li>③林内路網整備</li> <li>④森林管理認証の取得団体数(累計)</li> <li>⑤JAS製品出荷量</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①36 万㎡(H27)</li> <li>②82 台(H26)</li> <li>③117km(H27)</li> <li>④-</li> <li>⑤28 千㎡(H27)</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①43 万㎡(H28)</li> <li>②102 台(H28)</li> <li>③113km(H29)</li> <li>④2件(H29)</li> <li>⑤30 千㎡(H28)</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①60 万㎡(H32)</li> <li>②150 台(H32)</li> <li>③152km(H32)</li> <li>④5件(H32)</li> <li>⑤85 千㎡(H32)</li> </ol>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林施業支援事業費</li> <li>民有林林道整備事業費</li> <li>次世代林業基盤づくり交付金事業費(森林・林業再生基盤づくり交付金事業)</li> <li>森林整備促進・林業等再生基金事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林整備地域活動支援事業費</li> <li>やまがた森林ノミクス推進事業費(森林認証取得支援事業、県産製材品高度化促進事業)</li> <li>やまがたの木利用拡大プロジェクト事業費</li> <li>森林環境緊急保全対策事業費(森林資源循環利用促進事業)</li> </ul> <p><b>【やまがた緑環境税】</b></p>	



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・市町村との連携による新規路線の具体的な計画の検討。</p> <p><b>iii)高性能林業機械の導入推進</b></p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の補助事業等を活用し、事業体の導入を支援(7月決定、購入4台・貸付5台)</li> <li>・高性能林業機械導入促進に向けた普及啓発や、次年度以降の機械導入計画の把握。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の補助事業等を活用し、事業体の導入を支援(購入6台・貸付5台)</li> <li>・高性能林業機械導入促進に向けた普及啓発や、次年度以降の機械導入計画の把握。</li> </ul> <p><b>iv)間伐の推進</b></p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業体から提出された間伐の事前計画書に基づき、現地指導を実施(補助金は事後申請のため、間伐完了後に交付決定を予定)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林経営計画に基づく路網整備と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムによる搬出間伐の促進。</li> </ul> <p><b>v)県産木材の流通拡大</b></p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産木材の需給調整等を担う「県原木流通協議会」で、原木増産に向けた意見交換(6月、10月)、事業者経営者を対象にした経営セミナー(県産原木生産拡大推進大会)を開催(8月)[新]</li> <li>・県産木材の加工・流通の拠点となる「県産木材加工流通施設」整備を支援(ストックヤード:10月完成)</li> <li>・低質材(B材、C・D材)の搬出に対して助成を実施(7月)</li> <li>・原木流通協議会による原木増産に向けた意見交換や経営セミナー等の開催(11月～2月)[新]</li> <li>・合板や集成材、木質バイオマス資源等の低質材(B、C・D材)の搬出に対する財政支援。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産木材加工流通施設の整備(加工施設:6月完成予定)</li> <li>・原木生産団体との意見交換会の実施。</li> <li>・各総合支庁による原木の生産流通に関する必要な支援の実施。</li> <li>・国有林、県、原木生産団体による原木調達に特化した連絡調整会議の実施。</li> </ul> <p><b>vi)森林認証取得の促進</b></p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真室川県有林(348ha)、県民の森県有林(11ha)がSGEC森林管理認証を取得(7/1)[拡]</li> <li>・森林管理認証取得を目指した民間事業者(1団体)の取組みを支援。[新]</li> <li>・森林管理認証制度に関する研修会の開催(1回)[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林管理認証制度の普及、PR活動の実施。</li> </ul>			

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>vii) 県産木材製品の高付加価値化の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JAS認定取得のため県内製材所等の普及啓発を行うとともに、取得経費に係る経費を助成（6月、1社）[新]</li> <li>・県JAS協議会等との連携による認定取得に向け現地指導を実施（1社取得）[新]</li> <li>・JAS認定取得促進に向けた普及啓発や、次年度以降のJAS認定取得事業体の把握。[新]</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JAS認定取得のため県内製材所等の普及啓発を行うとともに、取得経費に係る経費を助成（1社）</li> <li>・県JAS協議会等との連携による認定取得に向けた現地指導の実施。</li> <li>・JAS認定取得促進に向けた普及啓発や、次年度以降のJAS認定取得事業体の把握。</li> </ul> </div>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略6:「やまがた森林ノミクス」の推進

#### 戦略分野3:木材利用～県民総参加による県産木材の率先利用の促進～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 県産木材率先利用プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○県産木材の利用を促進するため、公共施設や民間施設の木造化・木質化を推進するとともに、県民全体で県産木材を利用する「しあわせウッド運動」の推進、木質バイオマス供給施設整備への支援を推進する。</p> <p><b>【担当課】</b> 林業振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公共建築物等の木材利用の促進に関する基本方針」の変更、及び「第3期県産木材利用拡大山形県率先行動計画」の策定を行い、新たな技術を活用した大規模建築物の普及を促進するなど、公共施設や民間施設の木造・木質化を推進した。</li> <li>・県産木材を推進するための県民運動「しあわせウッド運動」をスタートさせ、(ウッド)スタートとして県内幼稚園等への積み木配布に向けた事業を実施した。</li> <li>・展示効果の高い、山形空港と山形駅東西連絡通路北側壁面の内装木質化への支援を実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木質耐火部材等の新たな技術を活用した大規模建築物の普及を促進するなど、公共施設や民間施設の木造・木質化を強力に推進していく体制づくり等が必要である。</li> <li>・木質バイオマス発電施設の整備が進み、燃料となる原木集荷が県内各地で始まっているが、CD材のみの需要が増加していることから、安定供給していくことが課題である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設及び民間施設の木造化・木質化の推進。</li> <li>・県民のライフステージに応じて、県民運動等による県産木材利用を体系的に推進。</li> <li>・木質バイオマス供給施設整備への支援及び燃料の安定供給体制の整備。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 公共施設の木造化の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幹事会での改定(案)の協議(11月)、県森林審議会等における有識者の意見聴取及びパブコメを経て、基本方針の変更及び率先行動計画を策定。[拡]</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の基本方針改定にあわせて各市町村が策定している基本方針の改定の指導。</li> </ul> </div> <p>ii) 民間施設の木造化・木質化の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁ロビー等の内装木質化に関する基本計画の策定(1月)[新]</li> <li>・山形空港内の内装木質化のため山形空港ビル(株)に対し助成を実施(3月完成)[新]</li> <li>・JR 山形駅東西連絡通路北側壁面の内装木質化のため、JR 東日本に対し助成(9月補正予算:11月完成)[新]</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁ロビーの内装木質化の実施。</li> <li>・庄内空港内の内装木質化のための庄内空港ビル(株)に対する助成の実施。</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①公共施設の木造化率</li> <li>②民間施設(産業用建築物)の木造化率</li> <li>③木質バイオマス供給量</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> 〔戦略策定時〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①66%(H27)</li> <li>②43%(H27)</li> <li>③34千t(H27)</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①100%(H28)</li> <li>②39%(H28)</li> <li>③61千t(H28)</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①100%(H32)</li> <li>②55%(H32)</li> <li>③106千t(H32)</li> </ol>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた森林ノミクス推進事業費(公共・民間施設木造化・木質化推進事業)</li> <li>・次世代林業基盤づくり交付金事業費(森林・林業再生基盤づくり交付金事業)</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形の家づくり支援事業費</li> <li>・やまがた森林ノミクス推進事業費(やまがたの木づかい運動推進事業)</li> </ul>	<p>公共施設等県産木材利用拡大推進会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>iii) 県産木材を活用する「しあわせウッド運動」の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産木材を利用した積木を障害者支援施設で製作し村山・最上地域の幼稚園等(60 施設)へ配布(12 月～3 月)[新]</li> <li>・平成 30 年度実施区域(置賜・庄内地域)における積木製作・配布に係る計画案を作成。[新]</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産木材を利用した積木を障害者支援施設で製作し、置賜・庄内地域の幼稚園等(53 施設)へ配布。</li> </ul> </div> <p>iv) 木質バイオマスの利用促進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマス発電所等に対する燃料の安定供給を図るため、木質バイオマス燃料供給施設(4施設)の整備に対し助成を実施(6月)</li> <li>・県産木材の増産に向け意見交換会を開催(8月、10 月、1 月)[新]</li> <li>・県産木材の増産に向けセミナーを開催(8 月、3 月)</li> <li>・木質バイオマス施設用の低質材(C・D材)の搬出に対する支援を実施。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木質バイオマス燃料供給施設(3施設)の整備に対し助成予定。</li> <li>・木質バイオマス施設用の低質材(C・D材)の搬出に対する支援の実施。</li> </ul> </div>			
<p>(2) 林工連携推進プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○林業・木材関係者と工業分野、住宅分野等の他産業が連携して木材等の森林資源を活用する「林工連携」を推進するための支援体制を構築するとともに、付加価値の高い新製品の開発を支援する。</p> <p><b>【担当課】</b> 林業振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県林工連携コンソーシアムを設立し、設立記念講演会と交流会を開催(9/15)した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林工連携コンソーシアムが中心となり、林工連携による森林資源を起点とした新たな技術・製品の開発を推進するため、中小企業支援のツール(補助金等)の活用や先進事例の情報提供、ニーズの共有化など具体的な事業展開が必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林業・木材関係者と工業分野、住宅分野等の他産業が連携して木材等の森林資源を活用する林工連携を推進するための支援体制を構築。</li> <li>・林工連携による付加価値の高い新製品開発を支援。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の実績及び平成 30 年度の取組の内容</p> <p>i) 林工連携の推進体制の構築</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内連絡会議(5/31、7/12)において体制構築に向けた検討を行い、76 名の関係事業者・団体等の参加を得て山形県林工連携コンソーシアムを設立(9/15)[新]</li> <li>林業・木材産業関係事業者(34)、工業・建築等関係事業者(24)、大学・研究機関関係(7)、金融関係(4)、行政関係(7)</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①推進体制の設立</p> <p>②林工連携による新製品開発件数(H29～32の累計)</p> <p><b>【現状値】</b> [戦略策定時]</p> <p>①—</p> <p>②—</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①設立(H29)</p> <p>②3件(H29)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①設立(H29)</p> <p>運営(H30～)</p> <p>②7件(H32)</p>	<p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまがた森林ノミクス推進事業費(林工連携推進事業)</li> <li>・中小企業スーパーターナルサポ補助金(産業技術価値創出事業)(商工労働部)</li> </ul>	<p>山形県林工連携コンソーシアム</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンソーシアムの設立総会に合わせて、木材を原料とする新素材(CNF:セルロースナノファイバー)に関する記念講演会と交流会を開催(9/15)[新]</li> <li>・庁内連絡会議(10/19)において、今後の取組みについて協議。[新]</li> <li>・林工連携の推進に向けた検討のためのコンソーシアム運営委員会の開催(11/29)[新]</li> <li>・「林業現場等における新しい技術・製品の試験・開発事例」について研修会の開催(2/9)[新]</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総会及び運営委員会の開催。</li> <li>・研修会及びテーマごとの研究会の開催。</li> </ul> </div> <p>ii)新製品の開発推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林工連携ものづくり推進事業費補助金を活用した製品開発の支援を実施(6月、3件採択)[新]</li> <li>・林工連携コンソーシアムの運営委員会でコンソーシアムの事業展開等を協議(11/29)[新]</li> <li>・林工連携コンソーシアム会員の要望等の取りまとめ(12月から2月)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業スーパーTOTALサポ補助金(産業技術価値創出事業)を活用した製品開発の支援。</li> <li>・研究会等コンソーシアム事業や事業者の要望を通じて、新技術・製品の開発への支援。</li> </ul> </div>			



## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略6:「やまがた森林ノミクス」の推進

#### 戦略分野4: 特用林産～「森の恵み」を活用した中山間地域での所得向上と雇用の創出～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) やまがた山菜・きのこ日本一産地化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○日本一の「山形ブランド」の定着と産出額の向上を図るため、関係者が一体となって生産から加工、流通・販売までの総合的な取組を推進する。</p> <p><b>【主担当課】</b> 林業振興課 6次産業推進課 園芸農業推進課 農村計画課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やまがた山菜・きのこブランド化戦略」に掲げた各種施策を具現化するため、取組みの推進母体となる「山形県山菜・きのこ振興会」を6月に設立し日本一の産地化に向けた取組みに着手した。</li> <li>・促成山菜はたらのきが立枯れ症状対策や新品種「春かおり」の導入、うるいが省力体系の導入推進により産出額は横ばいとなっている。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <p>[推進体制整備]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産振興から流通・販売、観光交流まで幅広い事業を展開するため、具体的取組みの実施体制や効果的なプロモーションの実施方法等について、関係機関と調整を進めていく必要がある。</li> </ul> <p>[促成山菜]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たらのきは「春かおり」の早期多収栽培技術の開発と機械導入や改植を継続して支援する必要がある。</li> <li>・うるい、ふきのとうは、労力不足により生産拡大が鈍化していることから、省力・効率化技術の普及が必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産供給体制の整備や実需者への情報提供による需要拡大、一般消費者の認知度向上、山菜・きのこの魅力や収穫体験等の情報発信などのブランド化戦略を具現化。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 山菜・きのこの生産振興</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・促成栽培や路地栽培等の生産基盤整備を行う事業者に対し助成を実施。[拡] <ul style="list-style-type: none"> <li>・山の幸信仰対策支援事業・・・17 施設 林業振興課</li> <li>・促成山菜山地育成支援事業・・・7施設 園芸農業推進課</li> </ul> </li> <li>・山菜栽培未収益期間の管理費を支援する補助対象者に対し助成を実施(15 団体:5月～6月)[新]</li> <li>・たらのき、うるい、ふきのとう等の生産拡大や生産性向上のため、補助事業を活用し施設整備や機械導入に対する助成を実施(7件、7月採択)</li> <li>・たらのきの県オリジナル品種「春かおり」の早期多収技術の開発に向けた調査研究の実施。</li> <li>・わらび栽培の未収益期間の管理費を補助する新規事業を周知、中山間地域の農家等の申請事業を採択(5月～6月)[新]</li> <li>・たらの芽「春かおり」の栽培技術研修会を開催(10/23)</li> <li>・うるいの根株掘上機の実演研修会を開催(11 月、最上町)、ふきのとうの出荷調整の作業改善の実証を実施(2月、酒田市)</li> <li>・基盤整備や管理費支援の補助事業者への指導・助言を実施。</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b> 山菜・きのこの産出額</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b> 63 億円(H26)</p> <p><b>【直近】</b> 66 億円(H27)</p> <p><b>【目標値】</b> 74 億円(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・促成山菜産地育成支援事業費</li> <li>・山の幸振興対策支援事業費</li> <li>・山菜栽培未収益期間管理費補助事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山菜・きのこ日本一プロジェクト推進事業費</li> </ul>	<p>山形県山菜・きのこ振興会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山菜・きのこ生産者への栽培技術等を支援。</li> <li>・山菜研修会の実施(3月)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・促成栽培や路地栽培等の生産基盤整備を行う事業者に対し助成を実施。</li> <li>・基盤整備や管理費支援の補助事業者への指導・助言の実施。</li> <li>・山菜・きのこ生産者への栽培技術等の支援。</li> <li>・促成山菜の生産拡大を図るためプロジェクト会議の開催(5月、10月)</li> <li>・たらのきについて、効率的な株更新と「春かおり」の栽培技術の実証ほの設置(2か所)</li> <li>・うるいについて、省力・低コスト技術の普及にむけ実証ほ(最上町)の設置と研修会(10月)の開催。</li> <li>・ふきのとうについて、調製作業を普及する講習会と出荷期間の拡大に向けた実証ほの設置。</li> </ul> <p>ii) 山菜・きのこの流通販売の拡大及び認知度の向上</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山菜・きのこのキャッチコピーや山菜・きのこのPRグッズを作成。[新]</li> <li>・山菜・きのこの県内外への情報発信、首都圏でのやまがた「山菜・きのこ」フェアなどプロモーション活動等の実施(3月)[新]</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きのこ料理コンクールの実施とレシピの作成。</li> <li>・首都圏フェアなどでの「山菜・きのこ」のプロモーション活動等の実施。</li> <li>・たらのきについて、「春かおり」の知名度向上に向けた首都圏での販促活動の実施(2月)</li> </ul> <p>iii) 山菜・きのこによる観光・交流の拡大</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やまがた山菜・きのこブランド化戦略」に掲げた各種施策を具現化するため、取組みの推進母体となる「山形県山菜・きのこ振興会」を設立(6月)[新][再掲]</li> <li>・山菜・きのこ総合案内ホームページ開設(3月)による山菜・きのこに関する各種情報の発信と普及啓発の実施。[新][再掲] <ul style="list-style-type: none"> <li>○「やまがた山菜・きのこ」名人の登録(3月～)</li> <li>○名人のガイドによる収穫・体験イベント等の企画・情報発信(3月～)</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山菜・きのこ総合案内ホームページの拡大充実。</li> </ul>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略7:水産業のさらなる振興

#### 戦略分野1:海面漁業～海面漁業のブランド化と庄内浜産水産物の消費拡大による漁業者の所得向上～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 海面漁業生産基盤強化プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○漁業就業者の確保や持続可能な経営体の育成、老朽化した漁船や漁港施設の更新など水産関係のインフラ整備による機能回復、栽培漁業や資源管理による水産資源の維持・増大に取り組み、漁業生産基盤の強化を図る。</p> <p><b>【担当課】</b> 水産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の中学生を対象に少年水産教室を開催、加茂水産高校生を対象に底曳網及び定置網の体験漁業を実施し、水産分野への興味や漁業についての理解を深める取組みを実施した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修制度の認知度がまだ低いことから、新たな漁業就業者の確保育成に向け、漁業研修制度等の周知を図るためのPR活動等を積極的に行うとともに、新規就業者の定着率を上げるため、動機付けから独立・定着までの各段階に応じて、丁寧な支援を行うことが必要である。</li> <li>・老朽化し、性能が低下した漁船のまま操業するトップランナーがまだまだ多いことから、漁業者の生産性向上のための代船建造の支援制度の活用を積極的に図っていくことが必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業就業者の確保や持続可能な経営体の育成、老朽化した漁船や漁港施設の更新など水産関係のインフラ整備による機能強化、栽培漁業や資源管理による水産資源の維持・増大に取り組み、漁業生産基盤の強化を図る。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p style="margin-left: 20px;">i) 水産業の人材育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の進路として水産分野に興味を持ってもらうため、県内の中学生を対象に少年水産教室を開催し、96名の生徒が参加(7月～8月)</li> <li>・本県漁業についての理解を深めてもらうため、加茂水産高校生を対象に、底曳網の体験漁業を11名に実施(6月)、定置網の体験漁業を17名に実施(10月)</li> <li>・漁業就業に向け平成28年12月から1名の準備研修を実施、29年4月以降、累計7人から問い合わせがあり、うち1名が10月から準備研修を実施。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の中学生を対象に少年水産教室の開催(7月～8月)</li> <li>・加茂水産高校生を対象とした底曳網及び定置網の体験漁業の実施(6月、10月)</li> <li>・研修制度の認知度向上のため、漁業研修制度の積極的なPR活動の実施。</li> <li>・就業希望者の実情に合わせた漁業研修等の新規・独立就業支援の実施。</li> <li>・生産、流通、加工など水産業に係る担い手の確保・育成対策を検討する協議会の運営。</li> </ul> </div> <p style="margin-left: 20px;">ii) 漁業のトップランナーの育成</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の取組実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業の生産性の維持・向上により所得の向上を図るため、代船建造に支援を行い、基幹漁業である底曳き網漁船2隻、はえ縄漁船2隻が竣工。</li> <li>・はえ縄漁船1隻、採介藻漁業者1隻の代船建造に対し支援を実施し、12月竣工。</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①漁業の新規就業者数(4年間の累計)</li> <li>②トップランナー(漁業所得400万円以上の経営体)数</li> <li>③漁業試験調査船「最上丸」新船建造</li> </ol> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①51人(H24～27)</li> <li>②23経営体(H27)</li> <li>③25年経過(H28)</li> </ol> <p><b>【直近】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①37人(H26～29)</li> <li>②35経営体(H28)</li> <li>③基本設計完了(H29)</li> </ol> <p><b>【目標値】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①70人(H32)</li> <li>②43経営体(H32)</li> <li>③基本設計(H29)着工(H30)竣工(H31)</li> </ol>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続的漁業経営支援事業費</li> <li>・試験調査船新造事業費</li> <li>・栽培漁業振興事業費</li> <li>・漁港・漁場整備事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沿岸漁業振興調査事業費</li> <li>・漁業生産体制強化対策事業費</li> <li>・新規漁業就業者総合支援対策事業費</li> <li>・栽培漁業センター管理運営費</li> <li>・栽培漁業振興事業費</li> <li>・水産多面的機能発揮対策推進事業費</li> </ul>	<p>栽培漁業推進検討会</p> <p>山形県水産業の担い手育成プロジェクト会議(仮称)</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>【平成 30 年度の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、代船建造への支援を実施予定。</li> </ul> <p>iii) 漁場環境の保全と水産資源の維持・増大</p> <p>【平成 29 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡市、酒田市及び遊佐町の活動組織が行う藻場保全の取組みを国及び関係市町と連携して、事業費に対する負担金の分担や支援・助言等の技術支援等を実施。</li> <li>・来年度から新たに藻場保全活動を予定している鶴岡市堅苔沢地区の活動計画や組織の立ち上げへの指導助言を実施。</li> <li>・気象変動等や磯焼けなど漁場環境の変化に対応した漁場整備と種苗放流による栽培漁業や休漁日の設定、小型魚保護による資源管理を実施。</li> </ul> <p>【平成 30 年度の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーや専門家の助言指導を適宜取り入れ、漁場環境の保全にかかる活動内容の充実を図る。</li> </ul> <p>iv) 漁業試験調査船「最上丸」の新船建造など水産関係インフラの維持整備</p> <p>【平成 29 年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業試験調査船「最上丸」の概略設計が完了。</li> <li>・漁港施設、共同利用施設、無線関連などの漁業インフラの維持整備。</li> <li>・漁業者の所得向上につながる効果的・効率的な漁業に向けた調査研究を推進するための「最上丸」の新船建造(基本設計、建造請負の入札公告)</li> </ul> <p>【平成 30 年度の取組予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業試験調査船「最上丸」の建造着手。</li> <li>・酒田漁業無線局の無線関連機器の維持整備に着手。</li> </ul>			
<p>(2) 県産水産物付加価値向上推進プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】</p> <p>○鮮度保持技術や蓄養技術を活用した「庄内おばこサワラ」に続く新たな山形ブランドの創出による県産水産物の付加価値向上に取り組む。</p> <p>【担当課】</p> <p>水産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内浜ブランド創出協議会とその下に3つの部会を設置し、ブランド化を推進しているサワラとトラフグのキャンペーンを実施するため、料理人向けの調理講習会を開催した。</li> <li>・マダイの単価増に向けた販売戦略を検討するため、季節ごとの品質データを蓄積した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内浜ブランド創出協議会及び同協議会に部会を設置し、ブランド化のための体制整備が進んだことから、今後、ブランド化に向けた具体的な取組みを推進する必要がある。</li> <li>・地元料理人向けの講習会は参加者からの評価が高く、来年度も継続して開催することを検討しているが、サワラのブランド力向上、トラフグのブランド化の推進のため、継続的な料理人の育成、地元での食文化の醸成、安定供給体制の構築が必要である。</li> <li>・庄内おばこサワラは地元での認知度が未だ低いため、地元定着に向けた取組みが必要である。また、品質が個体や時期により異なることから、高品質の安定化を図るため、築地市場と連携した販売戦略の検討が必要である。</li> <li>・マダイの販売単価は低迷していることから、品質向上による単価上昇を実現するため、収集したデータから季節ごとの戦略の検討が必要である。</li> </ul>	<p>【目標指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①海面漁業・養殖業生産額</li> <li>②水産物平均単価</li> <li>③「庄内おばこサワラ」の平均単価</li> </ol> <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①24 億円 (H26)</li> <li>②450 円/kg (H27)</li> <li>③1,450 円/kg (H27)</li> </ol> <p>【直近】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①27 億円 (H27)</li> <li>②572 円/kg (H28)</li> </ol>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内浜トップブランド水産物創出事業費</li> <li>・大型クロマグロ漁獲実証事業費</li> </ul>	<p>庄内浜ブランド創出協議会</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鮮度保持技術や蓄養技術を活用した「庄内おばこサワラ」に続く新たな山形ブランドの創出による県産水産物の付加価値向上を推進。</li> </ul> <p>④平成29年度の主な取組実績及び平成30年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 新たなトップブランド水産物の創出</p> <div data-bbox="385 368 1364 703" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内浜ブランド創出協議会設立総会・第1回協議会を開催(5/12)</li> <li>・「サワラ」、「トラフグ」の2部会を設置(9/2)、「ブランド化検討部会」を設置(9/29)</li> <li>・第2回サワラ及びトラフグ部会を開催(9/22)</li> <li>・第2回協議会を開催(10/3)</li> <li>・庄内おばこサワラキャンペーンを開催(10/27～12/3)</li> <li>・平成30年度に脂質含有量によってランク分けした出荷体制を構築するための、試験出荷を実施。</li> <li>・庄内浜天然とらふぐキャンペーンを開催(12/7～2/28)</li> <li>・第3回協議会(3/20)</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 703 1364 874" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内おばこサワラ及びトラフグ等のキャンペーンについて、実施内容の充実を図って開催。</li> <li>・庄内おばこサワラの高品質化と、販売戦略の検討及び試験販売の実施。</li> <li>・マフグを含むふぐ食文化醸成に向けた取組みの推進。</li> <li>・ブランド化検討部会における新たなブランド化候補魚種の検討とブランド化の推進。</li> </ul> </div> <p>ii) 鮮度保持技術及び蓄養技術の推進</p> <div data-bbox="385 919 1364 1121" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マダイ身質(pH、硬度、身の色、脂質、K値)の季節データを収集(夏・秋期分)。※冬期分は悪天候のため操業が無く欠測。次年度へ繰越し。</li> <li>・活越技術の導入(12月～2月)による鮮度保持技術の高度化と品質向上のための技術開発支援の実施。</li> <li>・魚価の安定化につながる出荷調整を可能にする蓄養技術の活用への支援を実施。</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1121 1364 1257" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マダイ身質(pH、硬度、身の色、脂質、K値)の季節データを漁業種類別に収集。</li> <li>・活越技術の導入による鮮度保持技術の高度化と品質向上のための技術開発支援等。</li> <li>・魚価の安定化につながる出荷調整を可能にする蓄養技術の活用への支援。</li> </ul> </div> <p>iii) 大型クロマグロの漁獲の安定化</p> <div data-bbox="385 1302 1364 1406" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成29年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月～6月に改良漁具による大型クロマグロ新規漁場開拓試験を実施。</li> <li>・10月に大型クロマグロの安定的な漁獲に向けた漁具改良試験を実施(3回)</li> </ul> </div> <div data-bbox="385 1406 1364 1500" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成30年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水試で開発した改良漁具を使用した漁業者船による新規漁場開拓試験の実施(7月、延べ6回)</li> </ul> </div>	<p>③2,207円/kg(H29)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①33億円(H32)</p> <p>②590円/kg(H32)</p> <p>③2,000円/kg(H32)</p>		



プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>・10・11月に大型クロマグロの安定的な漁獲に向けた漁具改良試験の実施(5回)</p> <p>iv) 養殖の活性化</p> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊佐町におけるアワビ陸上養殖に対し技術的な支援を実施。</li> <li>・水産物の安定供給のための「一口アワビ」など新たな魚介類等の養殖を推進。</li> </ul> <p>【平成30年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊佐町におけるアワビ陸上養殖に対する技術的な支援の実施。</li> </ul>			
<p>(3) 県産水産物利用 拡大プロジェクト</p> <p>【プロジェクトの方向性】 ○「庄内浜の魚消費拡大総合プロジェクト」の展開により、県内消費の拡大に向けた積極的な情報発信とPRの強化、魚料理の良さを知る機会の提供による魚食普及の推進に取り組む。</p> <p>【主担当課】 水産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内浜産水産物の認知度向上と消費拡大に関するプロジェクトを効果的に推進するため、漁業者や流通関係者、県、沿岸市町などで構成される「庄内浜の魚消費拡大総合プロジェクト推進本部」を設立し、関係者が一体となり、県内における県産水産物の利用拡大を推進した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしい山形旬の魚キャンペーン等のプロモーションにより、内陸部での認知度向上が図られたが、更に消費拡大を目指すため、時化等による鮮魚不足に対応できる安定供給策を検討、推進する必要がある。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成30年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「庄内浜の魚消費拡大総合プロジェクト」の展開により、県内消費の拡大に向けた積極的な情報発信とPRの強化、魚料理の良さを知る機会の提供による魚食普及を推進。</li> <li>・観光分野との連携により、県内外に向けた情報発信とPRを強化。</li> </ul> <p>④平成29年度の実績及び平成30年度の実績の内容</p> <p>i) 県内における認知度向上及び消費拡大</p> <p>【平成29年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしい山形旬の魚キャンペーンオープニングイベント(5/12、山形市公設地方卸売)にて市場関係者へPRを実施。</li> <li>・「やまがた庄内浜の魚応援店」を拡充(新規加入 31 店舗 平成29年度末現在 全 123 店舗)</li> <li>・おいしい山形春の旬の魚キャンペーンを実施(5/12～6/30)</li> <li>・山形まるごと館紅の蔵十日市においてPRを実施(6/10)</li> <li>・おいしい山形秋の旬の魚キャンペーン・応援店スタンプラリーを実施(9/15～11/30)</li> <li>・庄内浜文化伝道師認定試験を実施(認定者数 全 268 名) 第1次(筆記)試験 9/23、第2次(調理実技)試験 10/28、合格者 23 名。</li> <li>・山形市の霞城セントラル・アトリウムにおいて第2回庄内浜魚まつり in 山形を開催(10/22)</li> <li>・庄内地域においてやまがた庄内浜の魚応援店と漁業者との交流会を実施(10/30)</li> <li>・山形市の霞城セントラル・アトリウムにおいて第2回寒鱈まつり in 山形を開催(1/28)</li> <li>・山形まるごと館紅の蔵十日市においてPRを実施(2/10)</li> <li>・庄内浜の魚流通検討部会において、応援店、流通関係者を対象とした「食の安全」講習会を実施(3/15)</li> </ul>	<p>【目標指標】</p> <p>①県内内陸部における庄内浜産水産物の流通比率</p> <p>②低利用魚の平均単価</p> <p>【現状値】</p> <p>【戦略策定時】</p> <p>①10.5%(H25～28の平均)</p> <p>②270円/kg(H27)</p> <p>【直近】</p> <p>①7.1%(H29)</p> <p>②256円/kg(H29)</p> <p>【目標値】</p> <p>①15.0%(H32)</p> <p>②350円/kg(H32)</p>	<p>【ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庄内浜産水産物安定供給推進事業費</li> <li>・県産水産物販売力強化事業費</li> <li>・庄内浜の魚消費拡大事業費</li> <li>・庄内文化伝道師による魚食普及事業費</li> </ul> <p>など</p>	<p>庄内浜の魚消費 拡大総合プロジェクト推進本部</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内全域において、魚食普及に向け庄内浜文化伝道師による料理教室(伝道師講座)を開催(36回)</li> <li>・県内全域において、伝道師や漁業者が講師となり、小学校において「出張お魚教室」を開催(3回)</li> <li>・伝道師の調理技術や知識の向上のため、体験漁業(1回)及びレベルアップ講座(1回)を実施。</li> <li>・伝道師協会の広報活動として酒田 FM ハーバーラジオでの番組放送(毎週火曜日放送)</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内陸における魚まつりや寒鰯まつり等のイベントの開催。</li> <li>・「やまがた庄内浜の魚応援店」の募集を内陸全地区に拡大し、継続して活動を展開。</li> <li>・おいしい山形旬の魚キャンペーン・応援店スタンプラリーや、庄内浜魚まつり、寒鰯まつり等、県内陸部での効果的な庄内浜産水産物のプロモーションの継続実施。</li> <li>・平成 30 年 10 月より開催される「新潟県・庄内エリアプレDC」に向け、「食の都庄内」や観光分野等と連携して、庄内浜産水産物の魅力を県内外に向けて発信(観光分野との連携による県内外に向けたPRの強化)</li> <li>・応援店と漁業者との交流会の開催による両者のマッチングの支援。</li> <li>・魚食普及のための庄内浜文化伝道師による料理教室(伝道師講座)や「出張お魚教室」の継続により魚食普及を図るとともに、地域と連携して伝道師の活躍の場を広める取組みを推進。</li> <li>・伝道師の育成研修会の開催。</li> <li>・伝道師によるラジオ放送を活用した魚食普及広報活動の実施。</li> <li>・山形県漁協由良水産加工場での急速冷凍商品開発及び販路開拓への支援により、庄内浜産水産物の安定供給体制を構築(安定供給体制の構築に向けた支援)</li> </ul> <p>ii) 低利用魚を活用した水産加工品製造・販売の支援</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁家女性による先進地視察を実施(7/4～5)</li> <li>・やまがた庄内浜の魚応援店と漁業者との交流会において漁業者による急速冷凍加工品の試食求評会を実施(10/30)</li> <li>・漁家女性向け交流研修会・料理教室を実施(2/8)</li> <li>・漁家共同加工場の整備に向けた漁家女性のグループ化を支援。</li> <li>・量販店等への販路開拓を支援。</li> <li>・「庄内海丸」の運営支援。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低利用魚を活用した水産加工品を製造・販売するための、漁家女性のグループ化による6次産業化への支援や販売力強化に向けた研修会の開催。</li> <li>・冷凍加工商品の開発及び販路開拓への支援による、庄内浜産水産物の安定供給体制の構築(安定供給体制の構築に向けた支援)</li> </ul>			

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成 29 年度の取組実績と平成 30 年度の取組予定

### 基本戦略7:水産業のさらなる振興

#### 戦略分野2:内水面漁業～内水面漁業振興による地域活性化～

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
<p>(1) 内水面漁業振興プロジェクト</p> <p><b>【プロジェクトの方向性】</b> ○観光を含む地域振興と連携した遊漁者の拡大等により内水面漁業の経営基盤を安定化させるとともに、水産資源の維持・増大、カワウ・ブラックバス等による漁業被害の低減、新しいニーズに対応する大型ブランドマスの開発及び普及に取り組む。</p> <p><b>【担当課】</b> 水産振興課</p>	<p>①前年度までの主な取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10 漁協が内水面漁業振興補助事業を活用して遊漁者や小学生等との協働活動を実施し、ブラックバスの駆除釣りや川遊び体験等の活動を行った。</li> <li>・内水連等が魚類生息環境保全対策事業費を活用してカワウ・ブラックバスの駆除活動を実施した。</li> <li>・新たに小国町の養殖業者へブランドマス種苗を提供して試験飼育を開始した。</li> </ul> <p>②評価・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊漁者や組合員増加のため内水面漁業振興補助事業を活用した事業を継続・拡充が必要である。</li> <li>・カワウ・ブラックバスによる漁業被害低減のため、今後も漁協等が実施する駆除活動への支援が必要である。</li> <li>・山形独自のブランドマスを普及するため、生産に取り組む養殖業者の増加が必要である。</li> </ul> <p>③今後の推進方向等(平成 30 年度の推進方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光を含む地域振興と連携した遊漁者の拡大等により内水面漁業の経営基盤を安定させるとともに、水産資源の維持・増大、カワウ・ブラックバス等による漁業被害の低減、新しいニーズに対応する大型ブランドマスの開発及び普及、若年層の遊漁者増加のためダム湖上流域におけるアユのルアー釣りを推進する。</li> </ul> <p>④平成 29 年度の主な取組実績及び平成 30 年度の主な取組みの内容</p> <p>i) 遊漁者の増加対策</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10 漁協が内水面漁業振興補助事業を活用して遊漁者等との協働活動によりブラックバスの駆除釣りや小学生等による川遊び体験学習等を実施。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダム湖上流域に新たに造成したアユ漁場における若者や初心者が取組みやすいルアー釣り普及の支援。[新]</li> </ul> </div> <p>ii) 魚の棲み良い環境整備</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カワウワーキンググループ会議を開催(5/26)、今年度の営巣状況を共有し対策を検討。</li> <li>・内水面漁業における被害額を算出するため、カワウの胃内容物を分析。</li> <li>・山形市と尾花沢市の湖沼におけるブラックバスの駆除活動に対し、指導・助言を行うとともに、被害状況の把握のため、駆除したブラックバスの胃内容物を分析。</li> <li>・降雨等による濁水の影響を受け難いアユの新たな漁場(ダム湖上流部等)の拡大を実施。</li> <li>・カワウやブラックバス等の漁業障害生物対策の強化(カワウ個体数の減少に向けた検討会</li> </ul> </div>	<p><b>【目標指標】</b></p> <p>①内水面漁業生産額 ②県内水面漁協の遊漁証枚数(単協分) ③オリジナル大型ブランドマスの養殖取組み民間生産者数</p> <p><b>【現状値】</b> <b>【戦略策定時】</b></p> <p>①8.3 億円(H26) ②12,310 枚(H27) ③2経営体(H28)</p> <p><b>【直近】</b></p> <p>①7.8 億円(H28) ②14,095 枚(H28) ③3経営体(H29)</p> <p><b>【目標値】</b></p> <p>①9.2 億円(H32) ②17,000 枚(H32) ③5経営体(H32)</p>	<p><b>【ハード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サケ・マス振興事業費</li> </ul> <p><b>【ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚類生息環境保全対策事業費</li> <li>・サケ・マス振興事業費</li> <li>・最上小国川流域内水面漁業振興事業費(研修)</li> <li>・内水面漁業振興事業費</li> <li>・新規アユ漁場の活用モデル実証事業費</li> <li>・さくらます増殖施設管理運営費</li> </ul>	<p>山形県カワウ連絡協議会</p> <p>カワウワーキンググループ会議</p>

プロジェクト名	H29 取組実績と評価、H30 取組予定等	目標指標	主な推進事業予算	推進組織・会議
	<p>や漁協等が実施する対策への支援、ブラックバス等の再放流禁止の啓発等による個体数の減少)を実施。</p> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カワウワーキンググループ会議およびカワウ連絡協議会を開催し県内全域における情報共有と対策の検討。</li> <li>・カワウ・ブラックバスの駆除活動に対し指導・助言を行うとともに、漁業被害の把握のためカワウ・ブラックバスの胃内容物を分析。</li> </ul> <p>iii)オリジナル大型ブランドマスの開発</p> <p><b>【平成 29 年度の実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に新たに種苗生産したブランドマスの飼育試験を継続して実施。</li> <li>・新たに小国町の養殖業者にブランドマス種苗を試験提供。</li> <li>・ブランドとなるサケマス淡水養殖品種の技術開発と普及を実施。</li> </ul> <p><b>【平成 30 年度の取組予定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間業者におけるブランドマス試験飼育の拡大。</li> <li>・高品質なブランドマスを安定生産するためのマニュアル等の作成。</li> </ul>			

